



Mira e:S

取扱説明書(抜粋版)

ダイハツ取扱説明書アプリのご案内

iPhone 用

App Store
からダウンロード

Android™ 用

Google Play
で手に入れよう

スマートフォンでご覧いただけるアプリをご提供しています。

ビジュアルから各部の使い方がわかるなど便利な機能を搭載しています。

- アプリケーションは iPhone または Android でご利用いただけます。
- Apple、Apple のロゴ、iPhone は、米国およびその他の国で登録された Apple Inc. の商標です。
- App Store は Apple Inc. のサービスマークです。
- iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- Android、Android ロゴ、Google Play、Google Play ロゴは、Google LLC の商標または登録商標です。

車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。

もくじ

ページ

各部の名称	2
安全上のご注意	12
お子さまを乗せるときのご注意	25
シートベルト、SRS エアバッグについて	36
セキュリティ機能	44
運転支援装置について	48
ABS、VSC、TRC	48
ヒルホールドシステム	49
スマートアシストⅢ	49
コーナセンサ	67
エマージェンシーストップシグナル	70
eco IDLE (エコアイドル)	70
キーフリーシステムについて	76

ドアの開閉	80
シートの使いかた	83
メーター	85
スイッチの使いかた	96
エアコンの使いかた	107
オーディオの使いかた	109
装備品の使いかた	110

消耗品の補給、交換	114
簡単な点検・部品の交換	115
サービスデータ	裏表紙

警告灯、表示灯が点灯したとき	132
いざというときの処置	144

ハンドルロックが解除できないとき	144
電子カードキーが使用できないとき	144
エンジンがかからないとき	146
タイヤがパンクしたとき	146
スタック（立ち往生）したとき	159
バックドアが開かないとき	159
バッテリーがあがったとき	160
オーバーヒートしたとき	161
車両を緊急停止するには	162
水没・冠水したときは	163
車中泊が必要なときは	164

確認・準備

使いかた

手入れ

困ったときは

本書は安全に関する情報、万一の場合に必要な情報を抜粋した取扱説明書です。
基本的な操作は、別冊の「クイックガイド」に記載しています。
さらに詳しい取り扱い情報は、スマートフォンでご覧いただける「ダイハツ取扱説明書アプリ」、または「取扱説明書（詳細版）」に記載しています。
お車に乗られる際には、別冊の「クイックガイド」、「ダイハツ取扱説明書アプリ」、または「取扱説明書（詳細版）」も併せてお読みください。

▼取扱説明書（詳細版）のご案内

ダイハツ工業株式会社ホームページにて、取扱説明書（詳細版）を電子データ形式でご提供しています。

取扱説明書の提供ページで「Mira e:S」を選択し、閲覧してください。

取扱説明書の提供ページ

<https://www.daihatsu.co.jp/service/torisetu/index.htm>

なお、取扱説明書（詳細版）の紙書籍をご用意しています。

ご購入を希望される方は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

本書掲載のマーク

本文中に記載されているマークの意味は次の通りです。

 警告	お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
 注意	お守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
 知識	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。
オプション/グレード別装備	オプション、またはグレードなどにより、装備の有無の異なる項目です。

確認・準備

各部の名称

外観	2
内装	4
運転席まわり	8
警告灯・表示灯	10

安全上のご注意

走行する前に	12
エンジンをかけるときは	13
走行しているときは	13
駐停車するときは	14
こんなときは	15
知っておいていただきたいこと	17
正しい運転姿勢	19
運転をする前に	19
運転するときの注意事項	20
パワーウインド	20
給油	21
ルームミラー	22
ドアミラー	22
チルトステアリング	22
駐車ブレーキ	22
シフトレバー	22
日常の手入れ	23
積雪、寒冷時の取り扱い	23

発炎筒	24
けん引されるとき	24

お子さまを乗せるときのご注意

お子さまを乗せるときは	25
お子さま専用シート	26

シートベルト、

SRS エアバッグについて

シートベルト	36
SRS エアバッグ	39

セキュリティ機能

イモビライザー機能	44
セキュリティアラーム	44

運転支援装置について

ABS、VSC、TRC	48
ヒルホールドシステム	49
スマートアシストⅢ	49
コーナースエンサー	67
エマージェンシーストップ シグナル	70
eco IDLE (エコアイドル)	70

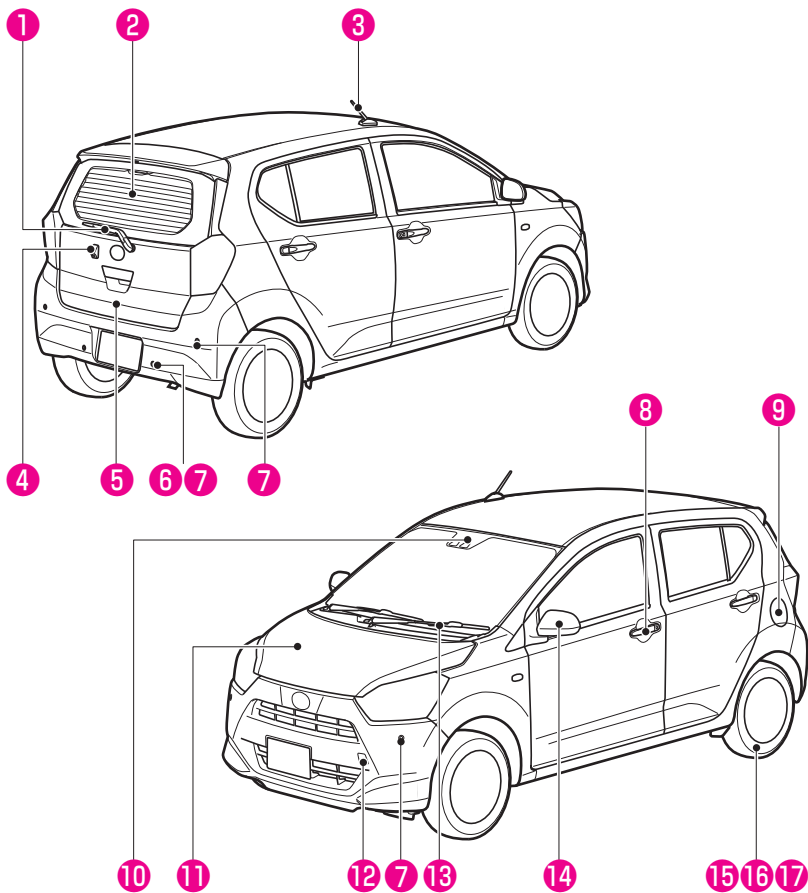
キーフリーシステムについて

キーフリーシステム	76
-----------	----

各部の名称

■ 外観

グレードの違い、メーカーオプションも記載しています。

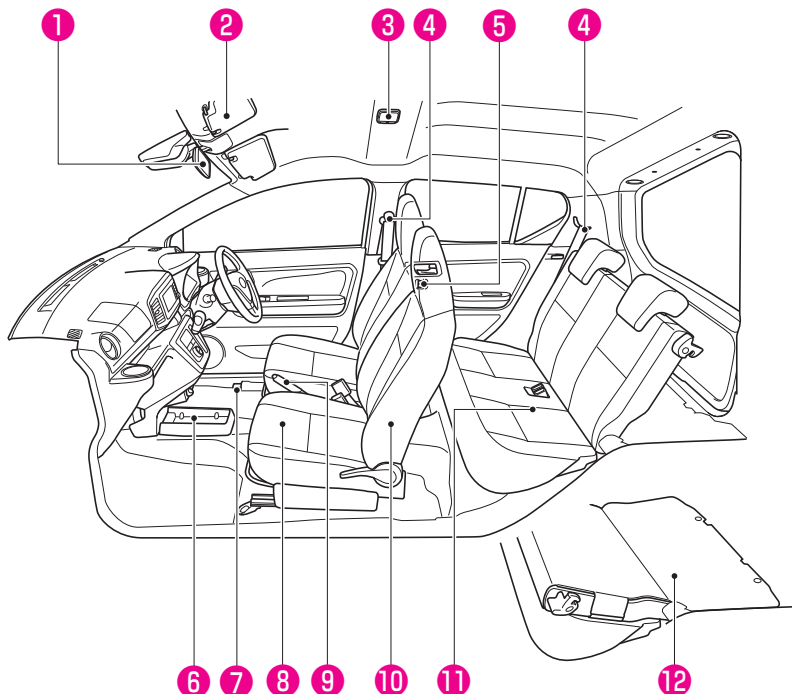


① リヤワイパー	100
② リヤウインドデフォッガー	
③ ルーフアンテナ	
④ バックカメラ	109
⑤ バックドア	81
⑥ ソナー	52
⑦ コーナーセンサー	67
⑧ ドアの開閉	80
⑨ フューエルリッド	21
⑩ ステレオカメラ	51
⑪ ボンネット	114
⑫ けん引フック	
⑬ フロントワイパー	100
⑭ ドアミラー	22
⑮ タイヤの交換	116
⑯ タイヤローテーション	
⑰ タイヤパンク応急修理セット	148

内装

内装（１）

グレードの違い、注文装備も記載しています。



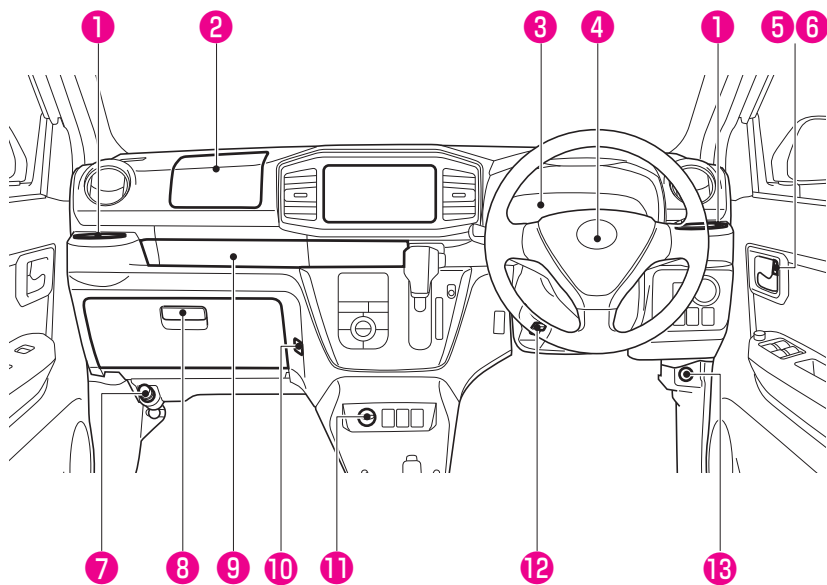
助手席にベビーシートを取り付けたり、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。
衝突時などに生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

（チャイルドシートの固定のしかた→31ページ）

① ルームミラー	22
② サンバイザー	110
③ ルームランプ	
④ シートベルト	36
⑤ パワーウインドスイッチ	20
⑥ センターフロアトレイ	110
⑦ フューエルリッドオープナー	21
⑧ フロントシート	83
⑨ 駐車ブレーキ	22
⑩ SRS サイドエアバッグ	39
⑪ リヤシート	83
⑫ ビジネスデッキボード	111

■ 内装 (2)

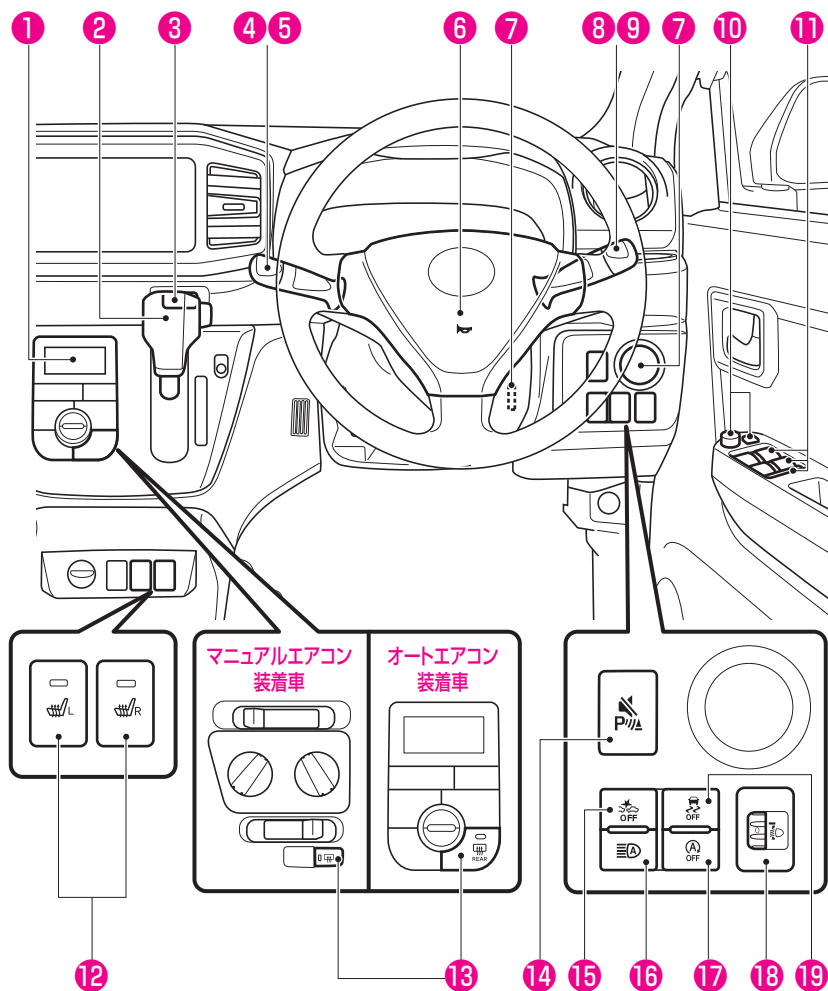
グレードの違い、メーカーオプションも記載しています。



① ドリンクホルダー	110
② 助手席 SRS エアバッグ	39
③ メーター	85
④ 運転席 SRS エアバッグ	39
⑤ 車内からの施錠・解錠	
⑥ パワードアロック	
⑦ 発炎筒	24
⑧ グローブボックス	
⑨ インパネロングアッパートレイ（助手席）	110
⑩ ショッピングフック	
⑪ アクセサリーソケット	
⑫ チルトステアリングレバー	22
⑬ ボンネットオープナー	

運転席まわり

グレードの違い、メーカーオプションも記載しています。



① エアコン	
マニュアルエアコン	107
オートエアコン	108
② シフトレバー	22
③ 非常点滅灯スイッチ	
④ フロントワイパー・ウォッシャースイッチ	100
⑤ リヤワイパー・ウォッシャースイッチ	100
⑥ ホーンスイッチ	
⑦ エンジンスイッチ	
プッシュボタンスタートスイッチ	101
キー差し込みタイプ	
⑧ ランプスイッチ	96
⑨ 方向指示スイッチ	101
⑩ ドアミラースイッチ	
⑪ パワーウインドスイッチ	20
⑫ シートヒータースイッチ	106
⑬ リヤウインドデフォグガースイッチ	
⑭ コーナーセンサーブザー OFF スイッチ	104
⑮ スマートアシスト OFF スイッチ	103
⑯ オートハイビームスイッチ	97
⑰ eco IDLE OFF スイッチ	104
⑱ ヘッドランプマニュアルレベリングスイッチ	105
⑲ VSC & TRC OFF スイッチ	103

警告灯・表示灯

警告灯一覧

グレードの違い、メーカーオプションも記載しています。

	ブレーキ警告灯 134		マスターウォーニング 138
	ABS 警告灯 136		スマートアシスト OFF 表示灯 64
	充電警告灯 133		車線逸脱警報 OFF 表示灯 64
	油圧警告灯 133		スマートアシスト故障警告灯 64
	水温警告灯（赤色） 134		スマートアシスト停止警告灯 65
	エンジン警告灯 133		コーナースエンサー表示灯 69
	SRS エアバッグ警告灯 137		半ドア警告灯 136
	電動パワーステアリング警告灯 138		燃料残量警告灯 136
	VSC&TRC 警告灯 138		eco IDLE 表示灯（高速点滅） 74
	eco IDLE OFF 表示灯（点滅） 74		シートベルト締め忘れ警告灯 135
	CVT 警告灯 135		駐車ブレーキ未解除警告灯 133
	オートハイビーム警告灯 99		

表示灯一覧

グレードの違い、メーカーオプションも記載しています。

	方向指示表示灯・ 非常点滅表示灯…………… 139		車線逸脱警報 OFF 表示灯 …………… 64
	ヘッドランプ上向き表示灯 …………… 140		ブレーキオーバーライド システム表示灯…………… 142
	水温表示灯（青色） …… 140		オートハイビーム作動灯 （緑色）…………… 99
	セキュリティインジケータ …………… 140		コーナーセンサー表示灯 …………… 69
	テールインジケータ …………… 140		コーナーセンサブザー OFF 表示灯 …………… 69
	スリップインジケータ …………… 141		
	VSC OFF 表示灯 …………… 141		
	TRC OFF 表示灯 …………… 141		
	eco IDLE 表示灯 …………… 74		
	eco IDLE OFF 表示灯 …………… 74		
	スマートアシスト作動灯 …………… 63		
	スマートアシスト OFF 表示灯 …………… 64		
	車線逸脱警報作動灯（点滅） …………… 64		

安全上のご注意

走行する前に

シートベルトは乗員全員が必ず着用してください

「正しいシートベルトの着用」をよくお読みいただき、正しく着用してください。

(正しいシートベルトの着用→36ページ)

危険物は持ち込まないでください

車内や荷室内には、ガソリン、灯油、シンナーなどの引火物の入った容器やスプレー缶類を持ち込まないでください。蒸発ガスに引火したり容器が破損すると非常に危険です。

運転席足元に物を置かないでください

走行中に空缶などの動きやすい物を足元に置くと、ブレーキペダルの下に挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルが戻らなくなるなどのおそれがあり危険です。

荷物を積み過ぎないでください

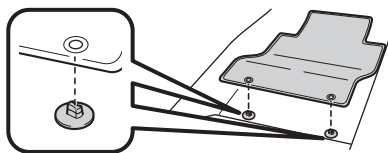
- 助手席に荷物を積み重ねないでください。視界をさまたげたり、ブレーキをかけたときや旋回しているときに荷物が飛び出して体に当たるなどして、思わぬけがや事故につながるおそれがあり危険です。
- 重い荷物を積み過ぎないでください。車両や走行に悪い影響をおよぼし、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

フロアマットはこの車（年式）専用のダイハツ純正品を使用してください

- 運転席にフロアマットを使用するときは、次の項目を必ず守って正しく装着してください。これらを守らないと、ブレーキペダルやアクセルペダルにフロアマットが引っかかり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



- この車（年式）専用のダイハツ純正品を使用してください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 付属の取付要領書にしたがって正しく装着してください。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- ずれないようにフロアマット付属の専用クリップで必ず固定してください。固定フックの形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返ししたりして使用しないでください。



- クリップの破損などにより、フロアマットが固定できなくなったときは、すみやかにフロアマットの使用を中止してください。
- 運転する前に、次のことを確認してください。

- フロアマットがすべての固定クリップで正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行ってください。
- エンジンを停止状態にして、シフトレバーが“P”レンジの位置で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

エンジンをかけるときは

排気ガスにご注意ください

- 排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、次のことをお守りください。お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。
- 車内に排気ガスが侵入してきたと感じたらすぐに換気をし、車内に新鮮な空気を入れてください。
- 換気の悪い場所（車庫など、周囲が閉鎖された場所）でエンジンをかけたままにしないでください。換気が不十分になり、一酸化炭素中毒事故を起こす危険があります。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。やむを得ないときは、開かれた場所に停車し、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の異常（腐食による穴や亀裂など）または排気音の異常などに気付いたときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。そのまま走行すると排気ガスが車内に侵入するおそれがあり危険です。
- 走行中はバックドアを閉じてください。バックドアを閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- 雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。

走行しているときは

走行中はエンジンを止めないでください

走行中にエンジンを止めると、次のような現象が起こるおそれがあります。

- ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるため、ブレーキの効きが悪くなり、事故につながるおそれがあり危険です。
- 各警告灯が作用しなくなります。
- ハンドル操作が重くなります。
- 触媒装置を損傷するおそれがあります。

万一、お車が止まらなくなったときの非常時は、車両の緊急停止方法にしたがってください。

（車両を緊急停止するには→162ページ）

下り坂ではエンジンブレーキを併用してください

長い下り坂や急な下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱して、ブレーキの効きが悪くなり危険です。

路面状態やスピードに応じてシフトダウンしてエンジンブレーキを併用しましょう。

- シフトレバーを“S”レンジに入れる
また、より強いエンジンブレーキが必要な場合は“B”レンジに入れる

その際には、急激なエンジンブレーキ（シフトレバー操作）をさけてください。タイヤをロックさせ、スリップなどの原因となり、事故につながるおそれがあり危険です。

また、ぬれた路面や積雪路、凍結路などのスリップしやすい路面では、十分速度を落としてエンジンブレーキを使用してください。

エンジンブレーキ

エンジンブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキのことです。低速ギヤになるほどよく効きます。

冠水した道路を走行しないでください

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。

万一、水中に浸かってしまったときは、必ずダイハツサービス工場で点検を受けてください。

洗車後や水たまりを走行したあとはブレーキの効きを確認してください

- ブレーキパッドがぬれていると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常にはたらくことを確認してください。

正しいシート位置で走行してください

シートを倒した状態で人を乗せたまま走行しないでください。

また、リヤシートの背もたれを前倒した状態で荷室に人を乗せての走行もしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

人を乗せて走行するときは必ず通常のシート位置で走行してください。

(正しい運転姿勢→19ページ)

ハンドルの中からの操作をしないでください

走行中にはハンドルの中に手を入れて、スイッチなどの操作をしないでください。ハンドル操作のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

「急」の付く運転はしないでください

急激なハンドル操作、急発進、急加速、急ブレーキや急激なエンジンブレーキなど「急」の付く運転はさけてください。

窓から手や顔などを出さないでください

窓から身を乗り出したり、手や顔を絶対に出さないでください。思わぬけがをするおそれがあります。

駐停車するときは

燃えやすい物のそばにお車を止めないでください

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物（枯草・紙・木材など）があると、火災につながるおそれがあり危険です。お車の後方に可燃物があるときは、車両後端を 30cm 以上離して止めてください。

隙間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災につながるおそれがあり危険です。また、可燃物（枯草・紙・木材など）の上で走行したり、お車を止めたりしないでください。

お車から離れるときに注意していただきたいこと

お車から離れるときは、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、必ずドアを施錠してください。お車が動き出したり、車両盗難、貴重品盗難のおそれがあります。

また、お子さまのみを車内に残してお車から離れないでください。炎天下での車内の温度は、想像以上に高くなり危険です。

仮眠するときは必ずエンジンを止めてください

エンジンがかかった状態のままで仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、お車の不意な発進やエンジン過熱による火災など、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

また、風通しの良くない所や風向きによっては排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあります。

高速道路で停車するときに注意していただきたいこと

高速道路で、故障などのためやむを得ず停車するときは道路の端によせ、必ず停止表示板（停止表示灯）を置いてください。

万一のために停止表示板（停止表示灯）はお車に常備しましょう。高速道路では停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務付けられています。

高温になっている場所には触れないでください

- 荷物の積み降ろし時などに、手や足が排気管に触れないようにしてください。エンジンがかかっているときやエンジン停止直後の排気管は高温になっているため、やけどをするおそれがあります。
- タイヤ交換時などに、ディスクホイールやブレーキ回りに触れないようにしてください。走行後のディスクホイールやブレーキ回りは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。

お車が雪で覆われたときに注意していたきたいこと

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態で車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

こんなときは

警告灯が点灯、点滅したとき

警告灯類が異常を知らせたとき、そのまま走行すると危険な場合があります。安全な場所に停車し、正しい処置を行ってください。

(警告灯→133ページ)

オーバーヒートしたとき

水温警告灯が赤色に点滅・点灯して、警告ブザーが鳴ったときは、オーバーヒートが考えられます。そのときボンネットから蒸気が出ている場合は、絶対にボンネットを開けないでください。

また、あわててラジエーターキャップを外さないでください。熱湯が吹き出し、やけどをするおそれがあります。

(オーバーヒートしたとき→161ページ)

インストールしたとき

落ち着いて操作してください。

ブレーキの倍力装置やパワーステアリング装置が作動しなくなり、ブレーキの効が悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。この場合、通常より強い力でハンドルやブレーキを操作してください。

床下に強い衝撃を感じたとき

車体の床下に強い衝撃を感じたときは、すぐに安全な場所にお車を停車し、下回りを点検してください。

ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などが見つかった場合はそのまま運転すると思わぬ事故につながるおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

いつもと違うとき

地面に油や液の漏れたあとが残っているときや、異臭、異音、振動などに気付いたときは、お車に異常のおそれがあります。このようなときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

車両の火災につながるおそれがあるため、次の点に注意をしてください

- 車内（特にインストルメントパネルの上など）に、ライターなどの発火物や炭酸飲料を置かないでください。車内が高温になり火災や爆発につながるおそれがあり危険です。
- ライターを車内（グローブボックス内など）に放置したままにしないでください。荷物を押し込んだときや、シートを動かしたときに、ライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドガラスには吸盤を付けたり、インストルメントパネルに芳香剤の容器などを置いたりしないでください。吸盤や容器がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドガラスを開けたまま放置しないでください。ドアやウインドガラスを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあり危険です。

●エンジン始動前にエンジンルームに可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、エンジンルームに小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。

また、走行中にエンジンルームからこげた臭いが出るときは、ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

車内に水などをかけないでください

●インストルメントパネルやドア、フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

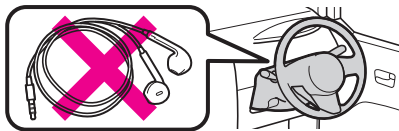
万一、水、飲み物などがかった場合は、可能な限り水分を取り除き、すみやかにダイハツサービス工場にご相談ください。

こんな点にも注意をしてください

●炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを車内に放置したり、小物入れなどに入れたままにしないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレーム、耐熱性の低い物は、変形・ひび割れを起こすことがあります。

●インストルメントパネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行時に動いて思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ハンドルやその周辺に物を置いたり、ケーブルなどをひっかけたりしないでください。スイッチの誤操作を引き起こす原因になるおそれがあるだけでなく、SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。



●運転者はハンズフリー以外の携帯電話などを走行中に使用しないでください。電話をかけるときや電話がかかってきたときに、注意が電話機に向いてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●運転者は走行中、テレビを見たり、カーナビゲーションを操作しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

●シートの調整および収納状態から元に戻したときは必ずロックがかかったことを確認してください。ロックがかかっていないと、急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●タイヤは4輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）の物を装着してください。

●摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。

車止めなどに注意をしてください

次のような場合には、バンパーや床下などを損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。

●車止めのある場所への駐車、路肩に沿っての駐車

●路肩など段差のある場所への乗り降り

●駐車場など急な坂道への出入り

●凹凸やわだちのある道路の走行

●くぼみ（穴）のある場所の通過

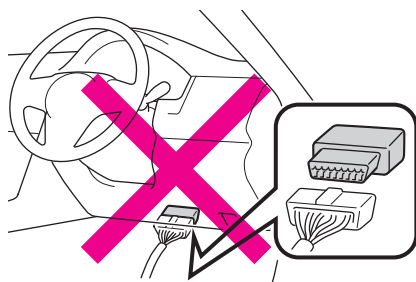
お車の改造や自己流の調整はしないでください

- 車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。正常な性能を発揮できなかったり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違法改造になることがあります。
- ガラス面に、着色フィルムやステッカーなどを貼り付けないでください。運転のさまたげになり危険です。特にフロントガラスおよびフロントドア左右のガラスへの貼り付けは法令で禁止されています。
- タイヤを交換するときは、指定以外の物を装着しないでください。また、ホイール、ホイール取り付けナットを交換するときは、このお車専用以外の物を装着しないでください。性能や機能に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。交換するときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- 無線機やダイハツ純正部品以外の電装品などを取り付けると、取り扱い方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。ダイハツサービス工場にご相談ください。
- バッテリー端子にダイハツ純正部品以外の電装品やアース線を直接つなげないでください。バッテリーあがりや火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お客様自身でのハンドルの取り外しはしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと誤作動につながり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

知っておいていただきたいこと

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けしないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

このお車には、車両を制御するためのコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

参考

- グレードやオプション装備により記録されるデータ項目は異なります。
- コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

データの取り扱いについて

ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合

- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生したときに車両システムの作動状況に関するデータを記録します。

EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- 車両の各システムの作動状況
- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意

EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせる使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。ダイハツにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

EDR データの情報開示

次の場合を除き、ダイハツは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
 - 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
 - ダイハツが訴訟で使用する場合
- ただし、ダイハツは
- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
 - 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

【ここでいうダイハツは、ダイハツ工業株式会社を意味しています。】

磁石式の運転者標識の取り付けについて

磁石式の初心者標識や高齢者標識などを樹脂部分（バンパーやバックドアなど）に取り付けることはできません。

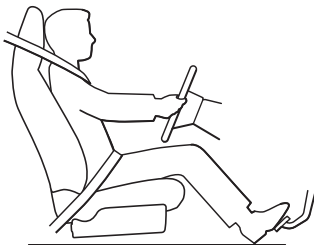
保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

正しい運転姿勢

安全な運転操作を行うため、正しい運転姿勢が取れるように、次のことに注意して走行前にシートやミラーなどを調整してください。



- ペダル類が十分に踏み込めること
- 背もたれから背中を離すことなく、ハンドル操作ができること
(フロントシート→83ページ)
- シートベルトが正しく着用できること
(シートベルト→36ページ)

⚠ 警告

- 走行中は運転席シートの調整を絶対にしないでください。シートが突然動き、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを必要以上に倒して走行しないでください。シートベルトの性能が発揮されません。正しい運転姿勢を取りましょう。
- 背もたれと背中の中にクッションなどを入れないでください。正しい姿勢が取れないばかりか、衝突したときシートベルトなどの拘束保護装置の効果が十分に発揮されず重大な傷害を受けるおそれがあります。

(シートベルト→36ページ)

運転をする前に

CVT 車の特徴

クリーブ現象

CVT 車は、エンジンがかかっているとき、シフトレバーが“P”、“N”レンジ以外の位置で動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象のことをいいます。

⚠ 警告

- エンジン始動直後やエアコン作動時など、自動的にエンジンの回転が上がり（アイドルアップ）、クリーブ現象が強くなります。その際、ブレーキペダルの踏みごたえに変化がでることがありますので、ブレーキペダルはしっかりと踏んでください。
- 停車中は、平坦路であってもお車が動かないように、ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。

4WD 車

オプション/グレード別装備

⚠ 警告

- 4WD車はどのような所でも走れる万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転に心がけてください。
また、オフロード走行や、ラリー走行を目的とした車ではありません。タイヤがはまり込むような深い砂地、海水、水たまりなどに乗り入れないでください。やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。
- 河を渡るなどの水中走行はしないでください。エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。万一、水中に浸かってしまったときは、必ずダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- 4WD車は雪道や水たまりなどの滑りやすい路面ですぐれた走行性能を発揮しますが、極端な急ブレーキ、急ハンドルはさけて、十分に余裕を持って走行してください。

万一脱輪したときは

- いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転するときの注意事項

⚠ 警告

エンジンをかけるときは

- 必ず運転席に座ってエンジンをかけてください。窓越しからエンジンをかけるとお車が急に動き出すおそれがあり危険です。

発進するとき

- 踏み誤りを防ぐため、ブレーキペダルは右足で踏む習慣を身に付けてください。左足でのブレーキ操作は思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - 始動直後およびエアコン使用時は、自動的にエンジン回転が高くなり（アイドルアップ）、動こうとする力が強くなります。発進時にシフトレバー操作をするときはしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
 - “P” レンジから “D” レンジの間でシフトレバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ずブレーキペダルを踏みながら、シフトレバーを動かしてください。
 - アクセルペダルを踏んだままシフトレバーの操作をしないでください。急発進して思わぬ事故の原因になります。
 - マニュアル車は発進のスピードを半クラッチ操作とアクセル操作を併用して調整しますが、CVT 車ではアクセル操作のみで行いますので、アクセル操作は特に慎重に行ってください。
 - 切り返しなどで “D” から “R”、“N” から “D” レンジと何度もシフトレバー操作をするときは、そのつどブレーキペダルをしっかり踏み、完全にお車を止めてから行ってください。
- 完全に止まらない状態でシフトの切り替えを行うとトランスミッションに負担がかかり故障の原因となります。また必ずシフト位置も確認してください。
- 急発進を防ぐために “P” から “R”、“N” から “D”、“N” から “R” レンジにシフトレバー操作をするときもブレーキペダルをしっかり踏んでから行ってください。

走行中は

- エンジンスイッチにさわらないでください。誤って操作し、エンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ブレーキペダルに足をのせたまま走行しないでください。ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。
- 滑りやすい路面やカーブでは、急激なアクセルペダルの操作はやめてください。急加速をするため、スリップしたり、カーブを曲がりきれず思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 坂道などでは、シフトレバーを “D”、“S”、“B” レンジに入れたまま惰性で後退したり、“R” レンジに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

- 長い下り坂や急な下り坂を “D” レンジのまま走行するとスピードが出すぎてしまうことがあります。このようなときに、フットブレーキを使いすぎるとブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。エンジンブレーキを併用してください。
- お車が完全に止まらないうちに “P” レンジに入れないでください。また、前進走行中に “R” レンジ、および後退中は “D”、“S”、“B” レンジに入れないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、お車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

停車するとき

- 平坦路であっても、停車が長くときは、必ず駐車ブレーキをかけてください。
- 上り坂での停車は、クリープ現象で前へ進もうとする力よりもお車が後退しようとする力の方が大きくなり、お車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキをかけてください。
- エアコン作動中は自動的にエンジン回転が高くなり、急にクリープ現象が強くなりますので、特にしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

後退するとき

- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキ操作が確実にできるように注意してください。
- 少し後退したあとなどは “R” レンジに入れたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとはずぐ “N” レンジに戻すよう習慣付けましょう。

駐車するとき

- エンジンをかけたままでお車から離れないでください。

パワーウィンド

⚠ 警告

けがや事故を防ぐために

- パワーウィンドは大変強い力で開閉しますので、開閉するときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないよう注意してください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- お子さまにパワーウィンドの操作をさせないでください。開閉するとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。お子さまを乗せているときは、パワーウィンド OFF スイッチを “OFF” にしてください。

運転席ドアガラス挟み込み防止機能

運転席ドアガラスを AUTO 操作で閉めるときに、窓枠とドアガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ドアガラスの上昇を停止し、自動的に下降します。

警告

- 特に小さな物を挟み込んだとき、挟み込み防止機能が作動しないことがあります。

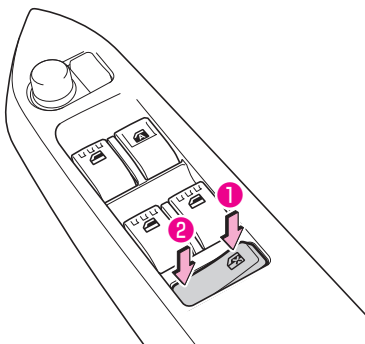
知識

- リヤドアスイッチ非装着車は、リヤドアガラスの開閉できません。

パワーウィンド OFF スイッチ

スイッチの右側 (①) を押すと「OFF」になり、運転席ウインドガラス以外は操作できなくなります。

スイッチの左側 (②) を押すと解除されます。



給油

給油をする前に

警告

- 燃料は引火しやすいため、次のことを守らないと火災につながり、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあります。
 - エンジンは必ず止めてください。
 - お車のドア、窓は閉めてください。
 - タバコを吸うなど、火気を近づけないでください。
- フューエルキャップを開ける前に、必ず車体または給油機などの金属部分に触れて、体の静電気除去を行ってください。体に静電気を帯びていると、放電による火花が引火するなどして、やけどのおそれがあります。
- フューエルキャップを開けるなどの給油操作は、必ず静電気除去を行った方お一人で行ってください。
- 給油中に再び車内のシートに触れたり、座ったり、また人や物に触れると再帯電する場合があります。このようなときは再び給油機などの金属部分に触れて静電気除去を行ってください。
- フューエルキャップを開ける際は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどは燃料タンク内の圧力が高くなり、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
- フューエルキャップを少しゆるめた時に「シュー」という音がする場合は、それ以上開けずに、その音が止まるのを確認してからゆっくりと開けてください。
- 給油口にほかの人を近づけないでください。
- 給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。また、オートストップ作動後の継ぎ足し給油は行わないでください。給油口から燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油機によっては、早期にオートストップが作動して正常に給油できない場合があります。ガソリンスタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。
- 給油終了後、フューエルキャップを閉めるときは「カチッ」という音が一度するまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。
- ダイハツ純正フューエルキャップ (指定) 以外は使用しないでください。燃料漏れなどを起こすおそれがあります。
- その他ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
- 燃料には、人体に有害な発ガン性物質を含んでいる物もありますので、燃料の気化ガスを吸わないようにご注意ください。

ルームミラー

⚠ 警告

- 走行中は、ルームミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 調整は必ず走行前に行ってください。

ドアミラー

⚠ 警告

- 調整は必ず走行前に行ってください。走行中にミラーの調整を行うと、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ミラーを格納したまま走行しないでください。ミラーによる後方確認ができず事故につながるおそれがあり危険です。
- ミラーの操作を行う際は、ドアとミラーの間に手を挟まないように注意してください。

チルトステアリング

オプション／グレード別装備

⚠ 警告

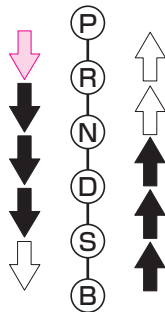
- 走行中はハンドル位置の調整をしないでください。調整中に運転を誤り思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。
- ハンドル位置の調整をしたあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だとハンドル位置が突然変わり、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

駐車ブレーキ

⚠ 警告

- 走行するときは、駐車ブレーキを完全に解除してください。また、駐車ブレーキ未解除警告灯が消灯していることを必ず確認してください。
駐車ブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキが熱を持ち、ブレーキの効きが悪くなったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シフトレバー



	ブレーキペダルを踏みながらシフトレバーボタンを押して動かします
	シフトレバーボタンを押して動かします
	シフトレバーボタンを押さずにそのまま動かします

⚠ 警告

- ➡ の操作は誤作動を防ぐため、シフトレバーボタンを押さずに動かしてください。常にシフトレバーボタンを押して操作していると、“P”、“R”、“B” レンジに思いがけず入ることがあり、その場合、思わぬ事故の原因となり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- “P” から “D” レンジの間でシフトレバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、必ずブレーキペダルを踏みながら動かしてください。
- 走行中に “N” レンジに入れないでください。エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お車が完全に止まらないうちに “P” レンジに入れないでください。また、前進走行中に “R” レンジ、および後退走行中に “D”、“S”、“B” レンジに入れないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、お車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

日常の手入れ

ボデー、塗装面の手入れ

洗車

警告

- 故意に空気取り入れ口やエンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障の原因になります。
- 下回り足回りを洗うときは手をけがしないように注意してください。

アルミホイールの手入れ

オプション/グレード別装備

警告

- アルミホイールにワックスがけをする際は、ホイールナットの座面にワックスを付着させないように注意してください。ナットがゆるんでタイヤが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損したり、ホイールが損傷するおそれがあります。

室内の手入れ

警告

- シートベルトを清掃するときは、必ず中性洗剤をとかしたぬるま湯を使用してください。中性洗剤以外を使用すると、ベルトが弱くなり万一のときに正常なはたらきをしないことがあります。
- シートの下など見えにくい場所や狭い場所に手を入れるときは、十分注意してください。シートの土台部分などに当たり、けがをするおそれがあります。

積雪、寒冷時の取り扱い

積雪、寒冷時の走行

警告

- 積雪時は、スピードを控えめにしてください。路面が凍結している可能性が高く、大変スリップしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。チェーン装着車、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）装着車、また 4WD 車であっても慎重な運転をしてください。

タイヤチェーンの装着

警告

- 作業をするときは、車体端部などでけがをしないように注意してください。

冬用タイヤ (スタッドレスタイヤ) の装着

警告

- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は必ず標準タイヤと同じ指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤの空気圧を確認してください。（タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- 地方により条例の違いがありますので、その地区の条例にしたがってください。

ブレーキの凍結

積雪、寒冷時ではブレーキ装置に付着した水が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。効が悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常にはたらくことを確認してください。

警告

- 万一、ブレーキの効きが回復しないときは、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

雪道、凍結路の注意

警告

- 雪道や凍結路では、急加速、急減速、急ブレーキ、急ハンドルをさけてください。スリップして方向性を失い事故につながるおそれがあります。

格納方法

長時間使わないで屋外に放置しておくときは、塗装面の保護とドア周りの凍結を防ぐために、ボデーカバーを使用してください。

警告

- エンジンの冷えすぎを防ぐために毛布で覆ったり、フロントグリルに段ボールや、新聞紙を挟み込まないでください。これがもとで燃え出す危険があります。

発炎筒

警告

- 非常用信号としてのみお使いください。
- お子さまに絶対触らせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 発炎筒を使うとき、顔や体に向けてやけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ガソリンなどの可燃物のそばで使用しないでください。引火してやけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

けん引されるとき

警告

- 後輪だけを持ち上げたけん引は、車両が不安定になるので、行わないでください。
- 4WD 車の場合、前輪、または後輪だけを持ち上げたけん引は絶対にしないでください。前輪、または後輪だけを持ち上げて運搬すると、駆動装置が損傷したり、お車がレッカー車（台車）から飛び出すおそれがあります。
- 他車をけん引する能力はありません。車体のいづれかにロープをかけるなどのけん引はしないでください。
- けん引される車両は、次の事項を守って慎重に運転してください。通常と同じ感覚で運転すると、事故につながるおそれがあり危険です。
 - できるだけ人や荷物をおろし、車体を軽くしてください。
 - エンジンスイッチはハンドルロックを解除させるために“ON”にし、シフトレバーは“N”レンジにしてください。
 - エンジンが停止していると、いつもよりハンドル操作が重くなりますので、できるだけエンジンを始動してください。
- また、ブレーキの効が悪くなりますので、通常より強めにブレーキペダルを踏んでください。

お子さまを乗せるときのご注意

お子さまを乗せるときは

お車から離れるときはお子さまも一緒に離れてください

お子さまのいたずらによるお車の発進、火災など思わぬ事故が起こるおそれがあり危険です。また、炎天下での車内の温度は想像以上に高くなり、危険です。必ずお子さまと一緒に車から離れてください。

ドアやウインドなどの開閉、シートの調整は大人が注意しながら操作してください

- ドアやウインドの開閉、シートの調整など、特にお子さまの手や足を挟まないよう注意しましょう。また、お子さまが作動部に触れないように注意しましょう。
- ドアやウインドの開閉、シートの調整などは大人が操作してください。また、安全のためにチャイルドセーフティを使用してください。
- パワーウインドは、お子さまが自分で操作できないようにパワーウインド OFF スイッチを“OFF”にしてください。

お子さまは大人と一緒にリヤシートにお座りください

助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、万一のとき、お子さまがインストルメントパネルに頭をぶつけたり、放り出されるおそれがあります。

お子さまを荷室にませたり、遊ばせないでください

荷室は、シートの状態にかかわらず人が乗る構造になっていないため、絶対にお子さまを乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体が飛ばされ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、停車中であってもお子さまを荷室で遊ばせないでください。

シートベルトでお子さまを遊ばせないでください

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一シートベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

誤ってそのような状態になってしまい、シートベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシートベルトを切断してください。



お子さまにもシートベルトを着用させてください

- お子さまをひざの上に抱いて走行しないでください。衝突したときなど十分に支えることができず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - シートベルトが首やあごに当たる場合や腰骨にかからないような小さなお子さまには、チャイルドシート、ジュニアシートを使用してください。
- 通常のシートベルトでは衝突のとき首などに強い圧迫を受け、けがをするおそれがあり危険です。
- また、ひとり座りのできない小さなお子さまはベビーシートを使用してください。
- ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートは、お子さまの年齢や体格に合わせて選んでください。

(チャイルドシート→27ページ)

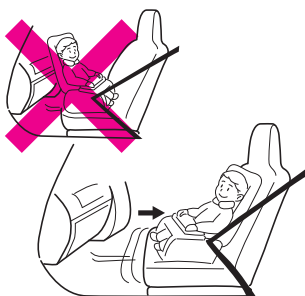
チャイルドシートは正しく取り付けてください

助手席にベビーシートを取り付けたり、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けしないでください。

SRS エアバッグが膨らんだときの衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、SRS エアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。

なお、取り付け可否については、必ずチャイルドシートの適用条件をご確認ください。



お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう

走行中に限らず、お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう。思わぬけがをするおそれがあります。

絶対に身を乗り出したり、シートの上に立たせたりしないでください。転落などして重大な傷害を受けるおそれがあります。

お子さま専用シート

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをご使用ください。

- お子さまの安全のため、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
- 車両に固定するチャイルドシートには、シートベルトで固定するタイプと ISO^{*1} FIX 対応チャイルドシート固定バー& トップテザーアンカーで固定するタイプがあります。

(チャイルドシートの固定のしかた→31ページ)

チャイルドシートの固定方法、および取り扱い方法は、各チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。

知識

- 満6歳未満のお子さまは、チャイルドシートの着用が法律で義務付けられています。
- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて適切なチャイルドシートを選んでください。
- 体が十分大きく、チャイルドシートが不必要なお子さまは、シートベルトを着用させてください。

チャイルドシートについて

- ここでは、ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートの総称として、「チャイルドシート」と呼んでいます。

(チャイルドシートの種類→27ページ)

^{*1} International Organization for Standardization (国際標準化機構) の略

チャイルドシートの質量グループについて

UN (ECE) R44^{*1} の基準に適合するチャイルドシートは、お子さまの体重により、5種類の質量グループに分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0+	13kgまで
グループI	9～18kg
グループII	15～25kg
グループIII	22～36kg

チャイルドシートの種類

ベビーシート

質量グループ 0、0⁺に相当します。



チャイルドシート

質量グループ 0⁺、I に相当します。



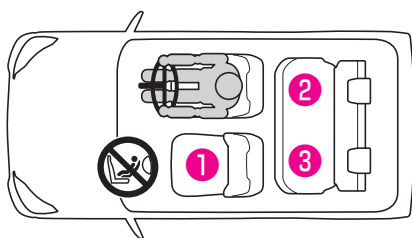
ジュニアシート

質量グループ II、III に相当します。



^{*1} チャイルドシートに関する国際的な安全基準です。

チャイルドシートの選びかた



※1,2 ①	U ※4
※3 ②	U L  
※3 ③	U L  



車両のシートベルトで固定するタイプの汎用(ユニバーサル)カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



推奨チャイルドシートと適合性一覧表に記載されたチャイルドシートに適しています。



i-SizeチャイルドシートおよびISO FIX チャイルドシートに適しています。



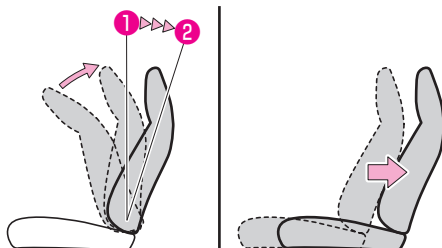
トップテザーアンカーが装備されています。



やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けしないでください。

※1 シートを後方いっぱいまでスライドした状態で取り付けてください。

※2 背もたれをいったん前に倒し、1段目の固定位置(①)まで起こし、4段目の固定位置(②)まで調整してください。



※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、ヘッドレストを取り外してください。

※4 チャイルドシートは必ず前向きで使用してください。

座席位置			
シート位置の番号	①	②	③
汎用(ユニバーサル)ベルト式に搭載可能な座席位置(有/無)	有	有	有
i-Size座席位置(有/無)	無	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート座席位置の固定具(L1/L2)	×	×	×
搭載可能な後ろ向きチャイルドシートの固定具(R1/R2X/R2/R3)	×	R1, R2X, R2, R3	R1, R2X, R2, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの固定具(F2X/F2/F3)	×	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの固定具(B2/B3)	×	B2, B3	B2, B3

ISO FIX チャイルドシートはいくつかの固定具に分かれています。上記の一覧表に示す固定具の座席位置でチャイルドシートを使用することができます。固定具の種類は、次の一覧表を確認ください。

固定具	仕様
F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (F2と別形状のもの)
R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
R2X	小型後向き幼児用チャイルドシート (R2と別形状のもの)
R1	後向き乳児用チャイルドシート
L1	左向き位置用チャイルドシート(キャリコット)
L2	右向き位置用チャイルドシート(キャリコット)
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

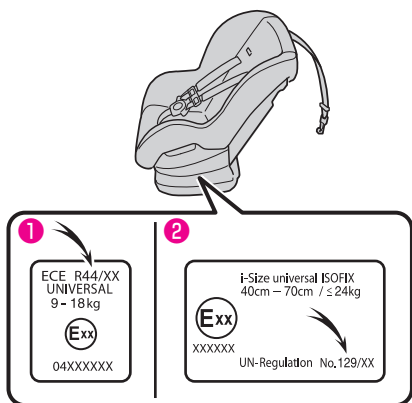
●推奨チャイルドシートと適合性一覧表

推奨チャイルドシート	適用範囲	搭載する向き	座席位置		
			①	②	③
ダイハツ純正チャイルドシート (i-Size) (ISOFIX固定専用)	身長:~83cm (体重:~13kg)	後向き	×	○	○
	月齢15か月以上かつ、 身長:76~100cm (体重:~18kg)	前向き	×	○	○

知識

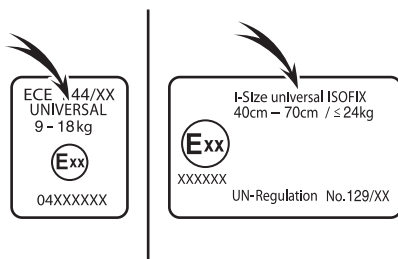
- UN (ECE) R44^{*1} または、UN (ECE) R129^{*1} に適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例



- チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認いただくか、または販売業者へ確認してください。



- ユニバーサル「universal (汎用)」
- セミユニバーサル「semi-universal (準汎用)」
- リストリクティッド「restricted (限定)」
- ビークルスペシフィック「vehicle specific (特定車両)」
- キャリコットは横向きに取り付けられることのできるベビーシートのことです。詳しくはチャイルドシートの製造業者、または販売業者にご相談ください。

① UN (ECE) R44 認可マーク^{*2}

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

② UN (ECE) R129 認可マーク^{*2}

対象となるお子さまの身長範囲および使用可能な体重が記載されています。

^{*1} UN (ECE) R44、UN (ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

^{*2} 表示されているマークは、商品により異なります。

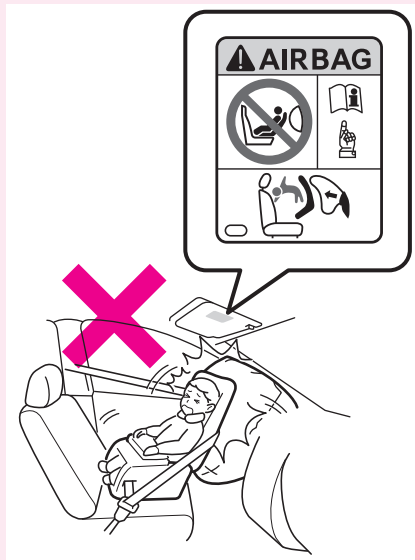
チャイルドシートの固定のしかた

⚠ 警告

- 急ブレーキや事故の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルト、またはチャイルドシートを使用してください。
また、お子さまをひざの上で抱いて走行しないでください。衝突したときなどに、十分に支えることができず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難場合があります。
必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みの上、確実に取り付け使用をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジュニアシートを使用しているときは、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一シートベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
誤ってそのような状態になってしまい、シートベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを取り付けたときは、チャイルドシートを軽くゆすり、確実に固定されているか確認してください。また、シートの調整をしないでください。
- チャイルドシートはお子さまを乗せていないときでも、確実にシートに固定しておいてください。また、ラゲージルームに収納するときも、容易に動かないように収納してください。ブレーキをかけたときなどに人や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

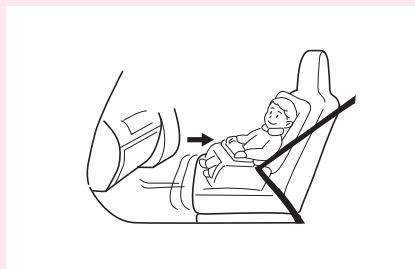
⚠ 警告

- 助手席にベビーシートを取り付けたり、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けしないでください。ベビーシート、チャイルドシートの背面が、SRS エアバッグに近すぎるため、SRS エアバッグが膨らんだときの強い衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、SRS エアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。

なお、取り付け可否については、必ずチャイルドシートの適用条件をご確認ください。



チャイルドシートをリヤシートに取り付けたときは

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、正しい運転姿勢が確保できない場合は、リヤシートの助手席側に取り付けてください。

(正しい運転姿勢→19ページ)

SRS サイドエアバッグ装着車

- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドアやシート部付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないでください。SRS サイドエアバッグが膨らんだときの強い衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 標準装備のシートベルトは大人用です。肩部ベルトが首にかかるような小さなお子さまにはシートベルトの着用はさけ、チャイルドシートの使用をおすすめします。取り付けはチャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
- シートベルトに損傷をあたえないよう、取り付けにあたっては十分注意してください。

チャイルドシートを使用しないときは

- チャイルドシートを長時間使用しない場合は、荷室に収納し、しっかりと固定しておくか、車両から外して保管してください。シートに取り付けたままにしておくと、シートが変色したり、型くずれするおそれがあります。

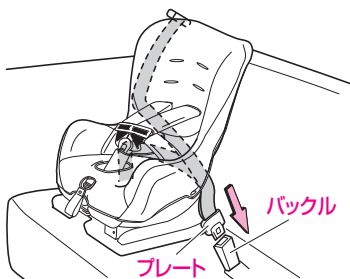
シートベルトによる固定^{*1}

▼ 取り付けかた

1 チャイルドシートをリヤシートに置く

- ヘッドレスト装着車は、ヘッドレストにチャイルドシートが干渉する場合、ヘッドレストを「カチッ」という音ができる位置まで引き上げるか、取り外して安全な場所に固定しておきます。

2 シートベルトのプレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認してから、チャイルドシートの中に通す



3 バックルの中にプレートを「カチッ」と音がするまで差し込む

4 チャイルドシートを軽くゆすり、確実に固定されていることを確認する

⚠ 警告

- チャイルドシートを固定したあと、シートベルトでチャイルドシートがロックされていることを必ず確認してください。急ブレーキをかけたときや衝突したときに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

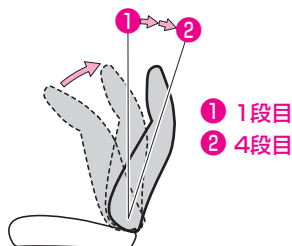
⚠ 注意

- プレートを差し込むとき、プレートでバックルを無理にこじらないでください。

📖 知識

助手席にチャイルドシートを取り付けるときは

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、助手席シートを次のように調整し、必ず前向きにチャイルドシートを取り付けてください。



- シートを後方いっぱいまでスライドさせる
- 背もたれをいったん前に倒し、(1) 1 段目の固定位置に起こしてから、(2) 4 段目の固定位置まで調整する

^{*1} 固定のしかたは代表例です。また、イラストは説明のための物であり、実際のチャイルドシートの形状とは異なります。

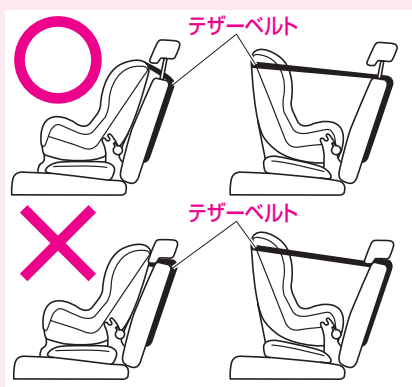
ISO FIX 対応チャイルドシート固定バー&トップテザーアンカーによる固定

⚠ 警告

- チャイルドシートを取り付けるときは、ISO FIX 対応チャイルドシート固定バー&トップテザーアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどのかみ込みとチャイルドシートが固定されず、急ブレーキや衝突したときなどに飛ばされて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ヘッドレスト装着車

- チャイルドシートのテザーベルトがヘッドレストに干渉しないように、ヘッドレストを「カチッ」と音がする位置まで引き上げてからトップテザーアンカーに固定してください。それでもヘッドレストに干渉する場合は、ヘッドレストを取り外して安全な場所に固定しておいてください。ヘッドレストを下げたままだと、テザーベルトがヘッドレストに当たってるみ、衝突したときなどにチャイルドシートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



ビジネスデッキボード装着車

- トップテザーアンカーによるチャイルドシートの固定をするときは、ビジネスデッキボードを取り外し、ラゲージルームや車外などに保管してください。
- ビジネスデッキボードを取り付けた状態では、トップテザーアンカーによるチャイルドシートの固定はできません。チャイルドシートが固定されていないと、急ブレーキや衝突したときなどに飛ばされて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

(ビジネスデッキボード→111ページ)

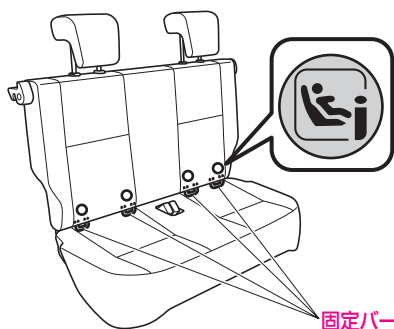


取り付け位置

ISO FIX 対応チャイルドシート固定バー& トップテザーアンカーがリヤシートに装備されています。

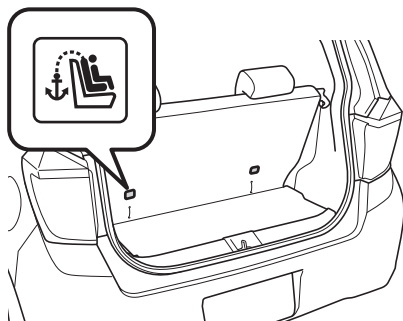
ISO FIX 対応チャイルドシート固定バー

- 固定バーが装備されていることを示すボタンがシートについています。

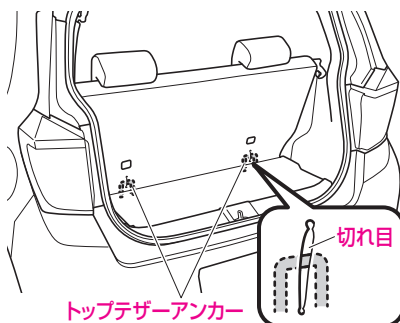


トップテザーアンカー

- トップテザーアンカーを示すマークが背もたれ裏側にあります。



- 背もたれの切れ目から、トップテザーアンカーの位置を確認します。



取り付けかた

- 1 適合するチャイルドシートの取り付け金具をISO FIX対応チャイルドシート固定バー& トップテザーアンカーに連結して取り付ける（取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書をよく読んでください）
 - ヘッドレスト装着車は、ヘッドレストにチャイルドシートやテザーベルトが干渉する場合、ヘッドレストを「カチッ」という音ができる位置まで引き上げるか、取り外して安全な場所に固定しておきます。
- 2 取り付けたチャイルドシートを軽くゆすり、確実に取り付けられていることを確認する

シートベルト、SRS エアバッグについて

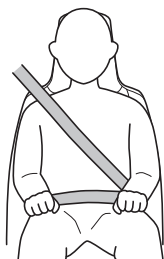
シートベルト

正しいシートベルトの着用

運転者はお車を運転する前に、次のことに注意してシートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。

シートベルトの使用方法を十分に理解し、正しい取り扱い方を身に付けてください。

▼ 正しい着用のしかた



- シートを調整し、上体を起こし深く腰かけて座ること
- シートベルトにねじれがないこと
- シートベルトが肩に十分かかっていること、また必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること

⚠ 警告

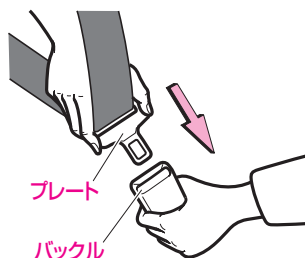
- シートベルトの着用は腹部をさけ、必ず腰骨の位置にしてください。衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、シートベルトによりけがをするおそれがあります。
- シートベルトの肩にかかる部分を脇の下に通して着用しないでください。シートベルトが肩に十分かかっていないと衝突したときなどに体が前方に投げ出されるおそれがあります。

シートベルトの使いかた

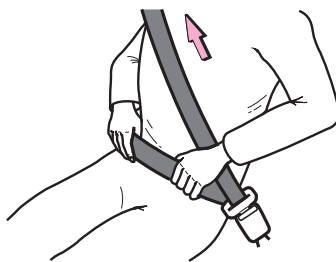
長さ調整の必要はありません。通常は体の動きに合わせて伸縮しますが、緊急時にはロックし、体を固定します。

▼ 着けるとき

- 1 プレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認したのち、バックルの中にプレートを「カチッ」と音がするまで差し込む



- 2 腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引いて腰部に密着させる



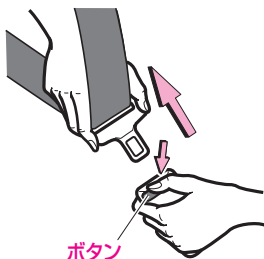
⚠ 注意

プレートを差し込むときは

- プレートでバックルを無理にこじらないでください。

▼ 外すとき

バックルのボタンを押します。ベルトは自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどがなければ確認しながら、プレートに手を添えてゆっくり戻します。



知識

ベルトがロックし引き出せないときは

- ベルトをゆるめてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、もう一度ゆっくり引き出してください。

シートベルトブザーについて

- 運転席および助手席のシートベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h 以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。
（シートベルト締め忘れ警告灯（運転席・助手席）→135ページ）

プリテンショナー & フォースリミッター機構

警告

- プリテンショナー & フォースリミッター機構付シートベルトは絶対に取り外したり、分解、改造をしないでください。
- 次のような場合は必ずダイハツサービス工場にご相談ください。お客様自身で行くと、プリテンショナー機構が思いがけなく作動するおそれがあるほか、正常に作動しなくなったり、誤って巻き取り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - 車両前部を修理するとき
 - 廃車にするとき
- プリテンショナー & フォースリミッター機構付シートベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのダイハツサービス工場で交換してください。

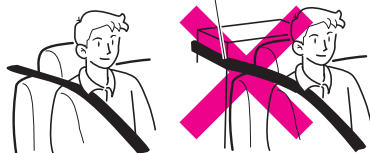
シートベルトの取扱いと手入れ

警告

- シートベルトの経路をさまたげる荷物の積みかたはしないでください。衝突したときなどに効果が十分発揮されません。

正常な経路

異常



- お子さまをひざの上に抱いて走行しないでください。
ひざの上でお子さまを抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトは、それを着用するのに十分な大人の体格を持った人用に設計されています。
- 1人で座ることのできない乳幼児の場合はベビーシート（別売）を使用してください。
- シートベルトが首やあごに当たったり、腰骨にかからないような体の小さなお子さまの場合は、チャイルドシートやジュニアシート（別売）を使用してください。

（チャイルドシート→27ページ）

（チャイルドシートの固定のしかた→31ページ）

- シートベルトは1人用です。2人以上で1本のシートベルトを使用しないでください。衝突時にシートベルトが正常に動かず、けがをするおそれがあります。

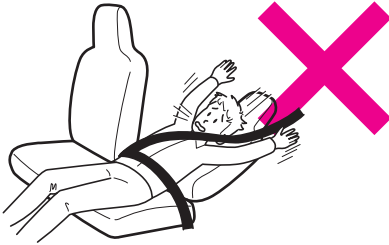


⚠ 警告

- 妊娠中の方もシートベルトを着用してください。ただし、万のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、シートベルトの着用については、医師に相談のうえ、注意事項を確認してください。
- 腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させます。
- 肩部ベルトは、お腹の膨らみをさけ必ず胸部に着用します。



- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突時に体がシートベルトの下にもぐり、ベルトが腰骨にかからず腹部にかかることになり、シートベルトによりけがをするおそれがあります。



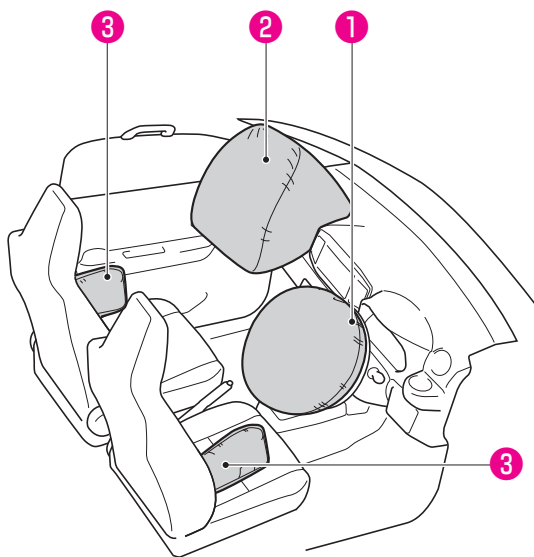
- ハンドルやメーターに必要以上に近付いて運転しないでください。衝突したときなどシートベルトの効果が発揮されません。
- シートベルト使用時、洗濯ばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。衝突時など効果を発揮しなくなります。
- シートベルトが汚れた場合は中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シートベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシートベルトの脱色や染色もやめてください。
- シートベルトを着用した状態で万一事故にあった場合は、ダイハツサービス工場でシートベルト一式を交換してください。シートベルト自体が損傷している場合があり、性能を十分発揮できないおそれがあります。

- 常にシートベルトにほつれや、擦り切れなどの異常がないかを点検してください。異常がある状態で使用をすると衝突時に正常にはたらかず、性能を十分発揮できないおそれがありますので、ダイハツサービス工場で交換してください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。また、シートベルトの改造や取り付け、取り外しをしないでください。衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。



SRS エアバッグ

SRS^{*1} エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束するはたらきと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



① 運転席 SRS エアバッグ

運転者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。

② 助手席 SRS エアバッグ

助手席同乗者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。

③ SRS サイドエアバッグ

オプション／グレード別装備

運転者や助手席同乗者の胸部や上体への衝撃をやわらげる装置です。

^{*1} Supplemental Restraint System (サブリメンタルレストRAINTシステム) の略で、乗員保護補助拘束装置の意味です

作動する場合

運転席 SRS エアバッグ、助手席 SRS エアバッグ

SRS エアバッグは車両前方からフロントバンパーに強い衝撃を受けたとき作動します。(同時にシートベルトのプリテンショナー機構も作動します)

また、次のように走行中に路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときは、まれに SRS エアバッグが作動することがあります。

- 高速で縁石などに衝突したとき
- ジャンプして地面に衝突したとき
- 深い穴や溝に落ち込んだとき

SRS サイドエアバッグ

オプション／グレード別装備

SRS サイドエアバッグは車両側方から強い衝撃を受けたときに作動します。

作動しない場合

次のときは、SRS エアバッグが作動しません。

- エンジンスイッチが“OFF”、“ACC”のときに衝突したとき
- SRS エアバッグ警告灯点灯時



運転席 SRS エアバッグ、助手席 SRS エアバッグ

次のように前方からの衝撃が弱い場合や、衝撃が車体により十分吸収された場合など、車両の損傷が大きくても作動しないことがあります。

- コンクリートの壁に約 20km/h 以下の速度で正面衝突したとき
 - 電柱などポール状の物に正面衝突したとき
 - 大型トラックの後部荷台下にもぐり込んだとき
 - 前方約 30° 以上の角度でコンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき
- 次のようなときも作動しないことがあります。効果を発揮しません。

- 側面や後方から衝撃を受けたとき
- 車両が横転、転覆したとき

SRS サイドエアバッグ

オプション／グレード別装備

次のような側面からの衝撃を受けたときは、作動しないことがあります。

- 側面に斜め方向から、あるいは客室部以外の側面に衝突されたとき

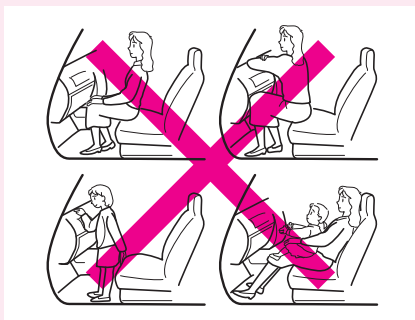
SRS エアバッグの取り扱い

⚠ 警告

- シートベルトは必ず着用してください。SRS エアバッグはシートベルトを補助するための装置でシートベルトの代わりではありません。
- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで放り出されると同時に SRS エアバッグが膨らんだ場合、強い衝撃を受け危険です。
(正しいシートベルトの着用→36ページ)
- シートを正しい位置に調整してください。シートを正しい位置に調整しないと、SRS エアバッグの効果を発揮させることができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。

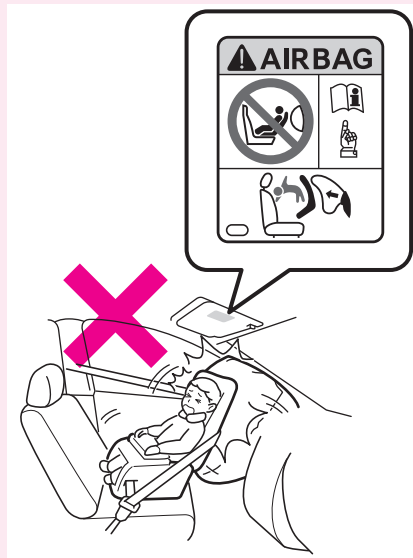
⚠ 警告

- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないとSRSエアバッグの効果を発揮させることができません。また、運転席SRSエアバッグはハンドルに近付きすぎると、SRSエアバッグが膨らんだときに強い衝撃を受け、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドル、インストルメントパネルは、絶対に取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRSエアバッグは、絶対に改造や分解をしないでください。
- SRSエアバッグが膨らんだあとに、その構成部品に触れないでください。非常に熱くなっているののでやけどをするおそれがあります。
- 助手席SRSエアバッグについては必ず次の注意事項をお守りください。
 - シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。また、お子さまをインストルメントパネルの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。助手席SRSエアバッグは瞬時に車室内に大きく膨らみますので、SRSエアバッグが膨らんだときの強い衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- お子さまはリヤシートに座らせて、必ずシートベルトを着用してください。
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまは、ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートなどをリヤシートに装着して使用してください。

- 助手席にベビーシートを取り付けたり、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けしないでください。ベビーシート、チャイルドシートの背面が、SRSエアバッグに近すぎるため、SRSエアバッグが膨らんだときの強い衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



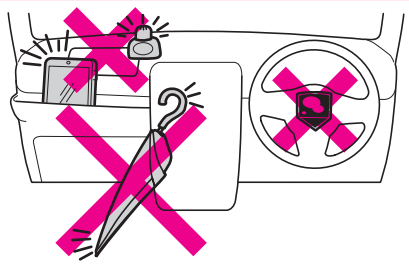
- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、助手席SRSエアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。なお、取り付け可否については、必ずチャイルドシートの適用条件をご確認ください。
(チャイルドシート→27ページ)



- SRSエアバッグの展開部にステッカーを貼ったり、カバーを付けないでください。いざというときにパッド部が開かずSRSエアバッグが作動しないおそれがあります。

⚠ 警告

- SRS エアバッグの上やその周辺に物を置いたり、取り付けたりしないでください。SRS エアバッグが膨らむときの衝撃でけがをするおそれがあります。



- ステアリングパッド、インストルメントパネルの上など SRS エアバッグ展開部は、強くたたきなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグの効力を十分に発揮させるため、次の事項を必ず守ってください。
 - サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わると SRS エアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
 - 車両前部にグリルガードなどを装着する場合は、最寄りのダイハツサービス工場にご相談ください。
- 無線機の電波などは、SRS エアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- SRS エアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRS エアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。
- SRS エアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出ることができない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
また、SRS エアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- 衝突時などに助手席 SRS エアバッグが膨らむことによって、車両のフロントウインドガラスが破損することがあります。
- SRS エアバッグは一度作動すると再使用できません。必ずダイハツサービス工場で交換してください。

- 次のような場合は必ずダイハツサービス工場にご相談ください。
お客様自身で行うと、SRS エアバッグが思いがけなく作動し、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ハンドルを取り外すとき
- 車両前部を修理するとき
- フロントシート、センターピラー部を取り外すとき（SRS サイドエアバッグ）
- 車両側部を修理するとき（SRS サイドエアバッグ）
- お車や SRS エアバッグを廃棄するときは必ずダイハツサービス工場にご相談ください。SRS エアバッグが思いがけず作動し、けがをするおそれがあります。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずダイハツサービス工場で交換してください。衝突したときなどに SRS エアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

SRS サイドエアバッグ装着車

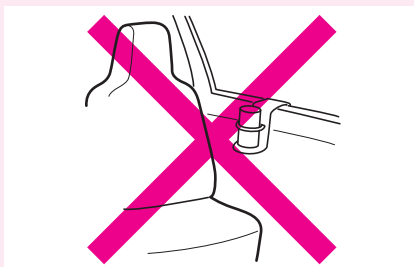
- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないと SRS サイドエアバッグの効果を発揮させることができません。また、ドア近辺にもたれかからないでください。SRS サイドエアバッグが膨らんだときに強い衝撃を受け、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



- フロントシート表皮の張り替えをしたり、フロントシート、センターピラー部を取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。必ず、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- フロントシートに SRS サイドエアバッグ専用のダイハツ純正シートカバー以外は取り付けしないでください。フロントシート側面の SRS サイドエアバッグ展開部を覆うと、SRS サイドエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- ドアやその周辺に専用のダイハツ純正用品以外を取り付けないでください。SRS サイドエアバッグが膨らんだときに飛ばされたり、SRS サイドエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- フロントシート側部など SRS サイドエアバッグ展開部は、強くたたなど過度の力を加えないでください。SRS サイドエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

📖 知識

SRS サイドエアバッグ装着車の場合

- SRS エアバッグ（運転席・助手席）と SRS サイドエアバッグは、作動判定時における衝撃の方向が異なるため、次のような作動をすることがあります。
 - SRS エアバッグ（運転席・助手席）のみ作動
 - SRS サイドエアバッグのみ作動
-

セキュリティ機能

イモビライザー機能

キーフリーシステム装着車

車両の盗難防止のため、電子カードキーには信号アンテナが内蔵されており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンの始動ができません。

▼ 操作方法

- エンジンスイッチを“OFF”にすると、イモビライザー機能が作動し、セキュリティインジケータが点滅します。
- エンジンスイッチを“OFF”から“ACC”にすると、イモビライザー機能が解除され、セキュリティインジケータが消灯します。

(セキュリティインジケータ→140ページ)

📖 知識

- セキュリティインジケータはセキュリティアラームと兼用しているため、リクエストスイッチ操作・電子カードキーのリモコン操作により施錠すると、約30秒間点灯に変わります。
- セキュリティアラームが解除されていない場合は、エンジンスイッチを“ACC”にしても消灯しない場合があります。
- 電子カードキーに登録された信号はキーごとに異なります。

イモビライザー機能のメンテナンスについて

イモビライザー機能のメンテナンスは不要です。

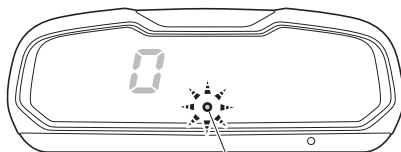
⚠ 注意

イモビライザー機能を正常に作動させるために

- イモビライザー機能の改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

セキュリティアラーム

セキュリティアラームは、不正な侵入を検知した場合に、音と光で周囲に異常を知らせる機能です。



セキュリティインジケータ

📖 知識

セキュリティアラームについて

- セキュリティアラームは、周囲に異常を知らせる機能です。室内への侵入・盗難を防ぐ機能ではありません。
 - ほかに方にお車を貸したときや、セキュリティアラームの作動について知らない方が運転するときは、セキュリティアラームについて十分ご説明ください。
- セキュリティアラームの作動について知らない方が操作を誤った場合、警報が作動し周辺への迷惑になります。

ドアを施錠する前の確認

- セキュリティアラームの思わぬ作動および盗難を防ぐため次のことを必ず確認してください。
 - 車内に人が乗っていないか
 - ドアガラスが閉じているか
 - 車内に貴重品などを放置していないか

セキュリティアラームのセット方法

- 1 すべてのドアを閉める
- 2 次のいずれかの方法ですべてのドアを施錠する（セキュリティインジケータが点灯）

キーレスエントリー装着車

- メインキーのリモコン操作

キーフリーシステム装着車

- リクエストスイッチ操作
（リクエストスイッチによる 施錠・解錠 →80ページ）
（バックドアの施錠・解錠→82ページ）
- 電子カードキーのリモコン操作
（電子カードキー→80ページ）

- 3 30 秒以上経過すると、自動的にセットされる

（セットされると警戒状態になり、セキュリティインジケータが点灯から点滅に変わる）

知識

- 上記のセット方法以外で施錠した場合、セキュリティアラームはセットされません。（タイマーロック機能で施錠された場合は、セットされます）
- セキュリティインジケータが点灯してから約30秒以内に次の操作をしたときは、セキュリティアラームのセットが中断されます。
 - 運転席ドアを解錠したとき
 - ドアを開けたとき
 - キーレスエントリー装着車で、キーがエンジンスイッチのキー挿入口に差し込まれたとき
 - キーフリーシステム装着車で、エンジンスイッチを“ON”にしたとき

セキュリティアラームのセット解除

次のいずれかの操作でセキュリティアラームのセット（警戒状態）を解除します。

キーレスエントリー装着車

- メインキーのリモコン操作でドアを解錠する
- エンジンスイッチを“ON”にする

キーフリーシステム装着車

- フロントドアのリクエストスイッチ操作、またはバックドアオープナー操作でドアを解錠する
- 電子カードキーのリモコン操作でドアを解錠する
- エンジンスイッチを“ON”にする

知識

セキュリティインジケータについて

キーフリーシステム装着車

- イモビライザー機能のインジケータを兼ねているため、セキュリティアラームのセットを解除しても、エンジンスイッチを“ACC”にするまで消灯しません。また、エンジンスイッチを“ACC”から“OFF”にすると点滅します。

セキュリティアラーム作動

セキュリティアラームがセットされた状態で次の操作以外で解錠し、ドアを開けるとセキュリティアラームが作動します。

キーレスエントリー装着車

- メインキーのリモコン操作

キーフリーシステム装着車

- フロントドアのリクエストスイッチ操作
- バックドアオープナー操作
- 電子カードキーのリモコン操作

セキュリティアラームは 2 段階で作動します。

▼ 1 次作動

- セキュリティインジケーターが点滅
- 非常点滅灯が 10 秒間点滅
- 室内ブザーが 10 秒間断続して鳴る

1 次作動の間に警報が解除されなかった場合、2 次作動に入ります。

▼ 2 次作動

- セキュリティインジケーターが点滅
- 非常点滅灯が 30 秒間点滅
- 室内ブザーが 30 秒間断続して鳴る
- ホーンが 30 秒間断続して鳴る

知識

- セキュリティアラーム作動中にドアを閉めても、作動は停止しません。
- セキュリティアラーム作動後にドアを閉めると、セキュリティアラームが再び警戒状態になりますが、施錠はされません。お車から離れる際は確実に施錠してください。

セキュリティアラーム作動の停止方法

次のいずれかの操作でアラーム作動を停止できます。

キーレスエントリー装着車

- メインキーの“LOCK”または“UNLOCK”ボタンを押す
- エンジンスイッチを“ON”の位置にする

キーフリーシステム装着車

- 電子カードキーの“LOCK”または“UNLOCK”スイッチを押す
- 電子カードキーを携帯してフロントドアのリクエストスイッチを押す
- 電子カードキーを携帯して乗車する
- エンジンスイッチを“ON”にする

知識

キーフリーシステム装着車

- 次のいずれかの操作でもアラーム作動を停止することができます。
 - 電子カードキーを携帯してバックドアのリクエストスイッチを押す
(運転席ドアが解錠されているとき)
 - 電子カードキーを携帯してバックドアオープナーを押す
(運転席ドアが施錠されているとき)

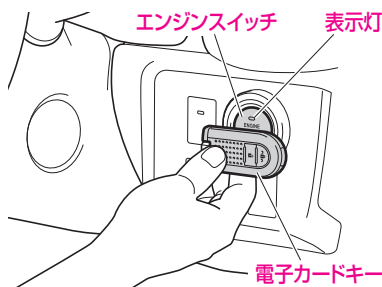
電子カードキーが使用できないとき

キーフリーシステム装着車

電池の消耗などにより、電子カードキーが使用できないときは、次の操作でアラーム作動を停止してください。

▼ 操作方法

- 1 ブレーキペダルをしっかりと踏む
- 2 ペダルを踏んだまま、電子カードキーを図のようにエンジンスイッチに接触させる
 - 電子カードキーの中心をスイッチの中心に接触させます。



- 3 キーが認識されて警報が停止する
 - 表示灯が点灯します。

📖 知識

電池の消耗などにより、電子カードキーが使用できないときは

- エマージェンシーキーでドアの施錠、解錠、電子カードキーでエンジンスイッチの操作を行うことができます。

(電子カードキーが使用できないとき→144ページ)

セキュリティアラーム作動履歴の確認

セキュリティアラームのセット中にアラームが作動したことを確認することができます。(2 次作動までした場合のみ)

▼ 確認方法

エンジンスイッチを“ON”にすると、室内ブザーが「ピーッピッ」と鳴ります。

📖 知識

- 作動履歴の確認は、2 次作動後、1 回のみ行うことができます。

セキュリティアラームのメンテナンスについて

セキュリティアラームのメンテナンスは不要です。

⚠ 注意

セキュリティアラームを正常に作動させるために

- セキュリティアラームの改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

運転支援装置について

ABS、VSC、TRC

⚠ 警告

- VSCやTRCは自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

そのため、必要なとき以外は VSC や TRC を作動停止状態にしないでください。VSC や TRC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

ABS^{*1} (EBD 機能付)

急制動時や滑りやすい路面における制動時には、車輪がロックして方向安定性と操舵能力が低下することがあります。ABS は、このような状況下に発生する車輪ロックを防止して操舵能力を確保しようとする装置です。

▼ EBD

EBD は、Electronic Brake force Distribution (電子制動力配分制御) の略で、車両の走行状態や積載状態に応じて最適な制動力配分を行う機能です。積載時のブレーキの効きを確保することができます。

⚠ 警告

- ABS を過信しないでください。ABS が作動した状態でも車両の方向安定性や操舵性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 次の場合などには ABS の付いていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあり、事故につながるおそれがあります。速度を控えて十分に車間距離を取ってください。
 - 砂利道、新雪路を走行しているとき
 - タイヤチェーンを装着しているとき
 - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
 - 凹凸道などの悪路を走行しているとき
 - タイヤ空気圧が適正空気圧より高いときに荒れた路面を走行したとき

📖 知識

- 急ブレーキ時は、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。ブレーキペダルをゆるめると ABS が効果を発揮できません。

VSC

VSC は、急激なハンドル操作や、滑りやすい路面での旋回時の横滑りなどを抑制するために、自動的にブレーキを制御して、車両の安定性を確保しようとするシステムです。

- VSC が作動すると、スリップインジケータが点滅します。
(スリップインジケータ→141ページ)
- VSC & TRC OFFスイッチを3秒以上押して、メーター内の VSC OFF 表示灯と TRC OFF表示灯が点灯しているときは、VSC (TRC を含む) は作動しません。
(VSC & TRC OFF スwitch→103ページ)
- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。
(タイヤの点検→115ページ)

⚠ 警告

- VSC を過信しないでください。VSC が作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 常に安全運転を心がけ、スリップインジケータが点滅したときは、特に慎重に運転してください。

📖 知識

- VSC は、車速が約15km/hを超えると作動するようになります。
- VSC (TRC を含む) は、作動停止した場合でも、エンジンを始動するたびに作動可能状態に戻ります。

^{*1} ABS は、Anti-lock Brake System (アンチロックブレーキシステム) の略です。

TRC

▼ TRC のはたらき

滑りやすい路面での発進時や加速時に、過剰な駆動力により生じる駆動輪のホイールスピンを抑え、車両の方向安定性と駆動力を確保しようとする装置です。

⚠ 警告

- TRC を過信しないでください。TRC が作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 常に安全運転を心がけ、スリップインジケーターが点滅したときは、特に慎重に運転してください。
(スリップインジケーター→141ページ)

ヒルホールドシステム

ヒルホールドシステムは、急な上り坂で発進するときにかかる車両の後退を軽減し、坂道発進を容易にするシステムです。

ブレーキペダルからアクセルペダルに踏み替えるとき、ブレーキをかけた状態を最長約2秒間保持します。

⚠ 警告

- ヒルホールドシステムは、坂道で停車させるシステムではありません。システムが正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキペダルをゆるめると車両が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- ヒルホールドシステムを過信しないでください。発進時に車両が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。常に周囲の状況を確認して、適切にシフトレバー、ブレーキペダル、アクセルペダル、駐車ブレーキを操作して発進してください。
- ブレーキペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。

スマートアシストⅢ

スマートアシストⅢは次の機能によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
- 車線逸脱警報機能
- 先行車発進お知らせ機能
- オートハイビーム

(オートハイビーム→97ページ)

⚠ 警告

- スマートアシストⅢは運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。スマートアシストⅢは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
- 次の状況ではシステムは正しく動作しません。スマートアシストⅢを“OFF”にしてください。
(スマートアシスト OFF スイッチ→103ページ)
 - タイヤの空気圧が適正でないとき
 - スペアタイヤやタイヤチェーンを装着しているとき
 - 摩耗したタイヤ、摩耗差の激しいタイヤを装着しているとき
 - 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
 - タイヤパンク応急修理セットを使用したとき
 - サスペンションを改造したとき
 - ステレオカメラの視界をさまたげるようなものを車両に取り付けたとき
 - ヘッドランプの汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
 - ヘッドランプの光軸がずれているとき
 - ヘッドランプなどのランプ類を改造したとき
 - 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
 - けん引されるとき
 - キャリアカーに積載するとき
 - シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
 - リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させたいとき
- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、ビニールカーテン、草むらや茂みなどに触れながら通過するとき
- サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 脱輪したときやぬかるみから脱出するとき
- 冠水した道を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ブレーキ警告灯が点灯しているとき

⚠ 注意

- 次のようなときは、状況によってはスマートアシストⅢの認識性能が下がる場合や一時的に機能停止状態になる場合があります。状況が改善されれば再び機能は作動します。
 - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
 - お車を炎天下で放置した後など、ステレオカメラの温度が極端に高くなった場合
 - エンジン始動直後
 - 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
 - 街灯などがなく、真っ暗で周囲に建物や車両などが無い場合
 - ステレオカメラ、ソナー部に雪や汚れ、霜などが付着して覆っているとき
 - 重い荷物を積んでいるとき
 - 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
 - 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 機能によって認識性能の低下する条件や機能停止条件が異なります。詳しくは各機能の説明をお読みください。

車両データの記録について

スマートアシストⅢには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- アクセルペダルの操作状況
- ブレーキペダルの操作状況
- ハンドル、シフトレバーの操作状況
- 車速などの車両の情報
- スマートアシストⅢの各機能の作動状況
- 先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報
- ステレオカメラの画像情報（2次ブレーキ作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

▼ データの取扱いについて

ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ダイハツが訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

【ここでいうダイハツは、ダイハツ工業株式会社を意味しています。】

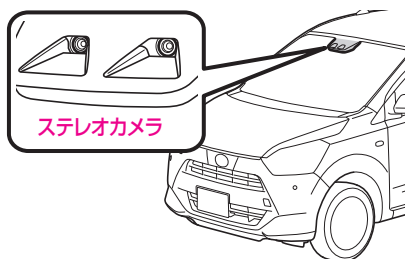
記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。詳しくは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

ステレオカメラ

ステレオカメラは、次の機能で使します。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方）
- 車線逸脱警報機能
- 先行車発進お知らせ機能
- オートハイビーム



⚠ 警告

- ステレオカメラは人の目と似た特性を持っています。そのため、運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオカメラも同様に前方車や歩行者、障害物、車線を認識しづらくなります。
- ステレオカメラによる前方車や歩行者、障害物、車線の認識は視野範囲内に限られています。また、視野範囲に対象物が入ってから制御・警報の対象となるまでは数秒間かかります。
- 汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。
- 汚れを検知した場合は、すべての機能が自動的に停止します。
- 次のことをお守りください。お守りいただかないと、ステレオカメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ステレオカメラ前面のフロントガラスは常にきれいにしてください。
- フロントガラス外側に汚れ、油膜、水滴、雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- フロントガラスにダイハツが指定したガラスコーティング剤以外は使用しないでください。フロントガラスにガラスコーティング剤を使用していても、ステレオカメラ前面に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- フロントガラス内側のステレオカメラ取り付け部が汚れた場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

- フロントガラスのステレオカメラ前面に、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。やむを得ず取り付けなければならない（車検ステッカーなど）ときは、ステレオカメラの前面に重ならないようにしてください。
- フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。

マニュアルエアコン装着車

（ガラスの曇りを取るとき→107ページ）

オートエアコン装着車

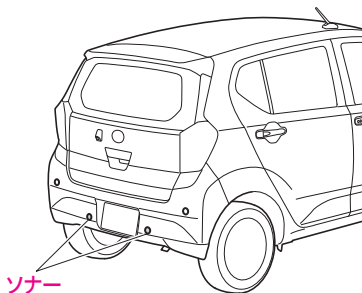
（ガラスの曇りを取るとき→108ページ）

- フロントガラスのステレオカメラ前面の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーバーまたはワイパーブレードを交換してください。ワイパーブレードの交換が必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- フロントガラスにフィルムを貼らないでください。
- 事故などでステレオカメラ周辺が変形した場合はダイハツサービス工場にご相談ください。
- フロントガラスに傷、ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換してください。特にステレオカメラ前面のフロントガラスに傷、ひびなどの損傷や部分修正があると、システムが正しく作動しなくなることがあります。フロントガラスの交換が必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- ダイハツ純正品以外のフロントガラスに交換しないでください。
- ステレオカメラに液体をかけないでください。
- ステレオカメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしないでください。
- レンズに汚れ、傷がある場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- ステレオカメラに強い衝撃を加えないでください。
- ステレオカメラ取り付け位置や向きを変更したり、取り外したりしないでください。
- ステレオカメラを分解しないでください。
- ステレオカメラ付近に電子機器やアンテナなど、強い電波を発信する機器を取り付けしないでください。
- ルームミラーなどのステレオカメラ周辺部品や天井を改造しないでください。
- インストルメントパネル上部に物を置かないでください。フロントガラスに反射してシステムが正しく作動しなくなる場合があります。
- インストルメントパネル上面をケミカル剤などで光沢を持たせた場合、フロントガラスへの映りこみにより、ステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。
- ボンネット、フロントグリル、フロントバンパーなどに、ステレオカメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けしないでください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積むときは、ステレオカメラの視界をさえぎらないようにしてください。
- ダイハツ純正品以外のルームミラー（ワイドタイプミラーなど）、サンバイザーを装着しないでください。

ソナー

ソナーは、次の機能で使します。

- 誤発進抑制制御機能（後方）
- リヤコーナーセンサー
（コーナーセンサー→67ページ）



ソナー

警告

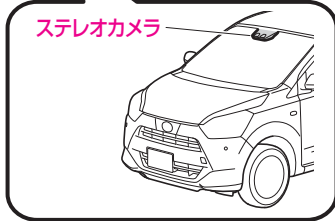
- 汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。
- 汚れを検知した場合は、誤発進抑制制御機能（後方）が自動的に停止します。
- 次のことをお守りください。
- お守りいただかないと、ソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ソナーを清掃する際は、やわらかい布などを使用して傷つけないようにしてください。
- ソナーにウォッシュ液やオイルが付着した場合は、すみやかにふき取ってください。
- ソナーにワックスや撥水剤などを塗らないでください。
- ソナー周辺には高圧洗車機で水をかけないでください。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近づけすぎないようにしてください。
- ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えないでください。
- ソナーを取り外したり、分解したりしないでください。
- ソナーの取付位置を変更したり、周辺構造物を改造したりしないでください。また、ソナーを塗装したりしないでください。
- ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリなどを取り付けしないでください。
- リヤバンパー部分に腰掛けたり、寄りかかったりしないでください。
- リヤバンパーを交換・修理する場合や、事故などでソナー周辺が変形した場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

衝突警報機能（対車両・対歩行者）、 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・ 対歩行者）

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラで前方車、歩行者を認識して、衝突の危険性が高い場合に作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行い、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。



ステレオカメラ



衝突警報機能

次の場合に、ブザーとメーター表示で運転者に注意を促します。

- 車速約4～100km/hで走行中、前方車に対し自車との速度差が約4～100km/hで衝突のおそれがあるとき
 - 状況によっては、二輪車、壁、ガードレールなどの障害物に対しても衝突警報は作動します。
- 車速約4～50km/hで走行中、前方の歩行者に対し自車との速度差が約4～50km/hで衝突のおそれがあるとき

衝突回避支援ブレーキ機能

次の場合に、ブザーとメーター表示で運転者に注意を促し、衝突の直前で緊急ブレーキが作動して、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

- 車速約 4 ～ 80km/h で走行中、前方車に対し自車との速度差が約 4 ～ 80km/h で衝突のおそれがあるとき
- 車速約 4 ～ 50km/h で走行中、前方の歩行者に対し自車との速度差が約 4 ～ 50km/h で衝突のおそれがあるとき

被害軽減ブレーキアシスト

緊急ブレーキ作動中、次の場合にブレーキペダルを踏み込むと、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

- 車速約 30 ～ 80km/h で走行中、前方車に対し自車との速度差が約 30 ～ 80km/h で衝突のおそれがあるとき
- 車速約 30 ～ 50km/h で走行中、前方の歩行者に対し自車との速度差が約 30 ～ 50km/h で衝突のおそれがあるとき

⚠ 警告

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。衝突回避支援ブレーキ機能を日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。衝突回避支援ブレーキ機能はあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。機能に頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。衝突が避けられないと判断した段階で緊急ブレーキが作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定していますが、常に同じ性能を発揮できるものではありません。その効果はさまざまな条件により変わるため、システムを過信せず安全運転に努めてください。
(次のような場合は、衝突の可能性がなくても衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動することがあります。→55ページ)
(次のような場合は、衝突警報機能が作動しなかったり、衝突回避支援ブレーキ機能が作動せず、止まりきれないことがあります。→54ページ)

- 安全のため、お客様ご自身で衝突回避支援ブレーキ機能の作動テストを行わないでください。止まりきれないことや作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラが認識した前方車や歩行者に作動します。二輪車や電柱、壁などに対しても作動することがありますが、これらへの衝突を回避することを目的とはしていません。
- 緊急ブレーキが作動したとき、アクセルペダルを操作しても、緊急ブレーキを継続します。ただし、アクセルペダルを全開に踏みこむと緊急ブレーキを解除します。
- 運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、衝突警報や衝突回避支援ブレーキ機能が作動しない場合があります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、作動車速内であっても、前方車との速度差が約 30km/h を超える場合、スマートアシストⅢの性能限界から衝突を回避することはできません。また、前方車との速度差が約 80km/h (対歩行者の場合は速度差が約 50km/h) を超える場合は、衝突回避支援ブレーキ機能は作動しません。
- シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、衝突回避支援ブレーキ機能が作動したときに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

(シートベルト→36ページ)

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキアシストの作動条件について

次の条件を全て満たすと衝突警報機能および衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキアシストが作動できる状態になります。

- エンジンスイッチが“ON”
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯
- スマートアシスト故障警告灯、スマートアシスト停止警告灯が消灯
- シフトレバーが“P”、“R”レンジ以外
- 次に示す機能のいずれかの作動車速および速度差で走行しているとき

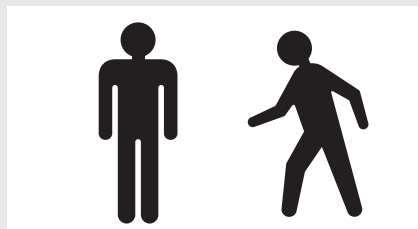
機能	対象	作動車速、速度差*1
衝突警報機能	対車両	約4～100km/h
	対歩行者	約4～50km/h
衝突回避支援ブレーキ機能	対車両	約4～80km/h
	対歩行者	約4～50km/h
被害軽減ブレーキアシスト*2	対車両	約30～80km/h
	対歩行者	約30～50km/h

*1 自車と前方車、歩行者との速度差は作動車速の数値と同じです。

*2 緊急ブレーキ作動中にブレーキ ペダルを踏み込んだ場合

⚠ 注意

- ステレオカメラは歩行者を認識します。歩行者認識は対象物の大きさや形状、動きから行っています。頭部、両肩の輪郭が明瞭であるときに認識します。



次のような場合は、衝突警報機能が作動しなかったり、衝突回避支援ブレーキ機能が作動せず、止まりきれないことがあります。

- 前方車や歩行者との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凸凹など）
- 前方の視界が悪いとき（豪雨、吹雪、濃霧、土ぼこりなど）
- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- エンジン始動直後

- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水溜り走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - フロントガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき
 - ダイハツ指定以外のガラスコーティング剤を使用したとき
 - フロントガラスにフィルムを貼ったとき
 - フロントガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
 - フロントウォッシャーの使用中止または使用後で、フロントガラスが十分にふき取れていないとき
 - フロントガラスに傷、ひびなどが生じたとき
 - ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオカメラの視界がさげられたとき
 - ダイハツ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
 - 雨滴やウインドウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
 - ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき

⚠ 注意

- ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれやゆがみが生じたとき
 - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
 - 夜間または、トンネル内、屋内の駐車場など暗い場所前方車、歩行者に接近するとき
 - トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
 - ステレオカメラ前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているとき
 - 強い光が車両や歩行者、路面に反射しているとき
 - カーブ、うねった道路、坂道するとき
 - 路面に水たまりや水膜があるとき
 - 雪道や未舗装路など、凹凸やわだちのある道路のとき
 - 前方車や歩行者との距離が極端に短いとき
 - 自車の前方に車両や歩行者が急に割り込んだり、飛び出したりしたとき
 - 急加速やハンドル操作をしながら、前方車、歩行者に接近したとき
 - 前方車の一部しかステレオカメラの認識範囲内に入っていないとき
 - 小さい速度差で接近する場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状・大きさによっては最後面がステレオカメラの視野範囲から外れる場合があります）
 - 前方車や対向車による水しぶきや雪などの巻上げ、排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなどがあるとき
 - 自車が車線変更を行い、前方車のすぐ後ろに接近したとき
 - 前方車が急ハンドル、急加速、急減速したとき
 - 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）のとき
 - 前方車の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
 - 車両背面のガラスが大きく前が見えてしまうような前方車に接近したとき
 - 荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが前方車のとき
 - 後端から積荷が飛び出している車両などのとき
 - 車両が斜め、または横向きに停まっているとき
 - 対向車やバックしてくる車両などのとき
 - 車高の低い車両などのとき
 - 停車している車両の前に壁などがあるとき
 - 重い荷物を積むなど、前方車が傾いているとき
 - 歩行者の一部（頭や手足など）が荷物や傘、帽子、車両、建物などに隠れているとき
 - 歩行者が背景にまぎれて、ステレオカメラが歩行者を認識できないとき
 - 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、横たわっているとき、手を振ったり走っているとき
 - 身長の高い子供や高身長歩行者のとき（接近してから制御を行うため、歩行者の体形によってはステレオカメラの視野範囲から外れてしまい、作動しなかったり、作動が解除されたりすることがあります）
 - 歩行者が大きな荷物を背負っていたり、抱えたり、自転車やカートなどを押しているとき
 - 歩行者が長いスカートや和服などを着用していて足元が見えないとき
 - 集団で歩いているときなど、ステレオカメラが歩行者として認識できないとき
 - ヘッドランプ照射範囲外に対象物がある場合
 - 周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）
 - 対象物と背景のコントラストが少ないとき（森の中の黒車両、白壁前の白服歩行者など）
- 次のような場合は、衝突の可能性がなくても衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動することがあります。
- 狭い橋、小トンネル、田舎道、ETC ゲート、狭いガードレール、雪溜まりなど、両脇に壁や障害物がある細い道を走行するとき
 - 前方車に接近して走行するときや、前方の壁や前方車の寸前まで接近して停止するとき
 - 停止車両などの横を至近距離で通過するときや対向車が自車に向かって接近するとき
 - 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
 - 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
 - ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
 - 前方車および対向車の排気ガスや水、雪などの巻上げ、排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなどで前方の視界が悪いとき
 - ステレオカメラの光軸がずれているとき
 - 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
 - 路面上に大きなペイントなどがある場合
 - カーブの入口や交差点にガードレールや看板、木立などの路側物があるとき
 - カーブですれ違う対向車があるとき
 - 駐車場のバーや遮断機のバーが上がりきる前のとき
 - 下り坂走行中、路面にキャッツアイやマンホール、路面電車のレールなどがあるとき
 - バンプや段差を乗り降りしたときに、目の前に標識の影や、路面の継ぎ目などがあつた場合
 - 複数台の前方車などが重なって見えるような場合
 - 上り坂走行中、上方に看板や樹木の枝があるとき
 - 縦縞フェンス、タイル壁、縦縞服など、連続する縦模様があるとき
 - 先行車の方向指示灯 兼 非常点滅灯、制動灯が点灯したとき
 - 水たまり、濡れた路面、ボデー鏡面への風景写り込みやランプ反射があるとき
 - 外部から光の差し込みがあるとき
 - 車両と車両、車両と歩行者、歩行者と歩行者、遠方のランプ群など、並進物があるとき
 - 進路脇に歩行者、または歩行者と同じような大きさの物が並んでいるとき
 - すれ違う歩行者、先行車の二車線変更など、二つの物が交差して入れ替わるとき
 - ダンプカー、空荷トラック、スーツケースを持った人など、背面に前後差があるとき
 - 複雑な形状の車両のとき
 - 横断歩行者が自車正面に差し掛かる前に立ち止まったとき
 - 風に揺れる旗や木の枝、衣服の揺れがあるとき

⚠ 注意

次のような場合は、システムが作動しません。

- エンジン始動直後
- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを“OFF”にしているとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が点灯しているとき
- スマートアシスト故障警告灯が点灯しているとき（システム異常）
- スマートアシスト停止警告灯が点灯しているとき（機能停止）

緊急ブレーキについて

- 緊急ブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。緊急ブレーキは車両が停止してから約1.5秒後に解除されるため、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

📖 知識

- 緊急ブレーキ中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。
- 緊急ブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能の作動について

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラで前方車、歩行者を認識して、衝突の危険性が高い場合に、①～③の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。

① 衝突警報

前方車、歩行者に対し、衝突の危険性があると判断した場合に、ブザーとメーター表示で運転者に注意喚起して衝突回避操作を促します。

② 1次ブレーキ

前方車、歩行者を認識して、衝突の危険性が高いと判断した場合に、ブザーを変化させブレーキ制御を行います。

- 前方車、歩行者と認識していない場合、またはブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離をとった場合は、ブレーキ制御を行いません。
- 運転者の衝突回避操作（ブレーキペダル、ハンドルなど）の操作量により、衝突する可能性が低くなったと判断した場合、作動を解除します。

③ 2次ブレーキ

前方車、歩行者に対し、衝突の危険性が非常に高いと判断した場合に、1次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。

- 停止後にブザーが鳴り、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続した後、ブレーキ制御を解除します。（停止保持）
- 停止保持後にブレーキ制御が解除されると、クリープ現象により車両がゆっくりと動き出します。停車状態を継続するには、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- システム作動中は、ブザーとメーター表示で運転者に注意喚起します。
- 緊急ブレーキ作動中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。
- 緊急ブレーキ作動中にブレーキペダルを踏み込むと、被害軽減ブレーキアシストが作動し、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

	①衝突警報	②1次ブレーキ	③2次ブレーキ	(停止保持)
衝突の危険性	危険性がある	危険性が高い	危険性が非常に高い	—
緊急ブレーキの強さ	ブレーキ制御なし	弱い	強い	停止後、最長約1.5秒後に解除
被害軽減ブレーキアシスト	—	作動*1		—
ブザー	ピピピピピッ	ピピピピピ...		ピピピッ...*2
スマートアシスト 作動表示*3	表示			表示*2
マスターウォーニング	消灯	点灯		消灯

*1 緊急ブレーキ作動中にブレーキペダルを踏み込んだ場合に作動

*2 運転者操作で終了

*3 ブルーイルミネーションメーター装着車は、メッセージが表示されます。

知識

- 状況によっては、1次ブレーキや2次ブレーキから作動することがあります。

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能を“OFF”にすると

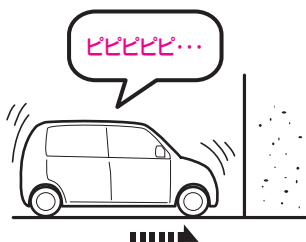
スマートアシスト OFF スイッチを約 2 秒以上押し続けることで、衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能を“OFF”にすることができます。同時に次の機能も“OFF”になります。

- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
- 先行車発進お知らせ機能
(スマートアシスト OFF スイッチ→103ページ)

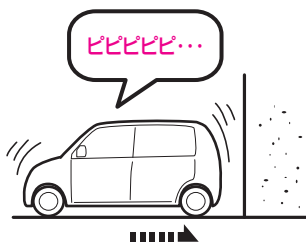
誤発進抑制制御機能（前方・後方）

誤発進抑制制御機能は、前方、または後方に障害物を認識している場合、停車または徐行（車速約 10km/h 以下）状態で、ペダルの踏み間違いなどにより必要以上にアクセルペダルが踏み込まれたとシステムが判断したときに、運転者への警報とエンジン出力の抑制制御を行い、発進をゆるやかにすることで、衝突時の被害を軽減します。

- 前方は、ステレオカメラが約4m以内に障害物を認識している場合に作動します。



- 後方は、ソナーが約2～3m先までの壁などの障害物を認識している場合に作動します。



車速が約 4km/h 以下で、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとメーター表示で警報し、運転者に衝突回避操作を促します。

車速が約 10km/h 以下で、アクセルペダルをすばやく、かつ必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとメーター表示で運転者に警報するとともに、エンジン出力の抑制制御を行います。

- エンジン出力の抑制制御はアクセルペダルを踏み続けている間、最長約 8 秒間継続します。
- 後方で作動したとき、ブザーはリバース音よりも早い間隔で鳴ります。

(スマートアシストⅢの作動状態について
→66ページ)

⚠ 警告

- 誤発進抑制制御機能を過信しないでください。誤発進抑制制御機能は衝突を回避するものではありません。発進時はシフトレバーやペダルの位置および周囲の安全を十分に確認して操作してください。機能に頼っていると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 誤発進抑制制御機能は停止状態を保つものではありません。機能が作動していても、勾配が急な坂道などではお車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 誤発進抑制制御機能はあらゆる状況で発進を緩やかにするものではありません。
- 誤発進抑制制御機能は前方、または後方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など障害物が見えない状況で発進を緩やかにするものではありません。
- 故意に障害物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節を誤発進抑制制御機能に頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- 前方と後方では、認識できる障害物が異なります。
- 誤発進抑制制御機能（後方）とコーナーセンサーでは作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーのブザーが鳴っていても誤発進抑制制御機能（後方）が作動しなかったり、コーナーセンサーのブザーが鳴っていても、誤発進抑制制御機能（後方）が作動する場合があります。
- 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラ、またはソナーが遮断機を障害物と認識し、誤発進抑制制御機能が作動することがあります。遮断機を押しよける場合は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、スマートアシストⅢを“OFF”にしてください。
(スマートアシスト OFF スイッチ→103ページ)
- 運転者がハンドル操作をしていると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、誤発進抑制制御機能が作動しない場合があります。
- TRCを“OFF”またはVSC & TRCを“OFF”にした場合、誤発進抑制制御機能は作動しません。
- エンジン出力の抑制制御をしたときに、アクセルペダルを約 8 秒以上踏み続けると、作動を解除します。また、すばやく 3 回以上、全開まで踏みなおすと、誤発進抑制制御機能は作動しません。

誤発進抑制制御機能の作動条件について

この機能は、自車が次の条件を全て満たしたときに作動可能となります。

- エンジン回転中
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯
- スマートアシスト故障警告灯、スマートアシスト停止警告灯が消灯
- ブレーキペダルを踏んでいない
- 車速が 0 ～約 10km/h
- 方向指示表示灯が消灯
- TRC OFF 表示灯、VSC OFF 表示灯が消灯
- 前方の場合は、シフトレバーが“D”、“S”、“B”レンジ
- 後方の場合、シフトレバーが“R”レンジ

⚠ 注意

次の条件の違いにより、誤発進抑制制御機能（前方）が作動しないことがあります。

- 前方障害物との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペアタイヤなど）
- 車両や二輪車などの急な割込み、歩行者の飛び出し
- エンジン始動直後
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
 - 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
 - フロントガラスに曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこりなどが付着して覆っているとき
 - ステレオカメラの温度が極端に高いとき
 - 夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に障害物に接近するとき
 - 屋内の駐車場など暗い場所で障害物に接近するとき
 - ヘッドランプ照射範囲外に障害物が存在するとき
 - 雨滴やウインドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、障害物の認識が不完全になったとき
 - ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
 - 前方車などの水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき

- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
- 障害物が道路標識やポールなどの細い棒状のもの
- 車両に非常に近い位置で車両中央からずれた位置に障害物が存在するとき
- 自車が進路変更して障害物のすぐ後ろに接近したとき
- 急なカーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
- ステレオカメラの認識エリア外に障害物が存在するとき
- 障害物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両、縁石など）
- しやがんでいる人や横たわっている人などのとき
- 障害物が小さいとき（小動物、幼児など）
- 障害物や前方車（トレーラーや対向車など）の自車から一番近い面および最後面が小さいときや、障害物に接近しすぎたとき（自車から一番近いところではない部分を認識して作動し、効果が充分でないこともあります）
- 障害物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁やシャッターなどのとき
- 障害物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
- 自車の前方に車、二輪車、自転車、歩行者などが横から割り込んだり、飛び出してきたとき

次のような場合は、衝突の可能性がなくても誤発進抑制制御機能（前方）が作動することがあります。

- 前方車に接近して走行するときや、前方障害物の寸前まで接近して停止するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 前方車および対向車の排気ガスや水、雪などの巻き上げ、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなどを通過するとき
- 停止車両などの横を至近距離で通過するときや対向車が自車に向かって接近するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントなどがある場合
- カーブの入口にガードレールや看板などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車があるとき
- カーブや交差点に障害物があるとき
- 縦列駐車から本線に合流するとき
- 駐車場ゲートや遮断機のバーが上がりきるまえのとき
- キャリアカーに積載するとき
- 河川敷や生い茂った草むらや木立の中を走行するとき

次のような障害物に対しては、誤発進抑制制御機能（後方）は作動しません。

- 背の低い障害物
- 小さい障害物（小動物、幼児など）、幅の狭い障害物
- 針金、金網、ロープ、道路標識やポールなどの細い障害物
- 急に後方に現れたもの
- 車両後方を横切るもの
- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの

⚠ 注意

- 地面に対して垂直でない壁、車両後面に対して斜めの壁
- 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
- ソナーの認識エリア外に存在する障害物

次のような場合は、誤発進抑制制御機能（後方）が作動しないことがあります。

- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）
- 路面の状態（勾配、凹凸など）
- 車両の状態（積載、乗員など）
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- エンジン始動直後
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
- 後方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
 - バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
 - 動いているもの
 - スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
 - 障害物の面が車両の後面に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
 - 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
 - 壁から柱や配管などが突き出しているとき
 - 認識できない障害物と車両とのあいだに、認識できない障害物がある場合
 - 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
 - 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
 - どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
 - 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど）
 - ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
 - 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

次のような場合は、衝突の可能性がなくても誤発進抑制制御機能（後方）が作動することがあります。

- 障害物の寸前まで接近して停止するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 障害物の横を至近距離で通過するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 縦列駐車をするとき
- 後方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき

- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 霧、雪、砂嵐など悪天候の状況
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

次のような場合は、システムが作動しません。

- エンジン始動直後
- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを“OFF”にしているとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が点灯しているとき
- スマートアシスト故障警告灯が点灯しているとき（システム異常）
- スマートアシスト停止警告灯が点灯しているとき（機能停止）

（メーター表示→63ページ）

誤発進抑制制御機能を“OFF”に するとき

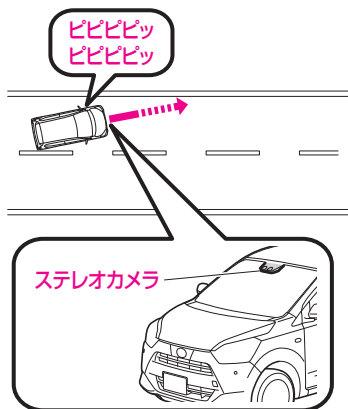
スマートアシスト OFF スイッチを約 2 秒以上押し続けることで、誤発進抑制制御機能を“OFF”にすることができます。

同時に次の機能も“OFF”になります。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 先行車発進お知らせ機能（スマートアシスト OFF スイッチ→103ページ）

車線逸脱警報機能

車線逸脱警報機能は、フロントガラス上部に設置されたステレオカメラによって左右の白線または黄線を認識し、車速が約60km/h以上で、運転者が意図せず走行車線から逸脱する可能性があるときシステムが判断したときに、ブザーとメーター表示で運転者に注意を促します。



警告

- 車線逸脱警報機能は、車線逸脱を防止するものではありません。また、わき見運転やぼんやり運転などの前方不注意、および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。車線の維持を車線逸脱警報機能に頼っていると、車線逸脱による事故につながるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車線逸脱警報機能が作動した場合は、周囲の状況に応じてハンドル操作を行うなどの適切な操作をしてください。
- 車線逸脱警報機能は路肩や側溝などの道路の端を認識して警報する機能ではありません。
- 次のような条件では、車線逸脱警報機能を作動させない場合があります。
 - 車線内を走行していないとき
 - カーブ内側にはみ出して走行してしまっているとき
 - 車線幅が狭いとき
 - 方向指示器を使用しているとき
 - 急な操舵などにより、運転者に回避の意思があるとシステムが判断したとき
 - 車線逸脱警報が作動してから約2秒間

車線逸脱警報機能の作動条件について

この機能は、自車が次の条件を全て満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが“ON”
- 車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯
- スマートアシスト故障警告灯、スマートアシスト停止警告灯が消灯
- 車速が約60km/h以上
- 方向指示表示灯が消灯（方向指示表示灯が消灯してから約4秒間は作動しません）
- 直線または緩やかなカーブの道路を走行している

注意

次の条件では白線（黄線）を正確に認識できず、車線逸脱警報機能が適切に作動しないことがあります。

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）により白線（黄線）が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき
- 夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき
- 道路の状態（特に次のような場合）
 - 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
 - 道路の修復や古い白線（黄線）のため、アスファルトの継ぎ目や線状の補修痕、白線（黄線）のかすれや重複、タイヤ痕などがあるとき
 - 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
 - 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
 - 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき、または幅が細いとき
 - 坂道や丘の頂上に近付いているとき
 - 段差などにより車両が大きく揺れたとき
 - 路上のもの（線石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
 - 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき

⚠ 注意

- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 濡れた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 急なカーブのある道路を走行するとき
- 道路の補修跡や雪とアスファルトの境目などがあるとき
- ガードレールの影などがあるとき
- 区画線が二重に描かれているとき
- 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
 - ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - フロントガラス内側が曇っているとき
 - フロントウォッシャーの使用中、または使用後などで、フロントガラスが十分にふき取れていないとき
 - 重い荷物を積んで車両が傾いているとき
 - 先行車との車間距離が短いとき
 - 自車が白線（黄線）に対してまっすぐに走行していないとき
 - ステレオカメラが高温になったとき

車線逸脱警報機能を“OFF”にするとき

スマートアシスト OFF スイッチを押すことで、車線逸脱警報機能を“OFF”にすることができます。

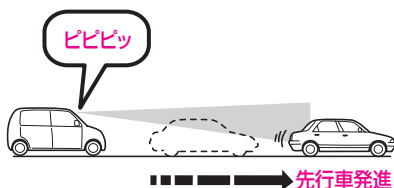
（スマートアシスト OFF スイッチ→103ページ）

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能は、先行車の発進後に自車が停止し続けた場合に、ブザーとメーター表示で運転者にお知らせします。

先行車に続いて停車中（車間距離が約10m以内、かつ自車がしばらく停車中）、先行車が発進して約3m以上進んでも自車が発進しないときに作動します。

（スマートアシストⅢの作動状態について
→66ページ）



⚠ 警告

- 先行車発進お知らせ機能は、安全に発進できる状態を知らせたり、あらゆる状況での先行車の発進を知らせたりするものではありません。先行車発進お知らせ機能に頼らず、十分に安全を確認して運転してください。

先行車発進お知らせ機能の作動条件について

この機能は、自車が次の条件を全て満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが“ON”
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯
- スマートアシスト故障警告灯、スマートアシスト停止警告灯が消灯
- シフトレバーが“D”、“S”、“B”レンジでブレーキペダルを踏んでいる、または“N”レンジ
- 停止してから数秒経過

知識

- 次のような場合は、先行車が発進していなくても機能がはたらいってしまう場合や、発進していても作動が遅れたり、機能がはたらかない場合があります。
- 停止した先行車との間にオートバイなどが割り込んできたとき
- 停止した先行車との間を歩行者などが通過した場合
- 天候や道路形状などにより先行車を認識出来ないとき
- ステレオカメラが先行車を見失ったとき
- 横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）
- 自車が停止した時に先行車が動いている場合
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が急発進や急旋回した場合
- 先行車が特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）の場合
- 先行車の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- 車両背面のガラスが大きく、前が見えてしまうような先行車のとき
- 荷台にありがなく荷物が載っていないトラックなどが先行車のとき
- 後端から積荷が飛び出している先行車のとき
- 車高の低い先行車のとき
- 車両が斜め、または横向きに停まっているとき
- ハンドルを大きく切った状態で停止しているとき
- 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき

先行車発進お知らせ機能を“OFF”にすると

スマートアシスト OFF スイッチを約 2 秒以上押し続けることで、先行車発進お知らせ機能を“OFF”にすることができます。同時に次の機能も“OFF”になります。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
（スマートアシスト OFF スイッチ→103ページ）

メーター表示

スマートアシスト作動灯



〈アンバーイルミネーションメーター〉

例：誤発進抑制制御機能（後方）



〈ブルーイルミネーションメーター〉

- エンジンスイッチが“ON”で、次の機能が作動したときに表示します。
- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
- 先行車発進お知らせ機能

アンバーイルミネーションメーター装着車

- エンジンスイッチを“ON”にするとスマートアシスト作動灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- システム作動時、スマートアシスト作動灯が点滅します。

ブルーイルミネーションメーター装着車

- システム作動時、作動した機能に合わせてメッセージが表示されます。
（メッセージ→89ページ）

車線逸脱警報作動灯



(点滅)

〈アンバーイルミネーションメーター〉



〈ブルーイルミネーションメーター〉

- エンジンスイッチが“ON”で、車線逸脱警報機能が作動したときに表示します。

アンバーイルミネーションメーター装着車

- エンジンスイッチを“ON”にすると車線逸脱警報作動灯が点灯し、数秒後に消灯します。

スマートアシスト OFF 表示灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、次の場合に点灯します。
 - スマートアシストOFFスイッチで次の機能を“OFF”にしたとき
 - ・ 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
 - ・ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
 - ・ 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
 - ・ 先行車発進お知らせ機能
 - オートハイビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるとき（スマートアシスト OFF スイッチ→103ページ）

車線逸脱警報 OFF 表示灯



- エンジンスイッチが“ON”で、次の場合に点灯します。
 - スマートアシストOFFスイッチで車線逸脱警報機能を“OFF”にしたとき
 - オートハイビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるとき（スマートアシスト OFF スイッチ→103ページ）

知識

- 車線逸脱警報機能の“ON”または“OFF”の状態は、エンジンを再始動しても維持されます。
- “ON”の状態を維持しているときは、エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。（スマートアシスト OFF スイッチ→103ページ）
- オートハイビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるときは、同時にマスターウォーニングとスマートアシスト OFF 表示灯も点灯します。（マスターウォーニング→138ページ）

スマートアシスト故障警告灯

スマアシ 故障

〈アンバーイルミネーションメーター〉



〈ブルーイルミネーションメーター〉

- エンジンスイッチが“ON”で、オートハイビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があると点灯します。

⚠ 注意

点灯した場合

- オートハイビームを除くスマートアシストⅢの機能は作動しません。
通常走行に支障ありませんが、ダイハツサービス工場での点検を受けてください。

スマートアシスト停止警告灯

スマアシ
停止
14E

〈アンバーイルミネーションメーター〉

 14E スマアシ停止
メッセージ
ENTERで確認

〈ブルーイルミネーションメーター〉

- エンジンスイッチが“ON”で、スマートアシストⅢの機能が一時的に停止したときに“スマアシ停止”と機能停止コードが点灯します。

機能停止コード

- 点灯しているときは、スマートアシストⅢは作動しません。機能停止コードごとに適切な処置をしてください。

(機能停止コード→65ページ)

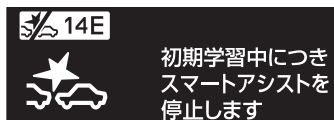
知識

- 点灯していても、オートハイビームは作動することがあります。

ブルーイルミネーションメーター装着車

- ENTER スイッチを押すと、メッセージが表示され、機能停止コードの内容(原因)を確認することができます。(メッセージ確認→88ページ)

例：機能停止コード14E



機能停止コード	原因	処置
11E	ステレオカメラが視界不良により前方を認識できない	原因状態が解消されると、復帰します。
12E	ステレオカメラの作動条件を満たさなくなった(ステレオカメラ内が高温になったなど)	原因状態が解消されると、復帰します。
	エンジン始動後、2次ブレーキが3回作動した	安全な場所に停車し、エンジンスイッチを“OFF”にした後、再度エンジンスイッチを“ON”にしてください。
14E	スマートアシスト初期学習中	しばらく走行すると、復帰します。
15E	ソナー部(車両後側)に雪氷や泥が付着している	ソナー部を清掃し、原因状態が解消されると、復帰します。
16E	フロントワイパーを“高速”で作動している	原因状態が解消されると、復帰します。

注意

- 処置をしても、機能停止コードが表示したままのときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障ありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

知識

- 機能停止コード「15E」「16E」は、車速が上がると消灯します。
- 「11E」は“R”レンジ以外、「15E」「16E」は“R”レンジのときに表示します。

■スマートアシストⅢの作動状態について

スマートアシストⅢの状態に応じて、メーター表示とともにブザーが鳴ります。

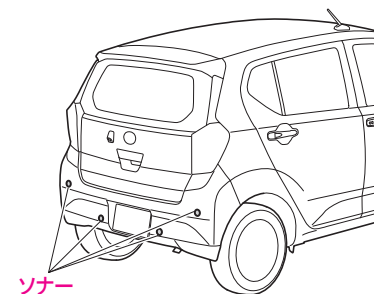
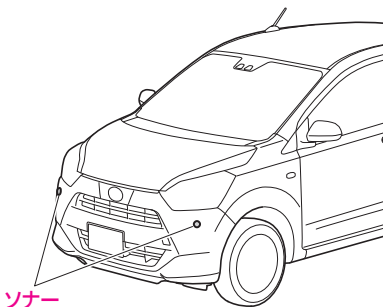
	インジケーター	液晶部	ブザー
スマートアシストOFFスイッチで、次の機能を停止したとき ・衝突警報機能(対車両・対歩行者) ・衝突回避支援ブレーキ機能(対車両・対歩行者) ・誤発進抑制制御機能(前方・後方) ・先行車発進お知らせ機能	 が点灯	—	ビビッ
スマートアシストOFFスイッチで、車線逸脱警報機能を停止したとき	 が点灯	—	ビビッ
オートハイビームを除くシステム異常時	   が点灯	次のシステムに異常がある場合、 “スマアシ故障”を表示※1 ・ステレオカメラ ・ソナー スマートアシスト故障のメッセージを表示※2	—
オートハイビーム異常時	 が黄色に点灯※1  が点灯※2	オートハイビーム故障のメッセージを表示※2	—
機能一時停止時	—	“スマアシ停止”と機能停止コードを表示	—
衝突警報機能	—	 が点滅※1 スマートアシスト作動のメッセージを表示※2	ビビビビビッ
衝突回避支援機能	1次ブレーキ		ビビビビビ...
	2次ブレーキ		ビビビビビ...
	停止保持		ビビッ...
誤発進抑制制御機能(前方)	警報		ビビビビビッ
	制御		ビビビビ...
誤発進抑制制御機能(後方)	警報		ビビビビッ
	制御		ビビビビ...
先行車発進お知らせ機能	—		ビビビッ
車線逸脱警報機能	 が点滅※1	スマートアシスト作動のメッセージを表示※2	ビビビッ ビビビッ
オートハイビーム	 が緑色に点灯	—	—

※1 アンバーイルミネーションメーター装着車

※2 ブルーイルミネーションメーター装着車

コーナーセンサー

コーナーセンサーは車速が約10km/h以下のとき、ソナーで障害物とのおおよその距離を認識して、ブザーとメーター表示で障害物の接近を運転者にお知らせする装置です。



(ソナー→52ページ)

警告

コーナーセンサーをお使いになる前に

- 必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車速が約10km/hをこえないようにしてください。
- ソナーの認識エリア、コーナーセンサーの作動速度には限界があります。
お車を運転するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）やソナーの認識エリア外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
- ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリーなどを取り付けしないでください。

コーナーセンサーについて

- 次のような場合は、コーナーセンサーが作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意して運転してください。

- 路面の状態（勾配、凹凸など）
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スベアタイヤなど）
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化したとき
- 障害物との距離や向き、位置（車両中央付近に障害物がある）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
 - ・ソナーに非常に近い障害物のとき（障害物に接近しすぎると、ブザーが連続音から断続音になる場合があります）
 - ・地面から高い位置に存在する障害物のとき
 - ・背の低い障害物のとき
 - ・小さい障害物（小動物、幼児など）、幅の狭い障害物のとき
 - ・動いているもの（急に現れたり、車両を横切るものなど）
 - ・スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物のとき
 - ・障害物の面が車両に対して斜めのとき
 - ・地面に対して垂直でない壁のとき
 - ・凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁のとき
 - ・針金、金網、ロープ、道路標識、電柱やポールなどの細い障害物のとき
 - ・壁から柱や配管などが突き出しているとき
- 認識できる障害物と車両とのあいだに、認識できない障害物があるとき
- ソナーの認識エリア外に存在する障害物のとき
- 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温のとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
- 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど）
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- コーナーセンサーと誤発進抑制制御機能（後方）では作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーが作動していても誤発進抑制制御機能（後方）が作動しなかったり、コーナーセンサーが作動していなくても、誤発進抑制制御（後方）が作動する場合があります。

⚠ 注意

- 次のような場合は、障害物が作動範囲になくても作動することがあります。
 - 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
 - ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
 - 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
 - 障害物の横を至近距離で通過するとき
 - 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
 - 付近に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
 - 車両側面の近くに障害物があるとき
 - 路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
 - 狭いスペースに進入するとき
 - どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
 - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
 - 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
 - ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
 - 車両姿勢が大きく傾いたとき
 - 積載状況などにより車高が著しく変化したとき
 - 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
 - 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき

コーナーセンサーの異常について

- 次のとき、ソナーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 - 障害物を認識していない状態で、コーナーセンサーが作動したとき
 - ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えたとき
 - 事故などでソナー周辺が変形したとき
 - スマートアシストⅢに異常があるとき、またはスマートアシスト停止警告灯と機能停止コード“15E”が点灯しているとき
(スマートアシスト停止警告灯→65ページ)
(機能停止コード→65ページ)

📖 知識

- ソナーの認識エリアは車両前部、および後部のバンパーのソナー周辺に限られます。
- 障害物を認識してから、コーナーセンサーが作動するまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも、お知らせする前に障害物に近付きすぎると、お知らせしない場合があります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーが聞き取りづらくなる場合があります。

作動条件

- 次の条件をすべて満たしたときにコーナーセンサーは作動します。

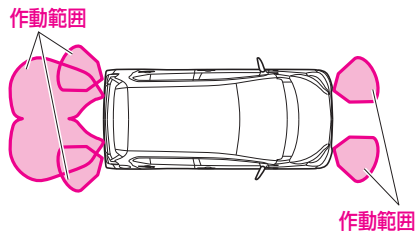
フロントコーナーセンサー

- エンジンスイッチが“ON” のとき
- シフトレバーが“P” レンジ以外のとき
- 車速が約 10km/h 以下のとき

リヤコーナーセンサー

- エンジンスイッチが“ON” のとき
- シフトレバーが“R” レンジのとき
- 作動条件をすべて満たした状態で障害物を認識すると、ブザーが鳴ります。
(ブザー→68ページ)

作動範囲



ブザー

作動条件をすべて満たした状態で、障害物を認識すると、ブザーが鳴ります。

- 障害物との距離が短くなると、ブザーが下表のとおり変化します。

ブザー	ソナーと障害物との距離
ビッ…ビッ…ビッ… (断続音)	約150～60cm
ピッピッピッ… (断続音)	約60～45cm
ビビビ… (断続音)	約45～30cm
ピー (連続音)	約30cm以内

- ソナーが複数の障害物を同時に認識しているときは、最も近い障害物との距離のブザーが鳴ります。

メーター表示

コーナーセンサー表示灯



〈アンバーイルミネーションメーター〉

例：コーナーセンサー5カ所作動時



〈ブルーイルミネーションメーター〉

- 作動条件をすべて満たしているときに、障害物を認識したソナー位置が点灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、次の場合は後方 1 カ所表示されるか、前方 2 カ所または後方 2 カ所のソナー位置が同時に点灯し、ブザーが「ピピピ、ピピピ、ピピピ」と鳴ります。^{*1}
 - コーナーセンサーの機能が低下しているとき
 - コーナーセンサーに異常があるとき（同時にマスターウォーニングも点灯します）

アンバーイルミネーションメーター装着車

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

ブルーイルミネーションメーター装着車

- コーナーセンサーの状態により「ソナーセンサーの機能低下」「ソナーセンサーの異常」の警告メッセージが表示されます。（メッセージ確認→88ページ）

⚠ 注意

- ブザーが「ピピピ、ピピピ、ピピピ」と鳴ったときは、コーナーセンサーが一時停止、または故障しています。ソナーに氷・雪・泥などが付着していないか確認して、取り除いてください。
氷・雪・泥などが付着していない場合は、コーナーセンサーの異常が考えられます。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

アンバーイルミネーションメーター装着車

- コーナーセンサー表示灯とマスターウォーニングが同時に点灯した場合
 - コーナーセンサーの異常が考えられます。通常走行に問題はありますが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

ブルーイルミネーションメーター装着車

- 「ソナーセンサー故障」の警告メッセージとマスターウォーニングが同時に点灯した場合
 - コーナーセンサーの異常が考えられます。通常走行に問題はありますが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

コーナーセンサーブザー OFF 表示灯



〈アンバーイルミネーションメーター〉



〈ブルーイルミネーションメーター〉

- コーナーセンサー作動中にコーナーセンサーブザーOFFスイッチを押すと点灯します。

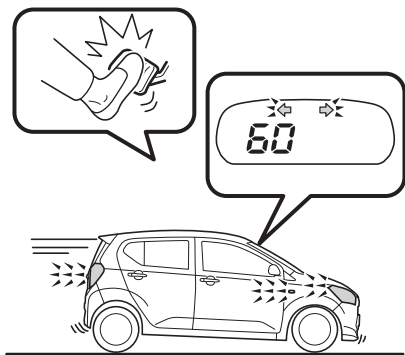
（コーナーセンサー ブザー OFF スイッチ
→104ページ）

^{*1} 前方 2 カ所および後方 1 カ所、前方 2 カ所および後方 2 カ所、後方 3 カ所、または 5 カ所同時に表示されたときも含まれます。

エマージェンシー ストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを、非常点滅灯が自動で高速点滅し、後続車に注意をうながすことで、追突される可能性を低減させるシステムです。

- 約 60km/h 以上で走行しているときに、急ブレーキをかけると作動します。



作動条件について

エマージェンシーストップシグナルは、自車が次の条件を全て満たしたときに作動します。

- 非常点滅灯スイッチが“OFF”
- 約 60km/h 以上で走行中
- ブレーキペダルを踏み、急減速した、または ABS が作動した

作動停止について

エマージェンシーストップシグナルは、次のいずれかのときに作動が停止します。

- 非常点滅灯スイッチを“ON”にした
- ブレーキペダルから足を離した
- 急減速でなくなった
- ABS が作動停止した

⚠ 警告

- エマージェンシーストップシグナルは、追突される可能性を低減させるシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。
- 運転するときは不必要な急ブレーキをさけ、安全運転を心がけてください。
- ABS 警告灯、または VSC & TRC 警告灯が点灯しているときは、エマージェンシーストップシグナルが作動しないことがあります。

eco IDLE (エコアイドル)

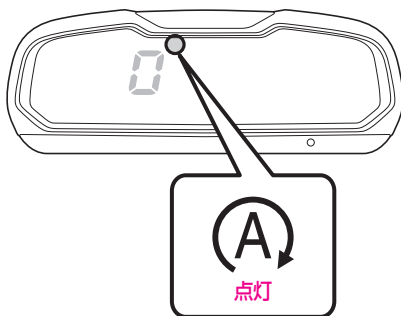
eco IDLE は、エンジン暖機後に信号待ちや渋滞などで減速した際、停車前（約 11km/h 以下）もしくは停車後に、燃費向上や排気ガス低減、アイドリング騒音低減のため、自動でエンジンを停止（アイドリングストップ）、再始動させるシステムです。

アイドリングストップ、 エンジン再始動のしかた

- 1 走行中にアイドリングストップする条件を満たすと、eco IDLE 表示灯が点灯します。

<スタンバイ状態>

(スタンバイ条件→72ページ)



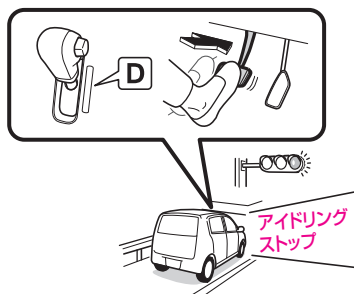
- 2 “D” レンジのままブレーキペダルを踏み減速すると、停車前（約 11km/h 以下）もしくは停車後に、アイドリングストップします。

＜アイドリングストップ状態＞

- eco IDLE 表示灯はアイドリングストップ中も点灯し続けます。

（停車前のアイドリングストップ条件→72ページ）

（停車後のアイドリングストップ条件→72ページ）

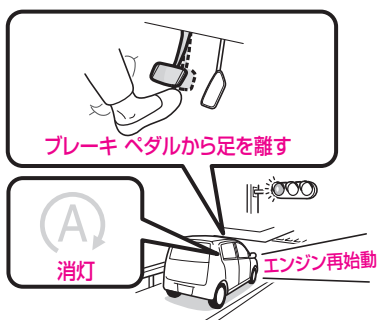


- 3 ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。

＜エンジン再始動＞

- eco IDLE 表示灯は消灯します。

（エンジン再始動条件→73ページ）



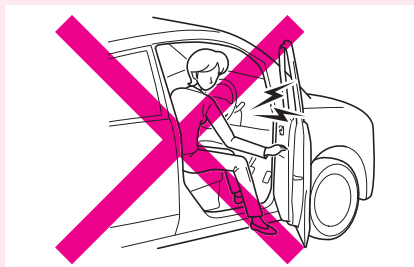
- 4 しばらく走行して、再びアイドリングストップする条件を満たすと、eco IDLE 表示灯が点灯します。

eco IDLE（エコアイドル）の注意事項

警告

- アイドリングストップ中は車外へ出ないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 運転席シートベルトを外したり運転席ドアを開けたりすると、ブレーキペダルを踏んでいても、エンジンが再始動しますので、あわてずにブレーキペダルを踏み続けてください。
- 警告ブザーは約5秒間鳴ります。ただし運転席シートベルトと運転席ドアを元に戻すと警告ブザーが止まります。

（警告ブザー→73ページ）



- ブレーキペダルとアクセルペダルは右足で操作してください。慣れない左足でのブレーキペダル操作は緊急時の反応が遅れることがあり危険です。
- アイドリングストップ中は、ブレーキペダルを踏んだまま、アクセルペダルを踏むとエンジンが再始動しますので、車両の発進には十分ご注意ください。
- 長時間停車するときや車両から離れるときは、駐車ブレーキをかけ、エンジンスイッチを操作してエンジンを停止させてください。

知識

- 右左折や合流時など、アイドリングストップ中に事前に発進準備をしたいときは、次の操作で事前にエンジンを再始動することができます。
 - ブレーキペダルをすばやく踏み増しする
 - ハンドル操作をする
 - eco IDLE OFF スイッチを押す（eco IDLE OFF スイッチ→104ページ）

システムの作動条件について

スタンバイ条件

次の条件をすべて満たすと、eco IDLE 表示灯が点灯し、アイドリングストップが可能な状態になります。

- eco IDLE OFF スイッチを押して、eco IDLE の作動を停止していないとき
(eco IDLE 作動停止中は、eco IDLE OFF 表示灯が点灯します)
- エンジンが十分に温まっているとき
- トランスミッションオイルが十分に温まっているとき
- エンジン冷却水温が高すぎないとき
- バッテリーが十分に充電されているとき
- エンジン始動後に約 10km/h 以上でしばらく走行したあと
(走行せずにアイドリング状態を続けていても、アイドリングストップしません)
- シフトレバーが“D”レンジのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- 外気温が約 0℃以上するとき
(走行状態によって、実際の外気温とメーター表示の外気温は、異なる場合があります)
- フロントデフロスタースイッチが“OFF”のとき (オートエアコン装着車)
- 車内温度が快適なとき (オートエアコン装着車の冷房時)
- システム (eco IDLE、エンジン電子制御、CVT、ABS、VSC、電動パワーステアリング、車両通信) が正常なとき

停車前のアイドリングストップ条件

スタンバイ条件と次の条件をすべて満たすと、eco IDLE 表示灯が点灯したまま、停車前にアイドリングストップします。

- 車速が約 11km/h 以下になったとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき
- 車幅灯が消灯しているとき
- フロントワイパー・ウォッシャースイッチが“OFF”のとき
- ハンドルの切れ角が小さいとき
- 急減速していないとき
- ABS、VSC が作動していないとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき
- ブレーキオーバーライドシステムが作動していないとき

停車後のアイドリングストップ条件

スタンバイ条件と次の条件をすべて満たすと、eco IDLE 表示灯が点灯したまま、停車後にアイドリングストップします。

- 車両が停車しているとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき
- ハンドル操作をしていないとき
- ABS、VSC が作動していないとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき

知識

- 次の場合、アイドリングストップしない場合があります。
 - ブレーキブースター (ブレーキ倍力装置) の負圧が低下しているとき
 - ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
 - 急勾配の坂道で停車したとき
-

エンジン再始動条件

アイドリングストップ中に、次のいずれかの操作を行うとエンジンが再始動します。

- ブレーキペダルから足を離す
- ブレーキペダルをすばやく踏み増しする
- アクセルペダルを踏む
- ハンドル操作をする
- シフトレバーを“R”・“P”レンジに操作する
- シフトレバーを“N”レンジに操作したあと、他のレンジに操作する
- eco IDLE OFF スイッチを押して、システム作動を停止する
- フロントデフロスタースイッチを“ON”にする（オートエアコン装着車）
- 運転席ドアを開ける
- 運転席シートベルトを外す

知識

エンジンの再始動について

- 次の場合でも、アイドリングストップ中にエンジンが再始動し、クリープ現象¹が発生しますので、ブレーキペダルはしっかりと踏み続けてください。
 - アイドリングストップ中に、アイドリングストップが作動可能な条件を満たさなくなった場合（eco IDLE 表示灯は点滅後消灯）
 - ・ ブレーキブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下したとき
 - ・ 坂道などで停止状態から車両が動き出したとき
 - ・ 停車前アイドリングストップ中に下り坂などで加速したとき
 - ・ バッテリーの放電量が多いとき
 - 警告灯（エンジン、CVT、ABS、VSC & TRC、電動パワーステアリング）が点灯するなど、各システムに異常が発生したとき
 - エアコンの制御システムに異常が発生したとき（オートエアコン装着車）
 - 冷房時にエアコン吹き出し口の風の温度が上昇したとき（オートエアコン装着車）
 - アイドリングストップしてから約3分経過したとき
- アイドリングストップ中に、eco IDLE システムに異常が発生した場合、またはエンジン部品（スターター）やバッテリーが交換時期になった場合（eco IDLE OFF 表示灯が点滅）

警告ブザー

アイドリングストップ中に、運転席シートベルトを外したり、運転席ドアやボンネットを開けたりすると、警告ブザー（断続音）が約 5 秒間鳴り、eco IDLE 表示灯が高速で点滅します。

運転席シートベルトを外したとき

エンジンが再始動します。

▼ 対処方法

- 運転席シートベルトを確実に着用してください。（警告ブザーが止まります）

運転席ドアを開けたとき

エンジンが再始動します。

▼ 対処方法

- 運転席ドアが開いていないかを確認し、確実に閉めてください。（警告ブザーが止まります）

ボンネットを開けたとき

安全確保のため、通常のエンジン停止状態になります。

（エンジン警告灯・充電警告灯・油圧警告灯も同時に点灯します）

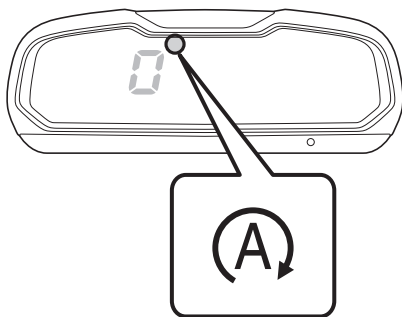
▼ 対処方法

- ボンネットが開いていないか確認し、確実に閉めてください。
- シフトレバーを“P”レンジに操作してから、ブレーキペダルを踏んだままエンジンスイッチを操作して、エンジンを始動してください。

^{*1} エンジンがかかっているとき、シフトレバーが“P”、“N”レンジ以外の位置で動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと車両が動き出す現象。

eco IDLE 表示灯

eco IDLE に関する操作状況、車両の状態をお知らせします。



点灯

- エンジンスイッチを“ON”にしたとき
(数秒後消灯)
- アイドリングストップが作動可能な条件を満たしたとき
<スタンバイ条件成立>
- アイドリングストップ中

消灯

- アイドリングストップからエンジンが再始動したとき
- アイドリングストップが作動可能な条件を満たしていないとき
<スタンバイ条件不成立>

低速点滅後、消灯

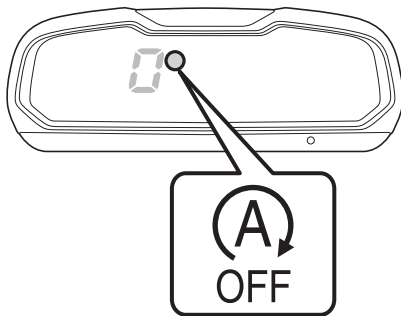
アイドリングストップ中に、アイドリングストップが作動可能な条件を満たさなくなり、エンジンが再始動したとき

高速点滅

アイドリングストップ中に次の状態になると、高速点滅すると同時に警告ブザーが約5秒間鳴ります。

- 運転席シートベルトを外したとき
- 運転席ドアを開けたとき
- ボンネットを開けたとき
(警告ブザー→73ページ)

eco IDLE OFF 表示灯



点灯

- eco IDLE OFF スイッチを押して、eco IDLE 作動を停止すると点灯します。
(eco IDLE OFF スイッチ→104ページ)

点滅

- 次の状態になると、エンジンスイッチが“ON”のときに点滅します。
 - eco IDLE システムに異常があるとき
 - エンジン部品（スターター）が交換時期のとき

点滅後、消灯

- バッテリーが交換時期になると、エンジンスイッチを“ON”にすると点滅し、数秒後に消灯します。

⚠ 注意

点滅した場合

- ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

📖 知識

- 表示灯が点灯・点滅しているときに車幅灯を点灯すると、表示灯が減光します。

ヒルスタートシステム

アイドリングストップからブレーキペダルをゆるめてエンジンが再始動する際、最長約2秒間ブレーキ力を保持するシステムです。

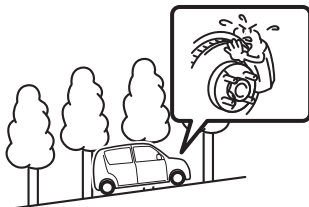
- 坂道発進時の後退を軽減します。

▼ 作動の流れ

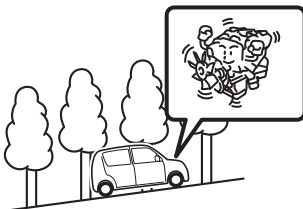
1 ブレーキペダルを踏む力をゆるめる



2 ブレーキ力保持



3 エンジン再始動



4 発進



⚠ 警告

- ヒルスタートシステムは、坂道で停車させるシステムではありません。システムが正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキペダルをゆるめると車両が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- ヒルスタートシステムを過信しないでください。発進時に車両が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
常に周囲の状況を確認して、適切にシフトレバー、ブレーキペダル、アクセルペダル、駐車ブレーキを操作して発進してください。
- ブレーキペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。
- ゆるやかな上り坂で停車前アイドリングストップしたあと、車両が停止する前にアクセルペダルを踏んで再加速しようとした場合、車両が後退することがあります。
車両が惰性で後退したときは、周囲の状況に応じてブレーキペダル、アクセルペダルを操作し、安全に発進してください。
- 重い荷物を車内に積んでいるとき、または急な上り坂では、ヒルスタートシステムが作動していても、車両が後退することがあります。駐車ブレーキをかけたりするなどで発進してください。

キーフリーシステムについて

キーフリーシステム

オプション／グレード別装備

電子カードキーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。

- ドアを施錠・解錠する
- エンジンの始動・モード切り替えをする

(リクエストスイッチによる 施錠・解錠→80ページ)

(エンジンスイッチ (キーフリーシステム装着車) →101ページ)

また、電子カードキーのスイッチを操作すると、ドアの施錠・解錠が行えます。

(電子カードキー→80ページ)

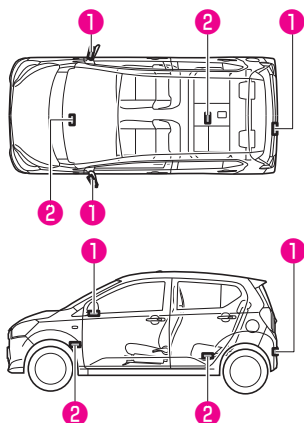
知識

- 電子カードキーは必ず運転者が携帯し、管理してください。

アンテナ

車両のアンテナから発せられる電波を電子カードキーが感知することによって、キーフリーシステムが作動します。

▼ アンテナの位置



① 車外アンテナ

② 車内アンテナ

⚠ 警告

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を使用されている方へ

- 車外アンテナ・車内アンテナから約 22 cm 以内に近付かないようにしてください。ドア開閉時、各ドアハンドルのスイッチ操作時、エンジン始動時などに車両のアンテナから発せられる電波により、植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響をあたえるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用されている方は、電波による影響について、医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。
電波により、医療用電気機器の作動に影響をあたえるおそれがあります。

📖 知識

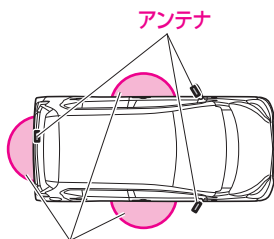
アンテナの電波を停止したいときは

- アンテナから発する電波を停止（キーフリーシステムを停止）させることもできます。詳しくは、最寄りのダイハツサービス工場にご相談ください。
- アンテナから発する電波を停止させたときは、エンジンスイッチに電子カードキーを接触させなければエンジンを始動できません。（電子カードキーのリモコン操作は行えます）

（エンジンのかけかた→101ページ）

作動範囲

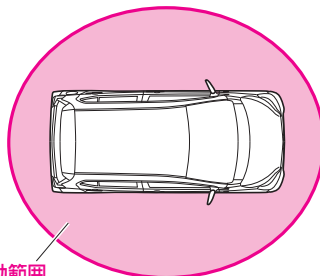
▼ リクエストスイッチ・バックドア オープナー作動



アンテナ
作動範囲
リクエストスイッチ・
バックドアオープナー
から約80cm以内

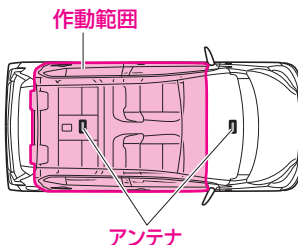
（リクエストスイッチによる 施錠・解錠
→80ページ）

▼ リモコン作動



作動範囲
車両中心から周囲約3m以内

▼ エンジンスイッチ作動



📖 知識

- 周囲の状況により、作動範囲が変化することがあります。

リクエストスイッチ作動、またはバックドアオープナー作動が正常に作動しないおそれのある状況

- 電子カードキーの携帯のしかたにより、リクエストスイッチ、またはバックドアオープナーを押しても作動しない場合があります。
- 次のような場合は、電子カードキーが作動範囲にあっても、正常に作動しない場合があります。
 - ドアの施錠・解錠時に、電子カードキーをドアガラスやドアハンドル周辺に近付けすぎたとき
 - 地面の近く、もしくは高い場所に電子カードキーがあるとき

エンジンスイッチ作動が正常に作動しないおそれのある状況

- インストルメントパネルの上や中（グローブボックス内など）・荷室・ドアポケット内など、電波を感じしない場所があります。
- 車外でもドアやドアハンドルに近付けすぎた場合は、エンジン始動が可能になることがあります。

キーフリーシステムが正常に作動しないおそれのある状況

- 近くに次のような強い電波を発生する設備があるとき
 - TV 塔
 - 発電所
 - 放送局
 - 電光掲示板
 - ガソリンスタンド
 - コインパーキング
 - 無線機や携帯電話などの無線通信機器やポータブルオーディオ、または他車の電子カードキーと一緒に携行したとき
 - 電子カードキー本体が金属製の物と接していたり、覆われたりしているとき
 - 電子カードキーの電池が消耗しているとき
-

使いかた

ドアの開閉

ドア	80
バックドア	81

シートの使いかた

フロントシート	83
リヤシート	83
ヘッドレスト	84

メーター

メーター	85
マルチインフォメーション ディスプレイ	86
TFT マルチインフォメーション ディスプレイ	87

スイッチの使いかた

ランプスイッチ	96
ワイパースイッチ	100
方向指示スイッチ	101
エンジンスイッチ (キーフリーシステム装着車)	101
VSC & TRC OFF スイッチ	103
スマートアシスト OFF スイッチ	103
コーナーセンサーブザー OFF スイッチ	104
eco IDLE OFF スイッチ	104

ヘッドランプマニュアル レベリングスイッチ	105
シートヒータースイッチ (運転席／助手席)	106

エアコンの使いかた

マニュアルエアコン	107
オートエアコン	108

オーディオの使いかた

バックカメラ	109
--------------	-----

装備品の使いかた

サンバイザー	110
ドリンクホルダー	110
収納	110
ビジネスデッキボード	111

ドアの開閉

ドア

▼ 操作を行う前に

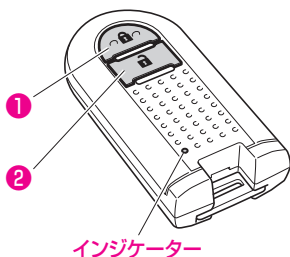
⚠ 警告

- ドアの開閉は確実に行ってください。ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながったり、運転者や同乗者、または荷物が車から投げ出されるおそれがあります。
- 走行中は絶対にドアを開けないでください。車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ドアを開けるときは、周囲の安全を十分確認してください。いきなり開けると後続車にぶつかるおそれがあり危険です。風が強いときは特に注意してドアを開けてください。
- お車から離れるときは、必ずエンジンを止め施錠してください。無人でお車が動き出したり、車両盗難のおそれがあります。
- お子さまに各ドアの開閉をさせたり、いたづらをさせないでください。思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ドアを閉めるとき指などを挟まないように注意してください。

キーフリーシステムによる施錠・解錠

電子カードキー

キーフリーシステム装着車



▼ 操作方法

- ① すべてのドアが施錠
- ② すべてのドアが解錠

📖 知識

ドアの施錠・解錠ができない状況

- エンジンスイッチが“ACC”、または“ON”のとき

ドアの施錠ができない状況

- いずれかのドアが開いているとき

ドアのタイマーロック機能について

- ドアが解錠されたあとにドアの開閉を行わなかった場合は、約30秒後に自動ですべてのドアが施錠されます。

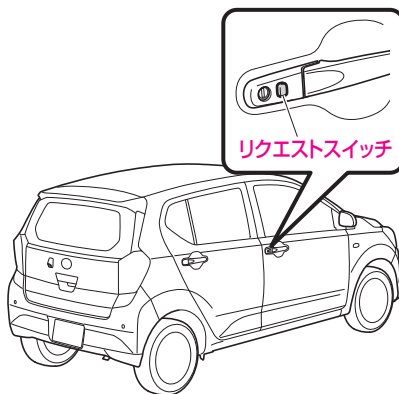
電池の消耗などにより、電子カードキーが使用できないときは

- エマージェンシーキーを使用して施錠・解錠します。
(電子カードキーが使用できないとき→144ページ)

リクエストスイッチによる施錠・解錠

キーフリーシステム装着車

▼ 操作方法



電子カードキーを携帯し、リクエストスイッチを押すと、すべてのドアが施錠・解錠されます。

⚠ 注意

- リクエストスイッチは強い力で押ししたり、鋭利なもので押さないでください。スイッチが破損するおそれがあります。

バックドア

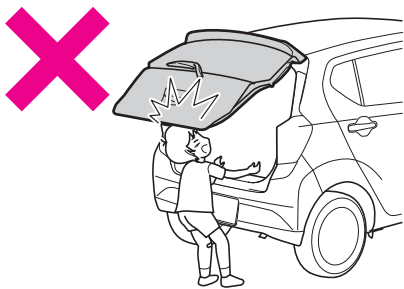
⚠ 警告

走行するときは

- 走行中はバックドアを閉じてください。開けたまま走行すると、ドアが車外のものに当たったり、荷物が道路に落下したりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- 走行前はバックドアを軽くゆすり、ドアが確実に閉まっていることを確認してください。走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 荷室には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

お子さまを乗せているときは

- お子さまにはバックドアの開閉をさせないでください。不意にドアが動いたり、閉めるときに頭をぶつけたり、首や手を挟んだりするなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

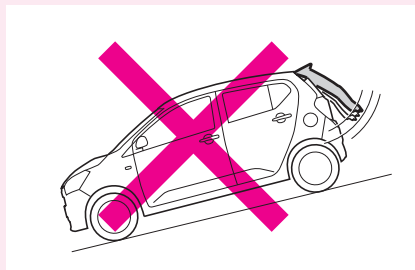


- 荷室でお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病になるなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

バックドアを開閉するときは

- バックドアの開閉や荷物の出し入れをするときは、次のことをお守りください。ドアで頭をぶつけたり、首や手を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- バックドア周辺の安全を十分確認してください。
- 周りに人がいるときは、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- バックドアのふちやその周辺に手をかけずに開閉してください。
- バックドアは必ず全開で静止させてください。開け方が不十分だと、ドアが不意に閉まるおそれがあります。
- バックドアを閉めるときは自分や周りの人の指などを挟まないよう、十分に注意してください。

- 強風時の開閉には注意してください。風にあおられて、ドアが勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 傾斜地での開閉には注意してください。平坦な場所よりもバックドアが開閉しにくかったり、急にドアが閉じたり開いたりするおそれがあります。ドアを開けたときは必ず全開で静止していることを確認してください。

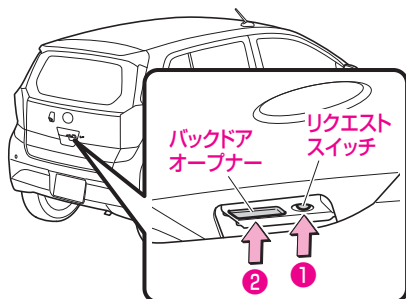


- バックドアを開ける前に、ドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでドアが閉まるおそれがあります。
- エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするときは、排気管の後方に立たないでください。排気熱でやけどをするおそれがあります。
- バックドアを支えているダンパーステーを持ってドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、ステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにダイハツ純正用品以外のアクセサリを取り付けしないでください。ドアの重量が極端に重くなると、開けた時にステーが支えきれなくなり、不意にドアが閉まるおそれがあります。

バックドアの開閉

バックドアの施錠・解錠

キーフリーシステム装着車

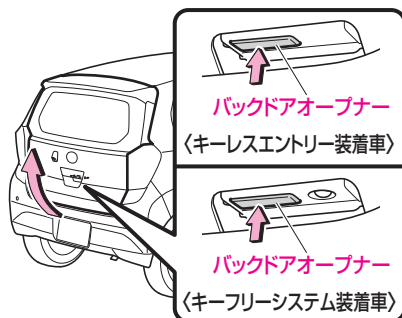


▼ 操作方法

電子カードキーを携帯します。

- ① すべてのドアが施錠
- ② すべてのドアが解錠

バックドアを開けるときは



▼ 操作方法

- バックドアオープナーを押したまま、バックドアをゆっくりと持ち上げる。
- バックドアオープナーを押したあと、約 1 秒間はバックドアを閉めることができません。

バックドアを閉めるときは

▼ 操作方法

- 1 バックドアインナーハンドルを持ってバックドアを途中までゆっくりと下げる
- 2 ハンドルから手を離して、バックドアを上から手で押さえつけるように閉める
- 3 半ドアでないことを確認する



⚠ 警告

- バックドアインナーハンドルで直接バックドアを閉めないでください。手や腕を挟み、けがをするおそれがあります。バックドアは、必ず外から押して閉めてください。

シートの使いかた

フロントシート

⚠ 警告

- 走行中は運転席シートの調整を絶対にしないでください。シートが突然動き、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートの調整は必ず走行前に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

シートを調整するとき

- 次のことを守ってください。
守らないと、けがをしたり、シートが破損したりするおそれがあります。
- 手足を挟んだり、体に当たらないように十分注意する
- シートの下や動いている部分に手足を近づけない
- 同乗者や物に当たらない

背もたれを調整するとき

- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突時に体がシートベルトの下にもぐり、ベルトが腰骨にかからず腹部にかかることになり、シートベルトによりけがをするおそれがあります。
- リクライニングレバーを引き上げるときは背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。
- 背もたれが急に戻るおそれがありますので、必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。

リヤシート

⚠ 警告

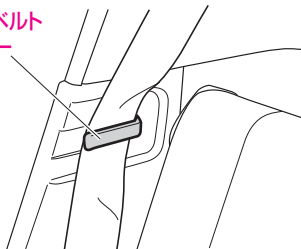
- 荷室には人を乗せないでください。人が乗る構造になっていないため、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 荷物はシートの背もたれより高く積まないでください。後方視界のさまたげになるだけでなく、急ブレーキ時などに前方に荷物が投げ出され、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

前倒しのしかた

▼ 操作方法

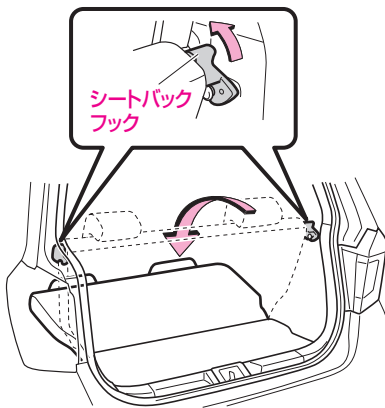
- 1 かみ込み防止のため、シートベルトハンガーにシートベルトをかける

シートベルト
ハンガー



- 2 車両後側から左右両側のシートバックフックを同時に前側に押し、背もたれを前に倒す

シートバック
フック



⚠ 警告

背もたれを前倒しするとき

- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートを操作するとき、または元に戻すときは、手や足などを挟まないように注意してください。

⚠ 警告

- 必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。背もたれが急に倒れるおそれがあります。
- 倒した背もたれの上、または荷室に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

背もたれを元の位置に戻したあとは

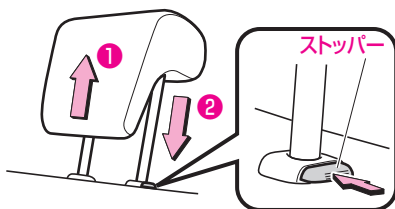
- 背もたれが確実に固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと、急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、荷室内の物が飛び出すなど、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ヘッドレスト

リヤヘッドレスト

オプション／グレード別装備

使用するときは、常に上げた位置にしてください。



▼ 上下調整

① 上げる

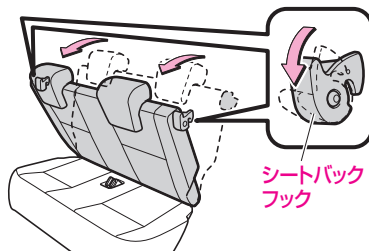
② 下げる

- 下げるときは、ストッパーを押しながら操作します。

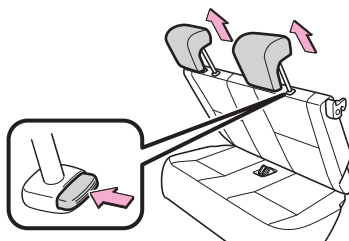
▼ 取り外すときは

1 シートバックフックを操作して、背もたれを前に倒す

- ヘッドレストを外すことができる位置まで前に倒してください。



2 ストッパーを押しながら、ヘッドレストを外す



⚠ 警告

- リヤシートに人を乗せるときは、ヘッドレストを外したまま、または下げた状態のまま走行しないでください。衝突時などに、首に大きな衝撃が加わり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレストは必ず上げた状態で使用してください。
- ヘッドレストを前後逆に取り付けしないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

📖 知識

ヘッドレストを調整したあとは

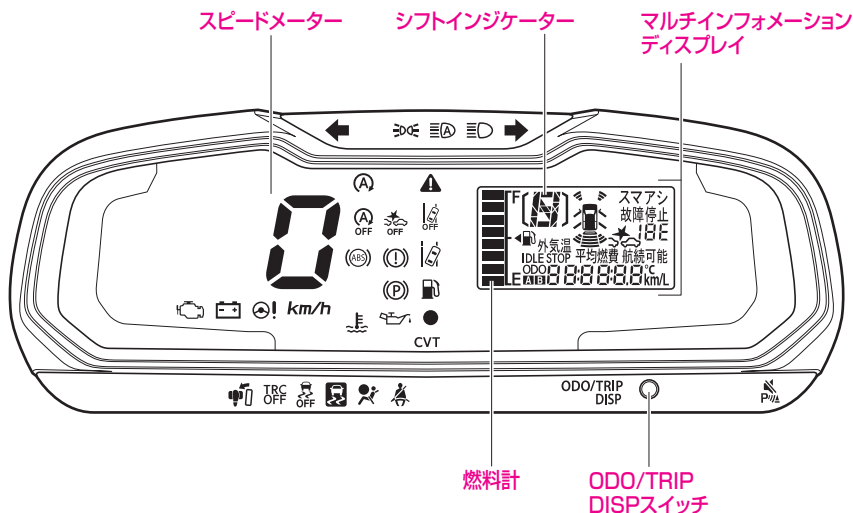
- ヘッドレストを押して固定されていることを確認してください。

メーター

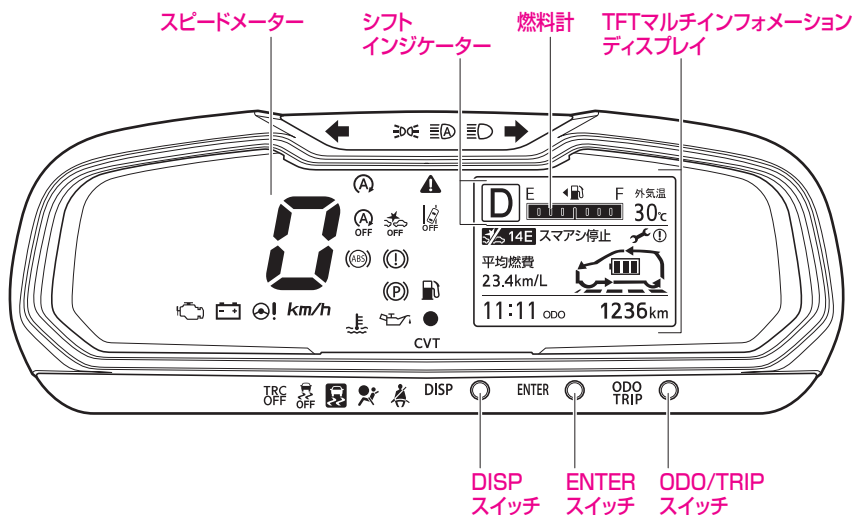
メーター

- エンジンスイッチを“ON”にするとスピードメーターが“188km/h”を表示し、数秒後に“0km/h”になります。

アンバーイルミネーションメーター（マルチインフォメーションディスプレイ）



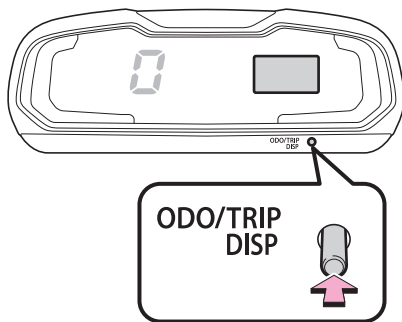
ブルーイルミネーションメーター（TFT マルチインフォメーションディスプレイ）



マルチインフォメーションディスプレイ

アンバーイルミネーションメーター装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき、走行に関するさまざまな情報をメーターのディスプレイ部に表示します。

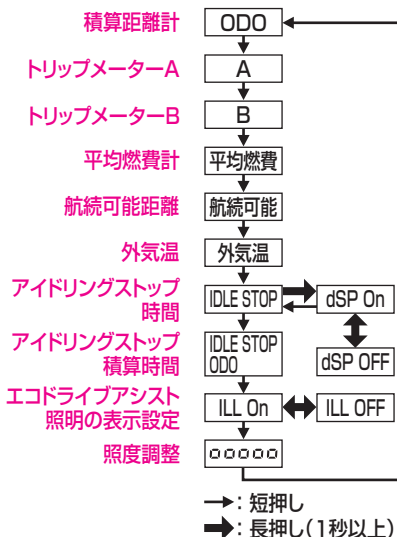


操作方法

▼ ODO/TRIP DISP スイッチ

- ODO/TRIP DISP スイッチを押すごとに、表示が切り替わります。

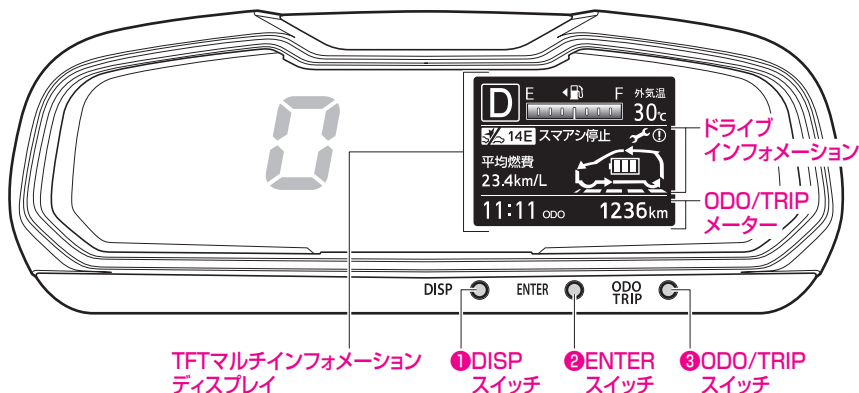
▼ ODO/TRIP DISP スイッチによる切り替わりかた



TFT マルチインフォメーションディスプレイ

ブルーイルミネーションメーター装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき、車両や走行に関するさまざまな情報をメーターのディスプレイ部（画面）に表示します。



操作方法

メーターにあるスイッチで、表示画面の切り替えや表示設定を行います。

① DISP スイッチ

主に次の場合に使用します。

- 表示画面の設定で項目の下送りをするとき
- ドライブインフォメーションを切り替えるとき
(ドライブインフォメーション→88ページ)

③ ODO/TRIP スイッチ

主に次の場合に使用します。

- 表示画面の設定で項目の上送りをするとき
- ODO/TRIP メーターの表示を切り替えるとき
(ODO/TRIP メーター→88ページ)

② ENTER スイッチ

主に次の場合に使用します。

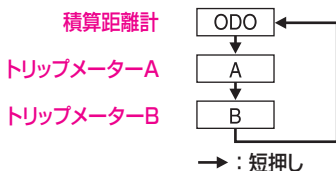
- 項目の決定、選択をするとき
- “設定画面”に表示を切り替えるとき
(設定画面→93ページ)

ODO/TRIP メーター

エンジンスイッチが“ON”のとき表示します。
ODO/TRIP スイッチを押すごとに表示が切り替わります。

(操作方法→87ページ)

▼ ODO/TRIP スイッチによる切り替わりかた



時計

エンジンスイッチが“ON”のとき、表示します。

日時の設定は、設定画面で行います。

(日時設定→93ページ)

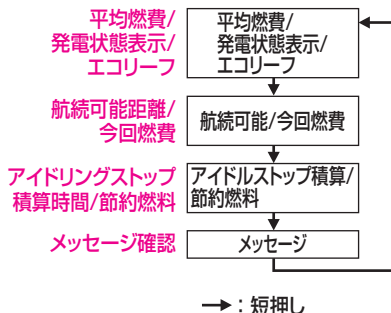
ドライブインフォメーション

エンジンスイッチが“ON”のとき表示します。

DISP スイッチを押すごとに表示が切り替わります。

(操作方法→87ページ)

▼ DISP スイッチによる切り替わりかた



メッセージ確認

“ENTER で確認”と表示しているときに、ENTER スイッチを押してメッセージ表示します。

(スマートアシスト停止警告灯→65ページ)

(メッセージ→89ページ)



知識

- メッセージがないときは、“メッセージなし”と表示されます。



メッセージ

システムの作動や異常などが発生するとメッセージ（警告・表示）が表示されます。

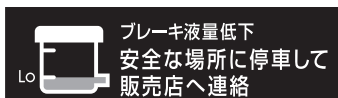
メッセージが表示されたときは表示内容を確認し、ただちに適切な処置を行ってください。

例：エンジン冷却水高温

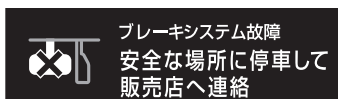


- 複数のシステムの作動や異常が発生している場合は、数秒ごとにメッセージ（警告・表示）の表示が切り替わります。
- エンジンスイッチが“ON”のときは、ENTER スイッチを押すとメッセージを非表示にできます。
 - 基本画面に戻り、メッセージアイコンが表示されます。（基本画面→92ページ）
 - 非表示にしても、数秒後に再表示される警告メッセージがあります。

メッセージ（警告）一覧



（ブレーキ警告灯→134ページ）



（ブレーキ警告灯→134ページ）



充電システム故障
安全な場所に停車して
販売店へ連絡

（充電警告灯→133ページ）



エンジン油圧低下
安全な場所に停車して
販売店へ連絡

（油圧警告灯→133ページ）



エンジン冷却水高温
安全な場所に停車して
販売店へ連絡

（水温警告灯（赤色）→134ページ）



エンジンシステム異常
販売店で点検を
受けてください

（エンジン警告灯→133ページ）



SRSエアバッグ故障
販売店で点検を
受けてください

（SRS エアバッグ警告灯→137ページ）



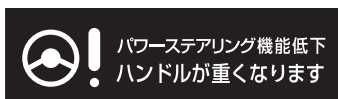
ABS故障
販売店で点検を
受けてください

（ABS 警告灯→136ページ）



パワーステアリング故障
販売店で点検を
受けてください

（電動パワーステアリング警告灯→138ページ）



(電動パワーステアリング警告灯→138ページ)



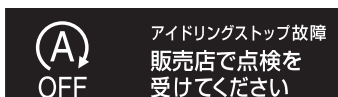
(コーナースエンサー表示灯→69ページ)



(VSC & TRC 警告灯→138ページ)



(キーフリーシステム異常警告)



(eco IDLE OFF 表示灯→74ページ)



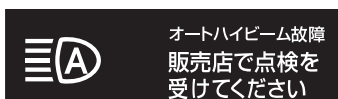
(マスターウォーニング→138ページ)



(CVT 警告灯→135ページ)



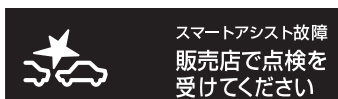
(駐車ブレーキ未解除警告灯→133ページ)



(オートハイビーム警告灯→99ページ)



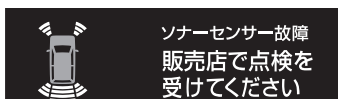
(シートベルト締め忘れ警告灯 (運転席・助手席)
→135ページ)



(スマートアシスト故障警告灯→64ページ)



(半ドア警告灯→136ページ)



(コーナースエンサー表示灯→69ページ)



(燃料残量警告灯→136ページ)



ライトを
消してください

(ランプ消し忘れ警告)



車内にキーがあります

(電子カードキー閉じ込み警告)



シートベルトが
外れたためエンジンを
再始動しました

(警告ブザー→73ページ)



キーの電池残量が
残りわずかです

(キーフリー電池残量警告)



ドアが開いたため
エンジンを
再始動しました

(警告ブザー→73ページ)



キーを抜いてください

(キー抜き忘れ警告)



スマートアシスト作動
前方注意！！

(スマートアシスト作動灯→63ページ)



電源をOFFに
してください

(エンジンスイッチ切り忘れ警告)



スマートアシスト作動
後方注意！！

(スマートアシスト作動灯→63ページ)



ハンドルを左右に回し
ながらエンジンスイッチ
を押してください

(エンジンスイッチ (キーフリーシステム装着車)
→101ページ)



キーが見つかりません

(キー無し警告)



Pレンジに入れて電源を
OFFにしてください

(エンジンスイッチモードの切り替え
→102ページ)



ブレーキを踏みながら
キーでエンジンスイッチ
に触れてください

(電子カードキーが使用できないとき
→144ページ)



バッテリー保護のため
自動で電源を
OFFにしました

(エンジンスイッチ自動 OFF 機能)



タイヤが左を
向いています

(ハンドルポジション方向通知 (左側))



タイヤが右を
向いています

(ハンドルポジション方向通知 (右側))

メッセージ (表示) 一覧



VSCが作動しました

(スリップインジケータ→141ページ)



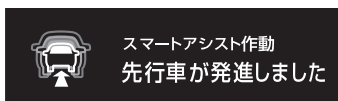
スマートアシスト作動
車線逸脱警報が
作動しました

(車線逸脱警報作動灯→64ページ)



ブレーキとアクセルが
両方踏まれています

(ブレーキオーバーライドシステム表示灯
→142ページ)



スマートアシスト作動
先行車が発進しました

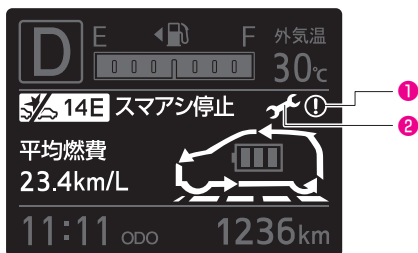
(スマートアシスト作動灯→63ページ)



ソナーセンサー作動
周辺注意

(コーナーセンサー表示灯→69ページ)

基本画面



①メッセージアイコン

- エンジンスイッチが“ON”で、メッセージがあるときに点灯します。
- 点灯している場合は、DISP スイッチを押してメッセージの内容を確認し、ただちに適切な処置を行ってください。
(メッセージ確認→88ページ)

②メンテナンスアイコン

- エンジンスイッチが“ON”で、次のときに点灯します。
 - 車検日、点検日のお知らせがあるとき
 - エンジンオイル交換、オイルフィルター交換、タイヤローテーションのお知らせがあるとき
(車検日、点検日→92ページ)
(エンジンオイル交換、オイルフィルター交換、タイヤローテーション→93ページ)
- 点灯している場合は設定を確認し、メンテナンスを行った後に再度設定をしてください。

オープニング画面

エンジンスイッチを“ON”にしたとき、演出画面を表示したあとに日付とお知らせを数秒間表示します。

新年のごあいさつ

誕生日、記念日

車検日、点検日

設定日まで残り 1 か月を切ったときと、設定日以降に表示されます。

(設定画面→93ページ)

エンジンオイル交換、オイルフィルター交換、タイヤローテーション

メンテナンスの設定距離まで残り 500km を切ったときと、設定距離に到達した日以降に表示されます。

(設定画面→93ページ)

エンディング画面

エンジンスイッチを“ON”から“OFF”にするまでの間の“走行時間”、“走行距離”、“節約燃料”、“スコア”、“今回燃費”、“平均速度”を表示します。



スコア（燃費）

エンジンを“ON”にしてから“OFF”にするまでに、環境に配慮した運転の度合を点数で表示します。

設定画面

停車中に画面の設定や調整、機能の“ON”、“OFF”を変更することができます。

- 基本画面を表示しているときに ENTER スイッチを押すと、“設定画面”が表示されます。
- ODO/TRIP スイッチ、または DISP スイッチを長押しすると、表示画面が切り替わります。

知識

- 走行中はENTERスイッチを押しても表示が切り替わりません。
- 基本画面に“メッセージ確認”が表示されているときは、表示は切り替わりません。

(メッセージ確認→88ページ)

日時設定

- 1 “日時設定”を選択する
- 2 時計、時計表示（12 時間表示、24 時間表示）を設定する

- “12H/24H”（時計表示）は、ENTER スイッチを押すたびに“12H”（12 時間表示）と“24H”（24 時間表示）が切り替わります。



- 3 年、月、日は表示画面を切り替えて設定する



知識

- “日時設定”を表示しているとき、時計機能は作動を停止します。
“戻る”または“終了”を選択すると、0秒にリセットされた状態から作動を始めます。
- “12H/24H”の設定に関わらず、時計調整時は24時間表示になります。

明るさ調整

メーターの照度調整をします。

表示オプション

表示、および機能の“ON”、“OFF”を設定します。

車両設定

▼ 先行車発進ブザー、車線逸脱警報ブザー音量設定

スマートアシストⅢの先行車発進お知らせ機能、車線逸脱警報機能のブザー音量を調整します。

- 1 “車両設定”を選択する
- 2 先行車発進ブザー音量、車線逸脱警報ブザー音量の“大”、“小”の設定をする
 - ENTERスイッチを押すたびに“大”、“小”が切り替わります。



▼ 表示設定初期化

表示設定を初期化（出荷時の状態）します。

▼ 初期設定一覧

項 目		初期設定
明るさ調整	昼間用	レベル10
	夜間用	レベル6
表示オプション	オープニング、エンディング表示	ON
	エコドライブ照明	ON
	平均燃費給油リセット	OFF
	アイドルストップ表示自動切替	ON
	ハンドルポジションモニター	ON
車両設定	先行車発進ブザー音量	大
	車線逸脱警告ブザー音量	大
お知らせ日設定	設定日1～6	未設定
メンテナンス設定	オイル交換お知らせ	OFF
	オイルフィルター交換お知らせ	OFF
	タイヤローテーションお知らせ	OFF

お知らせ日設定

オープニング画面で表示される次の項目の通知日を設定します。

- 誕生日
- 記念日
- 車検日
- 点検日

メンテナンス設定

オープニング画面で表示される次の項目の“ON”と“OFF”の切り替え、距離の設定とリセットをします。

- オイル交換お知らせ
- オイルフィルター交換お知らせ
- タイヤローテーションお知らせ

1 “メンテナンス設定”を選択する

2 メンテナンスの各項目の“ON”、または“OFF”を選択して、ENTERスイッチを押す

- ENTERスイッチを押すたびに“ON”、“OFF”が切り替わります。

例：オイル交換お知らせ



3 “お知らせ距離設定”を選択する



4 “リセット”を選択する



5 距離を選択した後、“決定”を選択する



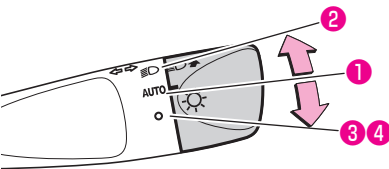
6 設定した距離が表示される

スイッチの使いかた

ランプスイッチ

ランプの点灯

自動または手動でヘッドランプ、車幅灯などが点灯・消灯します。



操作方法

- エンジンスイッチが“ON”のとき、スイッチを操作すると、下表のランプ類が点灯・消灯します。

ランプ		前照灯		車幅灯 番号灯 尾灯	
スイッチ位置					
①	AUTO	自動点灯・消灯			
②		点灯*1			
③*2,3	O(OFF)	消灯		点灯	
④*2,4		消灯			

- *1 エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”のときも点灯します。
- *2 スwitchを“OFF”の位置にして手を離すと、“AUTO”の位置に戻ります。
- *3 車速が約3km/h 以下で自動点灯しているとき
- *4 車速が約3km/h 以下で自動点灯しているときに、スイッチを約1秒以上操作したとき

ランプ類の再点灯について

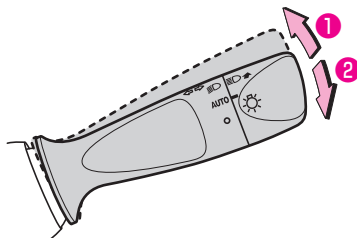
スイッチを“OFF”の位置にしてランプ類を消灯したあと、次のいずれかの場合、ランプ類が再点灯します。

- 車速が約 3km/h を超えたとき
- 再度スイッチを“OFF”にしたとき
- エンジンスイッチを再度“ON”にしたとき
- 車速が約 3km/h 以下（停車時を除く）の状態のまま約 30 秒経過したとき

ヘッドランプの切り替え

▼ ハイビームに切り替える

- 前照灯が点灯しているときにレバーを押します。(1)
(戻すと下向き(ロービーム)になります)



▼ 一時的に使用する

- 前照灯が消灯しているとき、レバーを手前に引いている間(2)、前照灯が上向きに点灯します。
(レバーを離すと下向き(ロービーム)または消灯します)

⚠ 警告

- 対向車のあるときや市街地走行のときは、対向車や歩行者の迷惑となり危険ですので前照灯を下向きにして走行してください。

オートハイビーム

フロントウインドガラス上部に設置されたステレオカメラにより、対向車、または先行車のランプや街灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切り替えます。

(ステレオカメラ→51ページ)

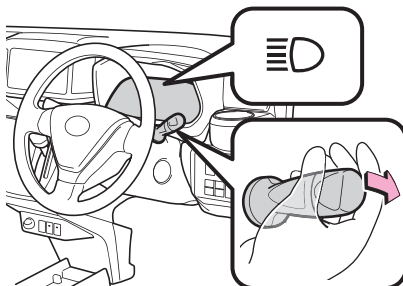
⚠ 警告

安全にお使いいただくために

- オートハイビームを過信しないでください。オートハイビームは運転者の視界確保を補助、支援することを目的としています。状況によってはハイビームとロービームが切り替わらない場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

▼ 使用方法

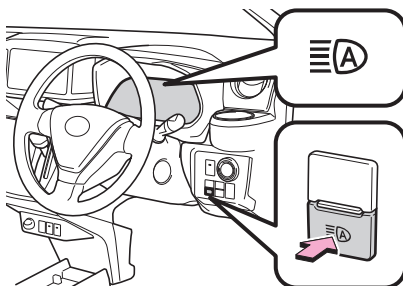
- 1 エンジンスイッチが“ON”で、ランプスイッチが“D”または“AUTO”の位置のときレバーを前方へ押す
 - ヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。



- 2 オートハイビームスイッチを押す

- オートハイビームが作動すると、オートハイビーム作動灯が点灯します。

(オートハイビーム作動灯(緑色)→99ページ)



■ 自動切り替え条件について

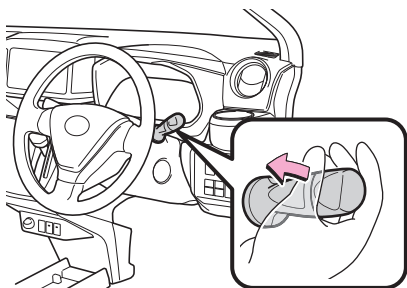
- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームに切り替わります。
 - 車速が約 25km/h 以上
 - 車両前方が暗い
 - 対向車、または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
 - 前方の街灯が暗い
- 次のいずれかの条件になると、ロービームに切り替わります。
 - 車速が約 20km/h 以下
 - 車両前方が明るい
 - 対向車、または先行車がランプを点灯している
 - 前方の街灯が明るい

■ 手動切り替え方法

▼ ロービームへの切り替え

レバーを元の位置に戻します。

- オートハイビーム作動灯が消灯します。

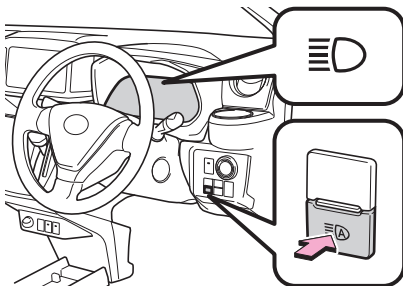


オートハイビームに戻すには、再度レバーを前方に押します。

▼ ハイビームへの切り替え

オートハイビームスイッチを押します。

- オートハイビーム作動灯が消灯し、ヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。



オートハイビームに戻すには、再度スイッチを押します。

⚠ 注意

- 次の状況では、オートハイビームは作動しません。手動に切り替えることで通常走行に支障ありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

アンバーイルミネーションメーター装着車

- オートハイビーム警告灯（黄色）が点灯したとき（オートハイビーム警告灯→99ページ）

ブルーイルミネーションメーター装着車

- マスターウォーニングが点灯し、「オートハイビーム故障」のメッセージが表示されているとき（マスターウォーニング→138ページ）
（オートハイビーム警告灯→99ページ）

知識

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切り替わらない場合があります。
 - 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - 他車が前方を横切ったとき
 - 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
- 街灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切り替わる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切り替えタイミングが変化する場合があります。
 - 対向車または先行車のランプの明るさ
 - 対向車または先行車の動きや向き
 - 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
 - 対向車または先行車が二輪車のとき
 - 道路状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - 乗車人数や荷物の量
- オートハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を確認するため、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切り替わる場合があります。
- 自転車などの軽車両は認識しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正しく認識されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手でハイビームとロービームを切り替えてください。
 - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
 - フロントガラスの曇りや汚れ、雨粒、シールなどでステレオカメラ前方が覆われているとき
 - ステレオカメラの温度が高いとき
 - 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - 対向車や先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変形があったり光軸がずれているとき
 - 急激な明るさの変化が連続するとき
 - 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
 - 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
 - コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
 - バンクやけん引などにより車両が傾いているとき
 - 著しくぬれた路面が圧雪路など、光を強く反射する路面のとき

オートハイビーム作動灯（緑色）



- エンジンスイッチが“ON”で、オートハイビームが作動したときに緑色に点灯します。

オートハイビーム警告灯



〈アンバーイルミネーションメーター〉



オートハイビーム故障
販売店で点検を
受けてください

〈ブルーイルミネーションメーター〉

- エンジンスイッチが“ON”で、オートハイビームに異常があるときに点灯します。

アンバーイルミネーションメーター装着車

- エンジンスイッチを“ON”にするとオートハイビーム警告灯（黄色）が点灯し、数秒後に消灯します。
- 異常時、オートハイビーム警告灯（黄色）が点灯します。

ブルーイルミネーションメーター装着車

- 異常時、メッセージが表示されます。（同時にマスターウォーニングも点灯します）

（マスターウォーニング→138ページ）

⚠ 注意

点灯した場合

- オートハイビームは作動しません。手動に切り替えることで通常走行に支障ありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

ワイパースイッチ

⚠ 警告

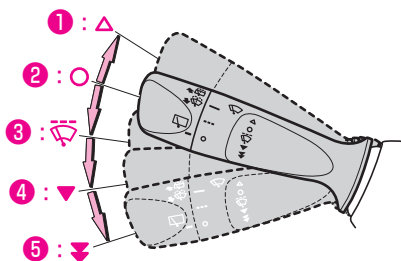
- 寒冷時は、ガラスが温まるまで、ウォッシャー液を吹き付けしないでください。吹き付けられた液が凍結し、視界をさまたげることがありますので、先にガラス面を温めてください。

フロント

エンジンスイッチが“ON” のとき使用できます。

ワイパーの使いかた

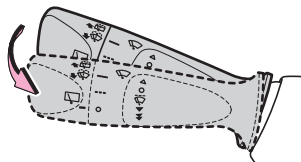
レバーを上下に操作すると、ワイパーが作動します。



- ①：一時作動
- ②：停止
- ③：間欠作動
- ④：低速作動
- ⑤：高速作動

ウォッシャー液の噴射

レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。

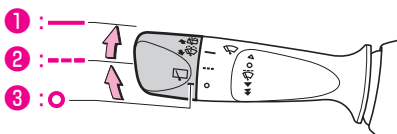


リヤ

エンジンスイッチが“ON” のとき使用できます。

ワイパーの使いかた

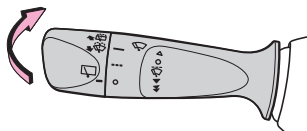
スイッチを回すと、リヤワイパーが作動します。



- ①：低速作動
- ②：約 4 秒間低速作動した後、間欠作動
- ③：停止

ウォッシャー液の噴射

レバーを押すとウォッシャー液が噴射します。



方向指示スイッチ

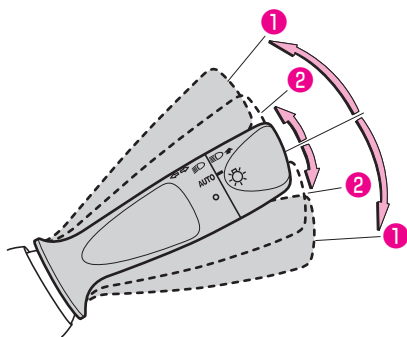
▼ 操作方法

スイッチを(1)の位置まで上下に操作すると、方向指示灯およびメーター内の方向指示表示灯が点滅します。

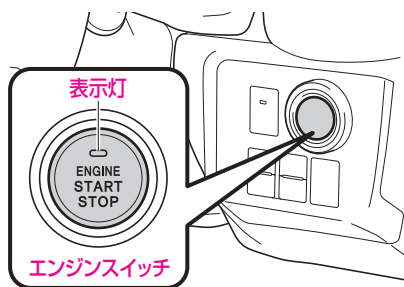
- スイッチは操作したあと、すぐに元の位置に戻ります。
- 右左折後、ハンドルを戻すと消灯します。消灯しないときは、レバーを(2)の位置まで軽く操作してください。

車線変更などのときは、レバーを(2)の位置で保持します。

- スイッチを上下に操作している間点滅し、手を離すと消灯します。
- (2)の位置まで操作したあと、すぐに手を離れたときは、3回点滅します。



エンジンスイッチ（キーフリーシステム装着車）



プッシュボタンスタート

■ エンジンのかけかた

▼ 準備

- 電子カードキーを携帯し、運転席に座ります。
- 正しい運転姿勢がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。
(正しい運転姿勢→19ページ)

▼ 操作手順

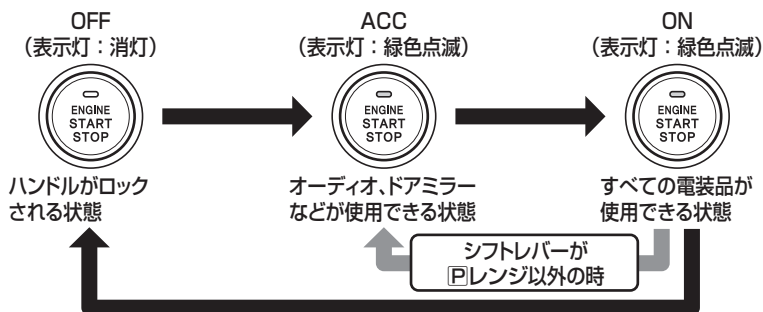
- 1 シフトレバーが“P”レンジの位置にあることを確認する
- 2 ブレーキペダルをしっかりと踏む
 - エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。
- 3 ブレーキペダルを踏んだまま、エンジンスイッチを押す

■ エンジンの停止方法

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 駐車ブレーキをかける
- 3 シフトレバーを“P”レンジにする
- 4 エンジンスイッチを押す
- 5 ブレーキペダルから足を離れた状態で、エンジンスイッチの表示灯が消灯していることを確認する

エンジンスイッチモードの切り替え

ブレーキペダルを踏まずに、エンジンスイッチを押すと、モードを切り替えることができます。



- スイッチを押すごとにモードが切り替わります。
- シフトレバーが“P”レンジ以外のときは“OFF”になりません。

ハンドルロック

エンジンスイッチを“OFF”にしたあとにバックドアを除くいずれかのドアを開閉すると、ハンドルロック機能によりハンドルがロックされます。エンジンスイッチを操作すると、ハンドルロックは自動で解除されます。

⚠ 警告

- 走行中、エンストなどで車両が滑走状態になったときは、安全な状態で車両が停止するまで、ドアを開けないでください。ドアを開けるとハンドルロックが作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。安全な場所に停車させたあと、ただちに、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

エンジンスイッチの取扱い

⚠ 警告

緊急時のエンジン停止方法

- 次の操作を行うと、走行中でもエンジンが止まります。ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチの操作をしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジンスイッチを3秒以上押し続ける
- エンジンスイッチを3回以上連打する
(車両を緊急停止するには→162ページ)

⚠ 注意

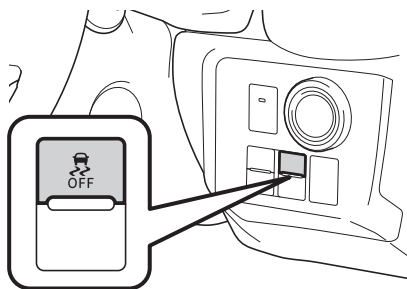
エンジンスイッチ表示灯が橙色に点滅したときは

- システムの異常が考えられます。エンジンスイッチを“OFF”にせず、ただちにダイハツサービス工場にご連絡ください。(いったん“OFF”にすると、エンジンを再始動できなくなることがあります)

VSC & TRC OFF スイッチ

VSC や TRC は新雪路、深雪路、砂地等からの脱出には適さない場合があります。

このようなときは VSC & TRC OFF スイッチを押して VSC と TRC を“OFF”にします。



▼ TRC を“OFF”にするとき

- エンジンスイッチが“ON”のとき、VSC & TRC OFF スイッチを短押し（3 秒以内）します。
（メーター内の TRC OFF 表示灯が点灯します）

▼ VSC と TRC を“OFF”にするとき

- エンジンスイッチが“ON”で車両が停止しているとき、VSC & TRC OFF スイッチを 3 秒以上押し続けます。
（メーター内の TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します）

▼ 作動可能状態に戻るとき

- VSC & TRC OFF スイッチをもう 1 度押します。
（TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が消灯します）

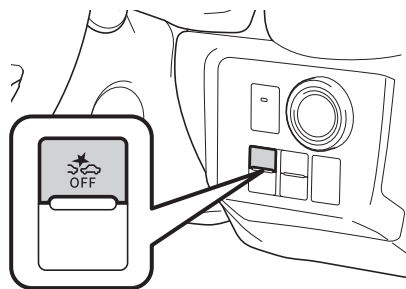
知識

- VSC や TRC を作動停止にした場合でも、エンジンを始動するたびに自動的に VSC と TRC は作動可能状態に戻ります。

スマートアシスト OFF スイッチ

エンジンスイッチが“ON”のとき、スマートアシスト OFF スイッチを操作することで、スマートアシストⅢの次の機能を停止することができます。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
- 先行車発進お知らせ機能
- 車線逸脱警報機能



衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能、誤発進抑制制御機能、先行車発進お知らせ機能を“OFF”にするとき

- スマートアシスト OFF スイッチを約 2 秒以上押し続けると、“OFF”になります。
 - メーター内のスマートアシスト OFF 表示灯が点灯し、ブザーが鳴ります。
- “ON”（作動可能状態）に戻るときは、再度スイッチを約 2 秒以上押し続けます。
 - メーター内のスマートアシスト OFF 表示灯が消灯し、ブザーが鳴ります。

知識

- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを“OFF”にしても、エンジンスイッチを“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。

車線逸脱警報機能を“OFF”に するとき

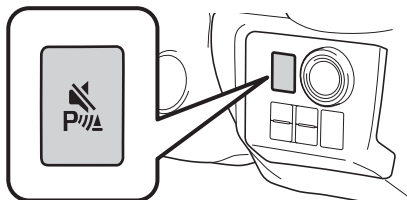
- スマートアシスト OFF スイッチを押すと、“OFF”になります。
 - メーター内の車線逸脱警報OFF表示灯が点灯し、ブザーが鳴ります。
- “ON”（作動可能状態）に戻すときは、再度スイッチを押します。
 - メーター内の車線逸脱警報OFF表示灯が消灯し、ブザーが鳴ります。

知識

- 車線逸脱警報機能の“ON”または“OFF”の状態は、エンジンを再始動しても維持されます。

コーナーセンサー ブザー OFF スイッチ

コーナーセンサー作動中にコーナーセンサーブザーOFFスイッチを押すと、ブザーが止まります。



知識

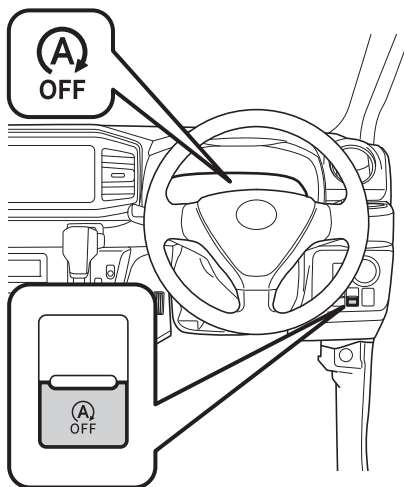
- コーナーセンサーブザー OFF スイッチでブザーを止めたあと、次の操作をすると再度ブザーが鳴るようになります。
 - コーナーセンサーブザー OFF スイッチを押す
 - シフトポジションを切り替える
 - 一定以上の車速で走行する
 - 一度エンジンスイッチを“OFF”にしてから“ON”にする

eco IDLE OFF スイッチ

eco IDLE の作動を停止したいときにスイッチを押します。

操作方法

- スイッチを押すと、eco IDLE の作動停止状態になります。
 - メーター内のeco IDLE OFF表示灯が点灯します。
- もう一度スイッチを押すと、eco IDLE 作動停止状態が解除されます。
 - eco IDLE OFF 表示灯が消灯します。
(eco IDLE 表示灯→74ページ)
(eco IDLE OFF 表示灯→74ページ)



知識

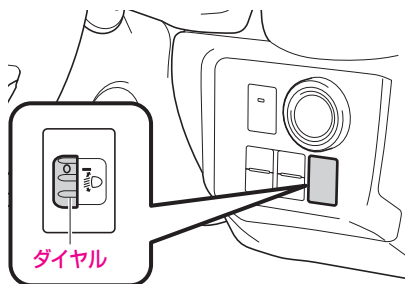
- アイドリングストップ中に、スイッチを押すとエンジンが再始動し、eco IDLE 作動停止状態になります。
(eco IDLE OFF 表示灯が点灯します)
- eco IDLE はエンジンスイッチ操作によるエンジン始動をするたびに、作動可能状態に戻ります。

ヘッドランプマニュアルレベリングスイッチ

ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

- ヘッドランプの光軸（光の照らす方向）が上に向いた場合、ダイヤルを回すことで光軸を下向きに調整することができます。
- 通常はダイヤルを“0”（光軸が一番上向きの位置）で使用します。

▼ 調整方法



ダイヤルを回すと、ヘッドランプの光軸が上下に変わります。

- ダイヤルの数字が大きいほど下向きになります。
- 乗員数や積載量に応じて、下表を目安にダイヤルを調整してください。

乗車や荷室の積載状況	ダイヤル位置			
	ハロゲンヘッドランプ		LEDヘッドランプ	
	2WD	4WD	2WD	4WD
運転席のみ乗車時	0	0	0	0
運転席と助手席に乗車時	0	0	0	0
4名乗車時	1.5	1.5	2	2
4名乗車で荷室満載時	2	2.5	3	3
運転席のみ乗車で荷室満載時	2.5	3	3.5	4

📖 知識

- 乗員や荷物を降ろしたあとは、ダイヤルを“0”に戻してください。
- 車検などで光軸の調整をするときは、ダイヤルを“0”にしてから行ってください。

シートヒータースイッチ (運転席／助手席)

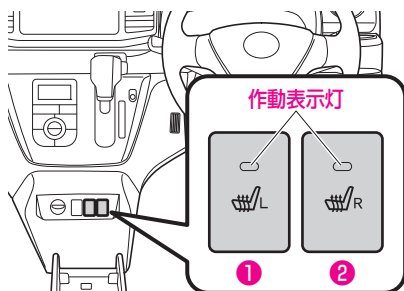
オプション／グレード別装備

エンジンスイッチが“ON”のとき使用できます。

① 助手席側

② 運転席側

- スイッチを押すと、シートの背もたれと座面が温まります。
 - 作動表示灯が点灯します。
- スイッチをもう一度押すと、作動が停止します。
 - 作動表示灯が消灯します。



⚠ 警告

- 次に相当されるかたがご使用になるときは、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので十分注意してください。
- 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
- 皮ふの弱いかた
- 疲労の激しいかた
- 深酒やねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を使用したかた
- 毛布や座布団など保温性のよい物をかけた状態で使用しないでください。シートが異常加熱し、低温やけどやシートヒーターの故障につながるおそれがあります。
- シートヒーターを必要以上に使用しないでください。

低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常加熱の原因になるおそれがあります。

エアコンの使いかた

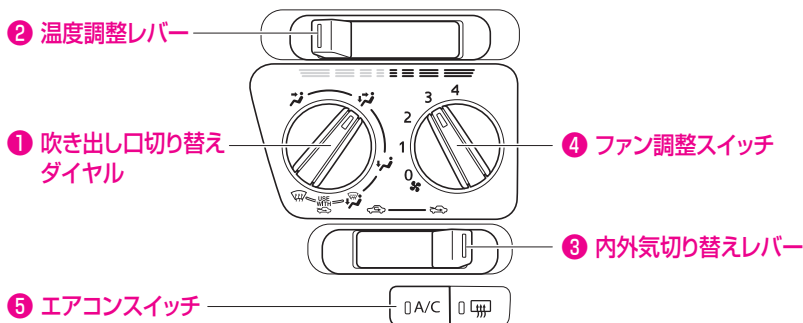
⚠ 警告

- eco IDLE によるアイドリングストップ中は、エアコンが作動しないため室内の湿度が上がってガラスが曇ることがあります。エンジンを再始動し、エアコンを作動させてください。
 - 停車時 (eco IDLE によるアイドリングストップ中は除く) の冷房効果を向上させるために、エンジンアイドリング回転を少し高くするアイドルアップ装置が付いています。アイドルアップ装置作動中の発進、停止時の運転操作に注意してください。
- 冷房中、一時停止する場合はブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

マニュアルエアコン

オプション/グレード別装備

コントロールパネル



ガラスの曇りを取るとき

▼ 操作方法

- 吹き出し口切り替えダイヤル (①) を  にする
- 状況に応じて温度調整レバー (②) を調整する
- 内外気切り替えレバー (③) を  にする
- 状況に応じてファン調整スイッチ (④) を調整する
- エアコンスイッチ (⑤) を“ON”にする

▼ より早くガラスの曇りを取る場合

ガラスの曇りを取る操作と併せて、次の操作を行います。

- ファン調整スイッチ (④) で風量を増す

- 温度調整レバー (②) を右 (高温側) にスライドする

⚠ 警告

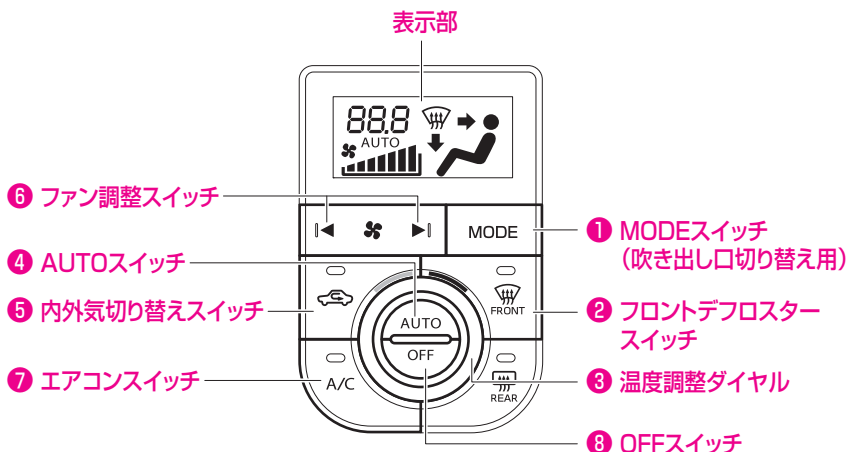
ガラスの曇りを防止するために

- 温度調整レバー (②) を一番左 (最低温) に操作しないでください。冷風がガラスに当たるとガラスの外側が曇ることがあります。
 - 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、吹き出し口を  または  に切り替えないでください。
- 外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

オートエアコン

オプション／グレード別装備

コントロールパネル



ガラスの曇りを取るとき

寒冷時や、雨のときなどガラスが曇ったときに使用します。

▼ 操作方法

- 1 フロントデフロスタースイッチ (②) を押すと、吹き出し口が切り替わる
 - 自動的にエアコンが作動して外気導入に切り替わります。
- 2 スイッチをもう一度押すと、曇り止めが停止し、元の状態に戻る

▼ より早くガラスの曇りを取る場合

- ガラスの曇りを取る操作と併せて、次の操作を行います。
 - ファン調整スイッチ (⑥) を操作して、風量を増す
 - 温度調整ダイヤル (③) を操作して、設定温度を上げる

⚠ 警告

ガラスの曇りを防止するために

- 温度調整ダイヤル (③) を最低温に操作しないでください。冷風がガラスに当たるとガラスの外側が曇ることがあります。
- 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、吹き出し口を  に切り替えしないでください。
外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。
- 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、フロントデフロスタースイッチ (②) を“ON”にしないでください。
外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

オーディオの使いかた

バックカメラ

オプション／グレード別装備

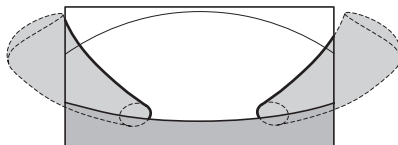
⚠ 警告

- 後退するときは、必ず後方や周辺の安全を直接確認しながら運転してください。
- バックカメラのレンズの特性により、映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。
- バックカメラを過信しないでください。一般の車両と同様、必ず後方や周辺の安全を直接確認しながら慎重に後退してください。特に周辺に駐車している車両や障害物などに接触しないように注意してください。
- 映像だけを見ながら後退することは絶対にしないでください。映像と実際の状況は異なっていることがあり、映像だけを見て後退すると車両をぶつけたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。後退するときは、必ず目視やミラーなどで後方や周辺の安全を直接確認してください。
- 次のような状況では使用しないでください。
 - 凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
 - タイヤチェーンを使用しているとき
 - バックドアが完全に閉まっていないとき
 - 坂道など平坦でない道路
- 外気温が低いときは、映像が暗くなったり、薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または見えなくなることがありますので、必ず周囲の安全を直接目視で確認してから運転してください。

画面に映る範囲

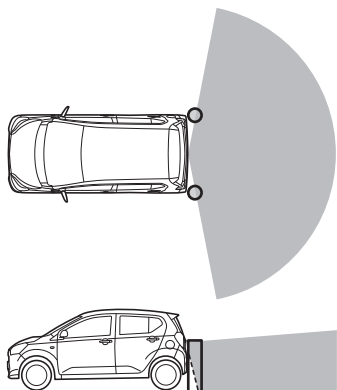
リヤバンパー後端から車両の後方（下図の範囲）が映ります。

映像



バンパーの両端付近は映りません

映る範囲



装備品の使いかた

サンバイザー

⚠ 警告

- サンバイザーと天井の間にものを挟まないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあります。
- サンバイザーのチケットホルダー、カードホルダーには、使用用途以外のものを入れないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあります。

バニティーミラー装着車

- バニティーミラーは、走行中に使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

ドリンクホルダー

⚠ 警告

- 飲み物は振動で中身がこぼれるおそれがありますので、フタをしてこぼれないようにしてください。特に温かい飲み物は、やけどを防ぐために必ずフタをしてください。
- ドリンクホルダーには、使用用途以外の物を置かないでください。急ブレーキをかけたときや、衝突したときなどに置いていた物が飛び出し、けがをすることがあります。

収納

⚠ 警告

- ライターやスプレー缶などを収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときに爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして、火災につながるおそれがあります。
- 走行中に物を出し入れしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

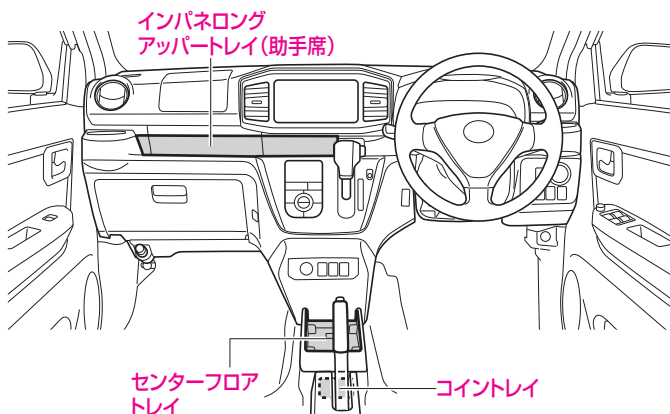
フタ付き収納装備について

- 走行中は必ずフタを閉めておいてください。急ブレーキなどの激しい運転の際に開いたフタに体が当たったり、中のものが飛び出したりするおそれがあります。

フタが無い収納装備について

- 走行中に転がり落ちるようなものを置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルにものが挟まると、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルが戻らなくなったりするおそれがあります。

インパネトレイ



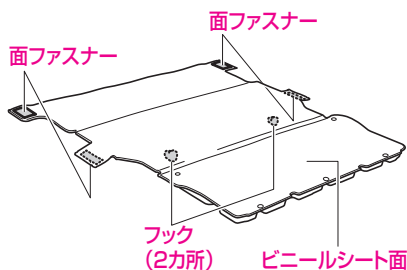
ビジネスデッキボード

オプション／グレード別装備

リヤシートに取り付けることで、リヤシートを汚すことなく荷物を積むことができます。

▼ 取り付ける前に

ビニールシート面を表にして展開してください。



▼ 取り付け手順

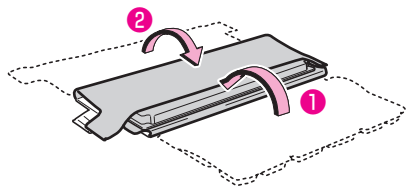
1 リヤシートを前倒しする

(前倒しのしかた→83ページ)

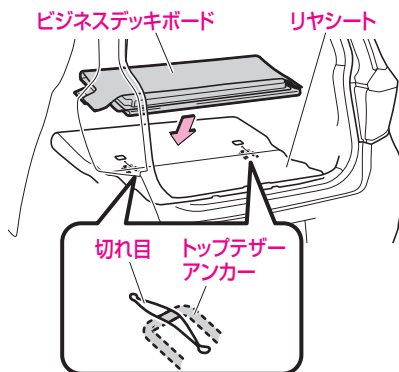
- ヘッドレスト装着車は、ヘッドレストを取り外し、安全な場所に保管してください。

(ヘッドレスト→84ページ)

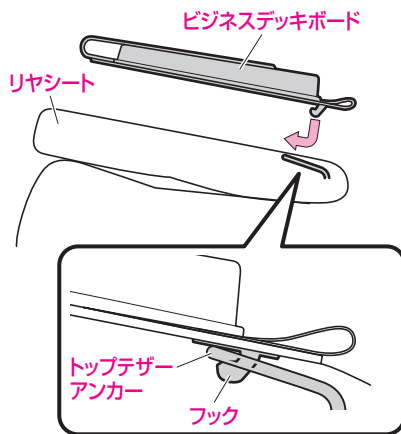
2 ビジネスデッキボードを、(1)、(2)の順に折りたたむ



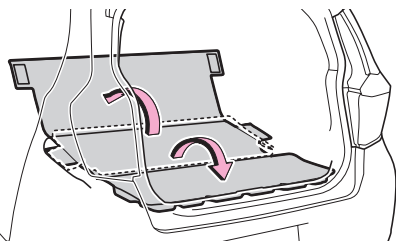
3 リヤシートの背もたれの切れ目からトップテザーアンカーの位置を確認し、折りたたんだビジネスデッキボードを乗せる



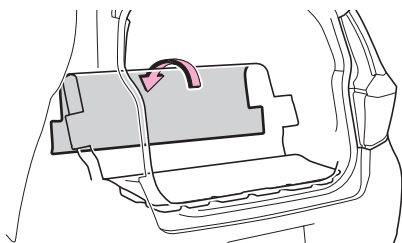
4 ビジネスデッキボード裏面のフック(2カ所)を、トップテザーアンカーに差し込む



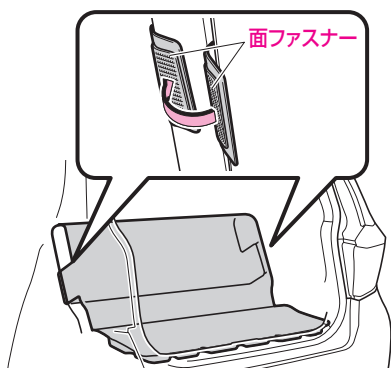
5 取り付けたビジネスデッキボードを広げる



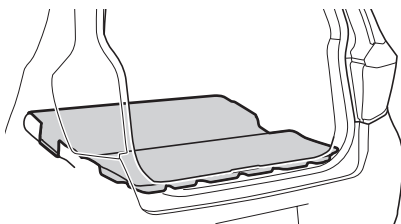
6 リヤシートの背もたれを少し持ち上げて、ビジネスデッキボードの前側を折り返す



7 面ファスナーを貼り合わせる



8 リヤシートを前倒しする



▼ 取り外し手順

逆の手順で行います。

⚠ 警告

トップテザーアンカーによるチャイルドシートの固定について

- トップテザーアンカーによるチャイルドシートの固定をするときは、ビジネスデッキボードを取り外し、ラゲージルームや車外などに保管してください。
- ビジネスデッキボードを取り付けた状態では、トップテザーアンカーによるチャイルドシートの固定はできません。チャイルドシートが固定されていないと、急ブレーキや衝突したときなどに飛ばされて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

(ISO FIX 対応チャイルドシート固定バー＆トップテザーアンカーによる固定→34ページ)

📖 知識

リヤシートに人を乗せるときは

- ビジネスデッキボードを取り外し、シートを元に戻してください。

ヘッドレスト装着車

- ヘッドレストを取り付けてください。

手入れ

消耗品の補給、交換

ボンネットの開閉	114
冷却水	114
ウインドウォッシャー液の 補給	114
ワイパーの交換	114
ヒューズの交換	114

簡単な点検・部品の交換

タイヤの点検	115
電球（バルブ）交換	120
キーの電池交換	127

消耗品の補給、交換

⚠ 警告

- エンジンルームは大変高温になっていることがあるため、次のことをお守りください。
 - やけどをするおそれがありますので、点検するときは、十分に冷めてから行ってください。
 - 点検したあとは、エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- オイルを点検・交換するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように行ってください。オイルが付着したときは、ただちにふき取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

ボンネットの開閉

⚠ 警告

けがや事故を防ぐために

- エンジン回転中や停止後は、エンジンルームが大変高温になっていることがあります。やけどをするおそれがありますので、ボンネットを開ける前に十分冷めていることを確認してください。
- 次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害や思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ボンネットを開めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ボンネットを閉めたあとは、ボンネットが確実にロックしたことを確認してください。ボンネットが確実に閉まっていないと、走行中に突然開いて、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。
 - ボンネットを開けているとき風にあおられるとステアが外れボンネットが不意に閉まるおそれがあります。特に風の強い日はご注意ください。
 - お子さまにボンネットの開閉はさせないでください。ボンネットは大変重く、開閉中うっかり手を離すと手などを挟むなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

点検作業をしたあとは

- エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

冷却水

⚠ 警告

- 水温が高いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。冷却水の圧力がラジエーターキャップにかかっているため、蒸気や熱湯がふき出し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。ファンが回転するため、手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ウィンドウォッシャー液の補給

⚠ 警告

- エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときはウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ウォッシャー液がエンジンなどにかかると、出火するおそれがあり危険です。

ワイパーの交換

⚠ 警告

- ワイパーブレード、ラバーを取り外したときは、ワイパーアームを倒さないでください。ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。

ヒューズの交換

⚠ 警告

- 規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱、損傷し、火災につながるおそれがあり危険です。

簡単な点検・部品の交換

タイヤの点検

タイヤ空気圧の点検

タイヤの空気圧の点検は、法的に義務付けられています。最低でも月に1回行ってください。

空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

(タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開閉部に記載しています。)

⚠ 警告

- 指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗や早期摩耗します。高速走行時にスタンディングウェーブ現象^{*1}によりタイヤがバースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

タイヤの亀裂、損傷

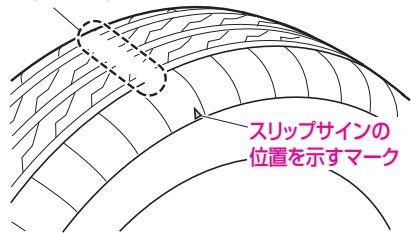
タイヤの側面や接地部全周に亀裂や損傷がないかを点検してください。

⚠ 警告

- タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。
- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じる場合があります。
また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、タイヤが横滑りするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。走行中、異常な振動を感じた場合は、ダイハツサービス工場で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となることがあります。

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗

スリップサイン



タイヤの溝の深さに不足がないかをスリップサイン（摩耗限度表示）により点検してください。

また、タイヤの接地面全周に極端にすり減っている箇所がないかを点検してください。

⚠ 警告

- 摩耗限度を超えたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象^{*2}により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。摩耗限度を超えたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

^{*1} 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

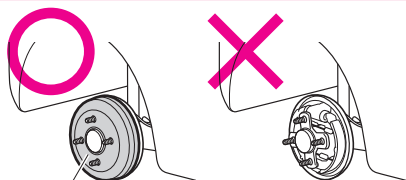
^{*2} 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

タイヤの交換

▼ 交換作業を行うにあたって

⚠ 警告

- ジャッキアップした車体の下にもぐらないでください。万一ジャッキが外れると体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- 駐車ブレーキは、必ずしっかりとかけてください。駐車ブレーキをかけずに後輪タイヤを取り外すと、まれにブレーキドラムがタイヤと一緒に外れることがあります。タイヤを外したあとは、ブレーキドラムが外れていないことを確認してください。ブレーキドラムが外れたままタイヤを交換すると、ブレーキが効かず思わぬ事故につながるおそれがあり大変危険です。



ブレーキドラム

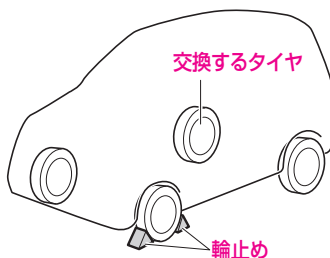
- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると車両の安定性が損なわれたり、制動距離が長くなるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、ABS が正常に作動しないことがあります。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一レッドパターン（溝模様）の物を装着してください。
- このお車専用以外のホイールを使用しないでください。専用以外のホイールを使用すると、走行装置やブレーキ装置に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。
- アルミホイール装着車は、ダイハツ純正アルミホイール専用用品以外のナットは使用しないでください。走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。
- 傷、変形がある物は再使用しないでください。

⚠ 注意

- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。
- タイヤの空気圧を確認してください。（タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- お車を交通のさまたげにならず安全に作業できる平らな場所に移動させて作業を行ってください。
- バックなどにより路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならない場所に寄せ、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。
- 人はお車から降り、重い荷物はお車から降ろしてください。

交換の手順

- 1 駐車ブレーキをしっかりとかけ、エンジンは停止し、シフトレバーを“P”レンジの位置にする
- 2 交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止め^{*1}を置く



📖 知識

- 輪止めは、ダイハツサービス工場で購入できますので、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- 輪止めが無い場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

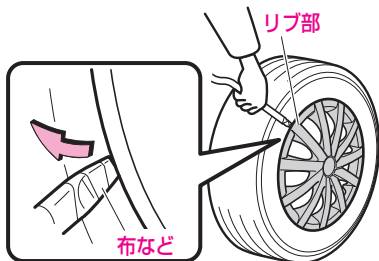
3 工具、ジャッキを取り出す

（工具の位置→147ページ）

（ジャッキの使いかた→155ページ）

^{*1} 輪止めはダイハツサービス工場で購入できます。

- 4 フルホイールキャップ装着車は、傷付き防止のため、先端に布などを巻いたジャッキハンドルを穴の開いていない部分（リブ部）に差し込み、タイヤを支点にしてフルホイールキャップを外す



⚠ 警告

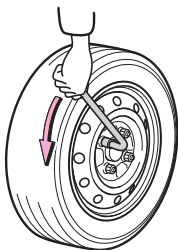
- キャップは手で外さないでください。けがをすることがあります。
- ホイールキャップを外すとき力を入れすぎないでください。けがをしたり、ボデーなどを傷付けるおそれがあります。

⚠ 注意

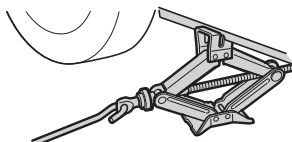
- ジャッキハンドルは必ず穴の開いていない部分（リブ部）に差し込んでください。ホイールキャップが割れるおそれがあります。

▼ タイヤの取り外し

- 1 ホイールナットはホイールナットレンチを使って、手で回るくらいまでゆるめる



- 2 タイヤと路面が少し離れるまでゆっくりジャッキアップし、車体を上げる
(ジャッキの使いかた→155ページ)

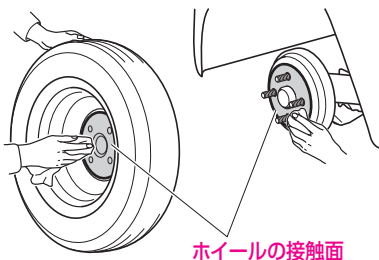


- 3 ホイールナット（4つ）を外し、タイヤを取り外す

- タイヤを地面に置くときは、傷が付かないように、ホイール意匠面を上向きにしてください。

▼ タイヤの取り付け

- 1 取り付けるタイヤのホイール接触面の汚れをふき取る



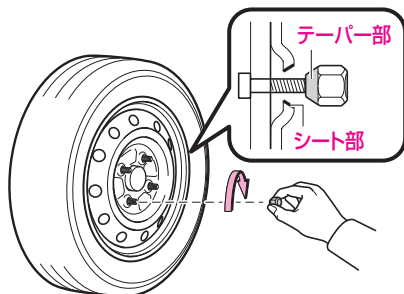
⚠ 警告

- ホイールの取り付け部やホイール裏側の取り付け面がほこりなどで汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。

- 2 タイヤを取り付ける

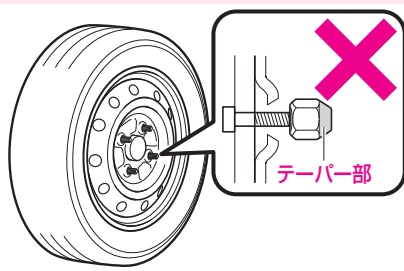
3 ホイールナットを、タイヤががたつかない程度まで仮締めする

- ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽く当たるまで回します。



⚠ 警告

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損し外れてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

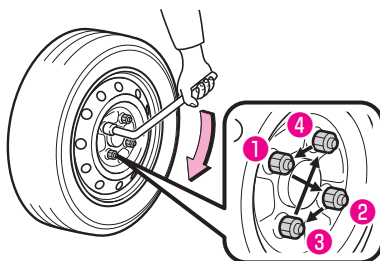


- ナットやボルトにオイルやグリースをぬらないでください。ナットがゆるんでタイヤが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損したり、ホイールが損傷するおそれがあります。

4 車体をおろす

5 ナットを締め付ける

- ナットはホイールナットレンチで、対角線上に2、3度しっかり締め付ける
- 締め付力（レンチ先端にて）：
440～590N {45～60kgf}
- 締め付トルク：103N・m
{1,050kgf・cm}

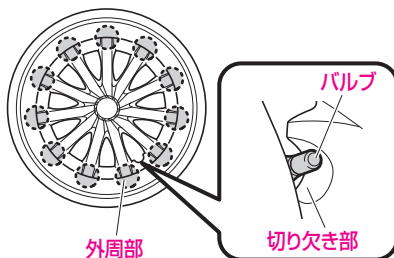


⚠ 注意

- ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプを継ぎたりしないでください。必要以上に締め付けると、ボルトが破損するおそれがあります。

6 フルホイールキャップ装着車は、フルホイールキャップを取り付ける

- タイヤのバルブとフルホイールキャップの切り欠き部を合わせ、フルホイールキャップの外周部を押して取り付けます。



7 工具、ジャッキ、タイヤを片付ける

▼ タイヤを取り付けた後は

しばらく走行したあと、ホイールナットにゆるみがないことを確認してください。

 注意

- 走行中、ハンドルや車体に振動が出た場合は、タイヤのバランス点検をダイハツサービス工場を受けてください。

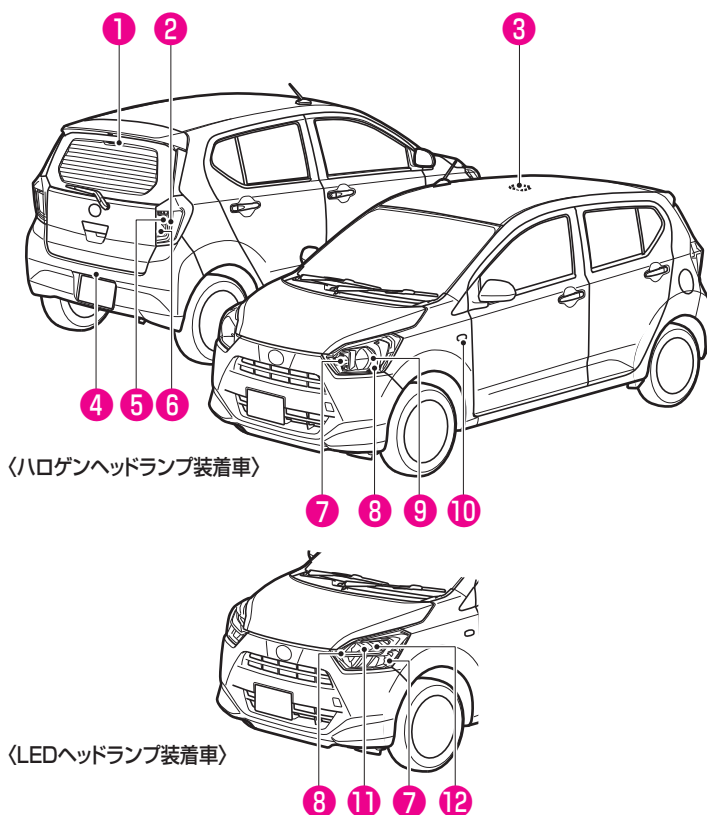
電球（バルブ）交換

ヒューズが切れていないにも関わらず、ランプが点灯しないときは、電球切れが考えられますので、電球を点検し、切れている場合は電球を交換してください。

- 電球の交換作業に不慣れな方や、部品などの破損が心配な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- 電球の交換作業をするときに必要な工具は、カー用品店などでご購入することができます。

バルブの位置

グレードの違い、メーカーオプションも記載しています。



電球(バルブ)		W(ワット)数	
①	ハイマウントストップランプ	LED	
②	制動灯 兼 尾灯	LED	
③	ルームランプ	8	
④	番号灯	5	
⑤	後面方向指示灯 兼 非常点滅灯	21	
⑥	後退灯	16	
⑦	前面方向指示灯 兼 非常点滅灯	21	
⑧	車幅灯	ハロゲンヘッドランプ装着車	5
		LEDヘッドランプ装着車	LED
⑨	前照灯(Hi/Low)	ハロゲンヘッドランプ装着車	60/55
⑩	側面方向指示灯 兼 非常点滅灯		※
⑪	前照灯(Low)	LEDヘッドランプ装着車	LED
⑫	前照灯(Hi)	LEDヘッドランプ装着車	LED

※ バルブのみの交換をすることができません。
点検・交換の際はダイハツサービス工場にご相談ください。

⚠ 注意

- 電球は上記のワット数のものと交換してください。大きなワット数のものに交換すると、過熱による故障や車両火災の原因につながるおそれがあります。

📖 知識

LED ランプについて

- LED を使用しているランプは、LED のみの交換をすることができません。点検・交換の際は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- ハイマウントストップランプ、制動灯 兼 尾灯などは複数の LED で構成されています。もし、LED が1つでも点灯しないときは、ダイハツサービス工場で交換してください。

電球の交換

⚠ 警告

- 電球を交換するときは、ランプを消灯させ電球が冷えている状態で行ってください。電球が熱い状態で、電球やその周辺を触ると、やけどをするおそれがあり危険です。
- 電球および電球固定具の取り付けが不完全な場合、発熱や発火、および水入りなどによる故障、レンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を修理、分解しないでください。感電により、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- 同じバルブ色の電球以外は使用しないでください。道路運送車両の保安基準に適合しない場合があります。
- 前照灯などに使用しているハロゲン電球は、ガラス球内部の圧力が高いため、落したり、物をぶつけたり、傷を付けたりすると破損して、ガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。
また、電球のガラス部は、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。油脂が付着すると、発熱による早期電球切れを起こします。
- 電球を交換しても点灯しない場合は、電球切れ以外の理由が考えられます。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

交換作業をするときは

⚠ 注意

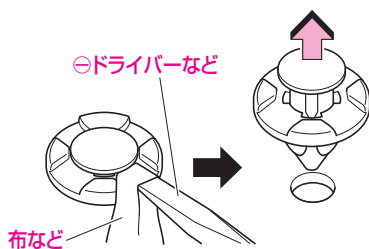
- ㊦ ドライバーなどを使用するときは、布などを巻いてください。クリップ、レンズなどに傷が付くおそれがあります。
- ランプ本体やレンズを取り外すときは、ボデーに傷を付けないように注意してください。
- ネジなどでレンズを取り付けるときは、締めすぎないようにしてください。レンズを破損するおそれがあります。

フェンダーライナーを固定しているクリップは、以下の手順で脱着します。

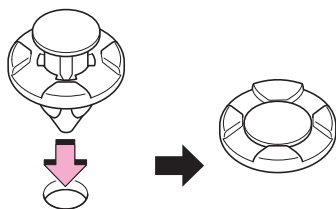
【クリップのイラストは代表例です。取り付けられている箇所により、形状が異なります】

▼ クリップタイプ ㊦

- 1 取り外すときは、㊦ ドライバーなどで中央部を浮かしたあと、クリップ全体を引っ張る

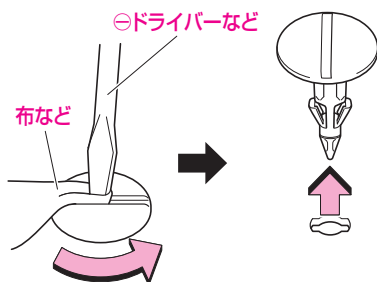


- 2 取り付けるときは、取り外した状態のまま差し込み、中央部を押し込む

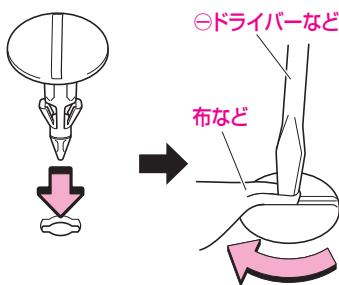


▼ クリップタイプ ㊧

- 1 取り外すときは、㊦ ドライバーなどで矢印の方向へ 90° 回して取り外す



- 2 取り付けるときは、差し込んでから㊦ ドライバーなどで矢印の方向へ 90° 回して取り付ける

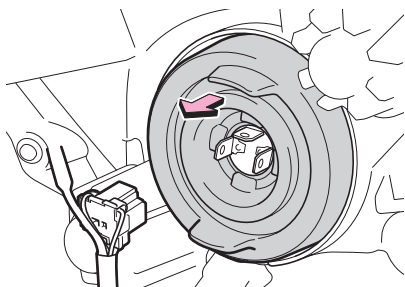


前照灯

ハロゲンヘッドランプ装着車

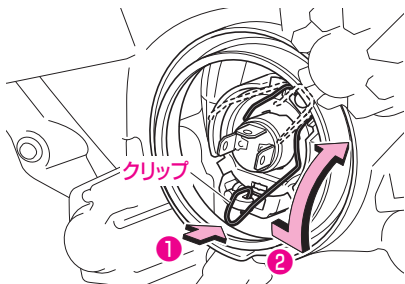
▼ 取り外し手順

- 1 ボンネットを開ける
(ボンネットの開閉→114ページ)
- 2 コネクターを取り外す
- 3 ゴムカバーを取り外す

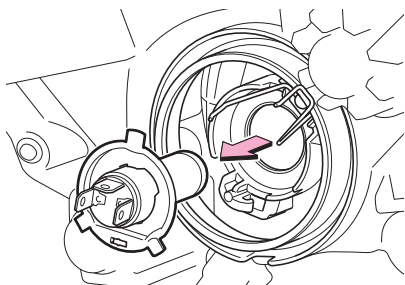


4 クリップをフックから外す

- クリップを押しながら (1) 矢印の方向に寄せて外します (2)。



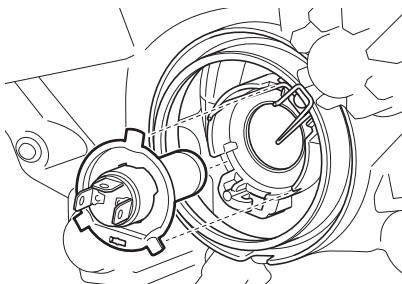
5 バルブを取り外す



▼ 取り付け手順

1 バルブを取り付ける

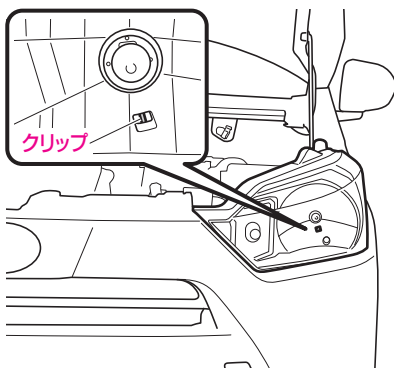
- ヘッドランプ本体の溝にバルブの突起部が合うように、はめ込みます。



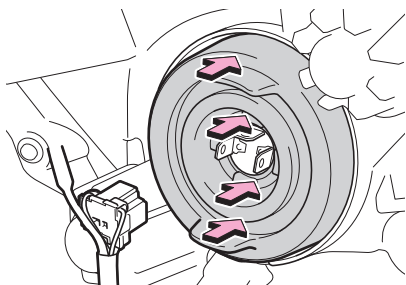
2 クリップを確実にフックに取り付け、バルブを固定する

知識

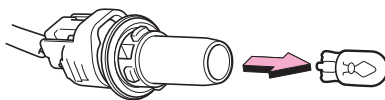
- バルブの固定状態は、車両前側のレンズ面からも確認できます。
確実に固定されている場合は、クリップが見えます。



- 3 ゴムカバーを確実に取り付ける
●ゴムカバーを矢印方向にしっかり
押さえます。
- 4 コネクターを取り付ける



- 3 ソケットからバルブを引き抜く



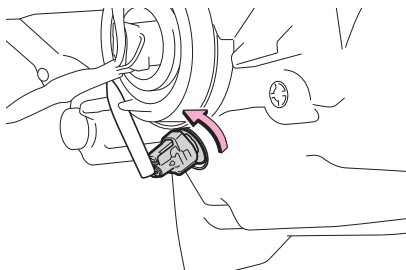
▼ 取り付け手順
逆の手順で行います。

車幅灯

ハロゲンヘッドランプ装着車

▼ 取り外し手順

- 1 ボンネットを開ける
(ボンネットの開閉→114ページ)
- 2 ソケットを回して取り外す

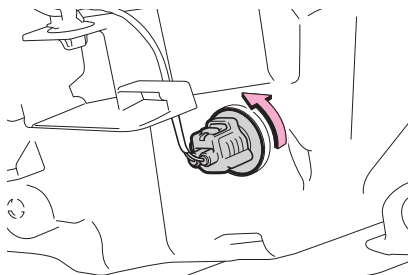


前面方向指示灯 兼 非常点滅灯

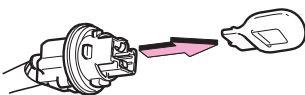
▼ 取り外し手順

- 1 ボンネットを開ける
(ボンネットの開閉→114ページ)

- 2 ソケットを回して取り外す



- 3 ソケットからバルブを引き抜く



▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

リヤコンビランプ (後面方向指示灯、後退灯)

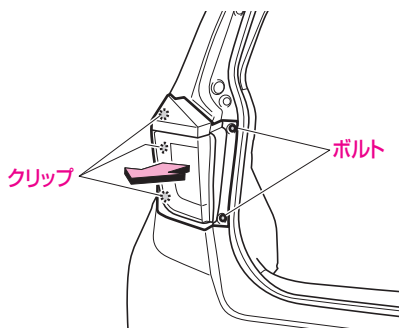
▼ 取り外し手順

- 1 バックドアを開ける
(バックドア→81ページ)

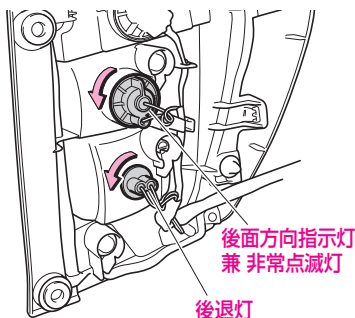
- 2 ランプ本体のボルトを取り外す

- 3 ランプ本体を車両後方に引いて取り外す

- 車両後方に引くと、クリップが外れます。



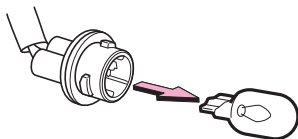
- 4 交換する電球のソケットを回して取り外す



5 ソケットからバルブを取り外す

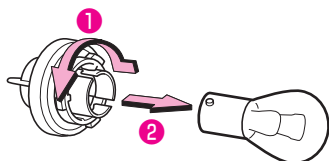
後退灯

- バルブを引き抜く



後面方向指示灯 兼 非常点滅灯

- バルブを押しながらか回して(①)、外す(②)

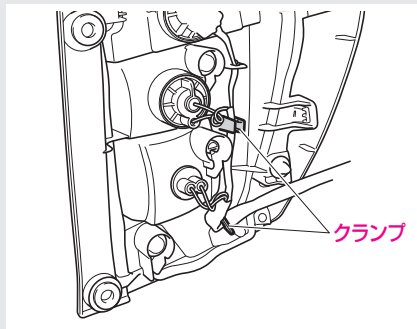


▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

⚠ 注意

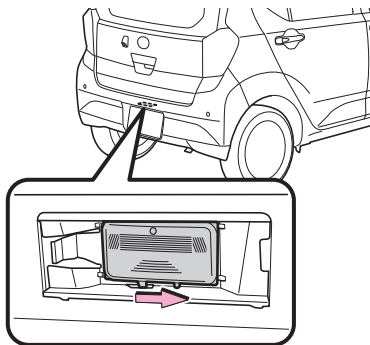
- ランプ本体を取り付けるときは、必ず配線のテーピング部を目印にしてクランプに取り付けてください。
クランプに取り付けていないと配線が車体に挟み込まれ、損傷するおそれがあります。



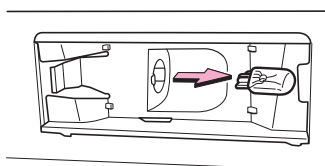
番号灯

▼ 取り外し手順

- 1 レンズを矢印の方向にスライドさせて取り外す

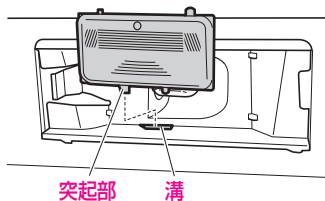


- 2 バルブを引き抜く

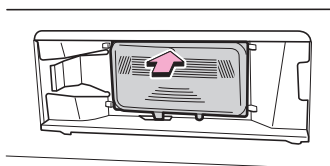


▼ 取り付け手順

- 1 バルブを取り付ける
- 2 レンズの突起部をランプ本体の溝に入れる



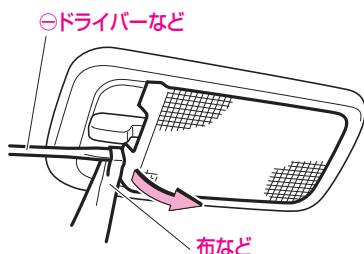
- 3 レンズを矢印の方向に押して取り付け、確実に固定されたことを確認する



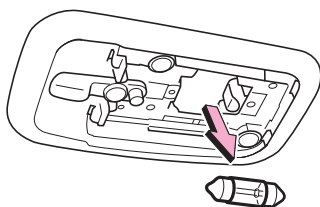
ルームランプ

▼ 取り外し手順

- 1 ㊦ドライバーなどを差し込み、カバーを取り外す



- 2 バルブを引き抜く



▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

キーの電池交換

次のようなときは、キーの電池消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

- スイッチを押しても作動しない
- 著しく作動距離が短くなった
- インジケーターが点灯しない

電池は、お客様自身で交換できますが、破損などのおそれがあるため、ダイハツサービス工場での交換をおすすめします。

交換方法

⚠ 警告

- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないようにご注意ください。飲み込むと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 電池を交換するときは次のことに注意してください。故障の原因になるおそれがあります。
 - 濡れた手で電池交換をしない
 - 電子部品に触れたり、端子を曲げたりしない
 - 油や異物を入れない

キーレスエントリー装着車

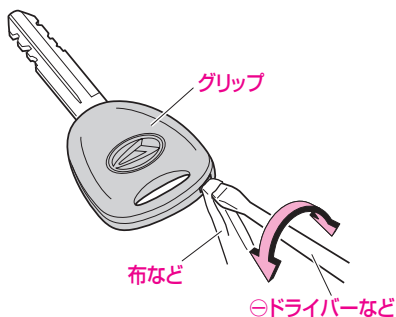
▼ 用意するもの

- 「CR1620 (3V)」の新しい電池
- 薄刃の㊦ドライバーなど
(くぼみに入る程度の幅のもの)
 - 傷付き防止のため先端に布などを巻いてください。

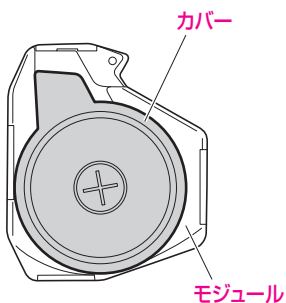
▼ 交換方法

1 メインキーのグリップを外す

- 用意した ⊖ ドライバーなどをくぼみに差し込み、回します。

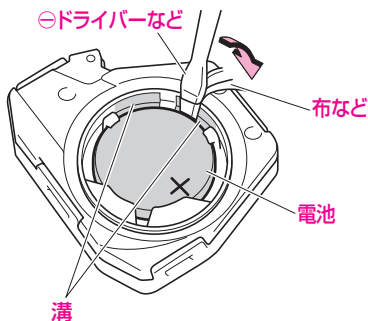


2 モジュール裏側のカバーを外す



3 電池を取り出す

- 用意した ⊖ ドライバーなどを溝に差し込みます。



4 新しい電池と交換する

- 電池は ⊕ 極を上側にして取り付けます。

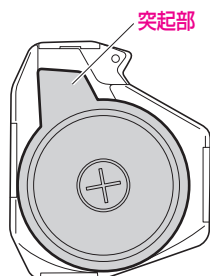
5 カバーとモジュール、およびグリップを取り付ける

- カバーを突起部からはめ込み、全体を均等に押さえてください。

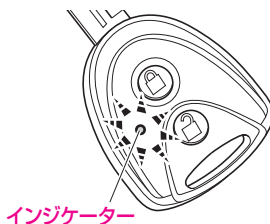
知識

カバーをはめ込むときは

- 確実にはめ込んでください。浮いたりしていると、水、ほこりなどが入り、故障の原因になるおそれがあります。



6 スイッチを押したとき、インジケータが点滅することを確認する



キーフリーシステム装着車

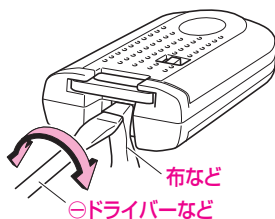
▼ 用意するもの

- 「CR2032 (3V)」の新しい電池
- 薄刃の ⊖ ドライバーなど
(くぼみに入る程度の幅のもの)
 - 傷付き防止のため先端に布などを巻いてください。

▼ 交換手順

1 電子カードキーのカバーを外す

- ダイハツマーク側を上にして外します。
- 用意した ⊖ ドライバーなどをくぼみに差し込み、回します。

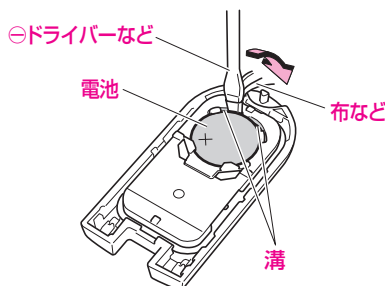


⚠ 注意

- ダイハツマーク側を下にしてカバーを外さないでください。電子カードキーのスイッチや電子部品などが落下して破損するおそれがあります。

2 電池を取り出す

- 用意した ⊖ ドライバーなどを溝に差し込みます。
- カバーを外したときに、上側のカバーに電子カードキーのモジュール（基板）が貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子カードキーのモジュール（基板）をひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

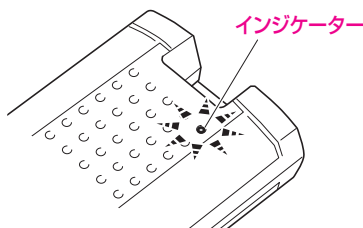


3 新しい電池と交換する

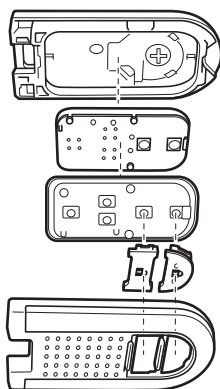
- 電池は ⊕ 極を上側にして取り付けます。

4 カバーを取り付ける

5 スイッチを押したとき、インジケータが点滅することを確認する



▼ 電子カードキーの部品がばらけたときは
図を参考に組み付けてください。



⚠ 注意

- 電子部品の基板面に触れないでください。故障の原因になります。

困ったときは

警告灯、表示灯が点灯したとき

警告灯 133

表示灯 139

いざというときの処置

ハンドルロックが
解除できないとき 144

電子カードキーが
使用できないとき 144

エンジンがかからないとき ... 146

タイヤがパンクしたとき 146

スタック（立ち往生）
したとき 159

バックドアが開かないとき ... 159

バッテリーがあがったとき ... 160

オーバーヒートしたとき 161

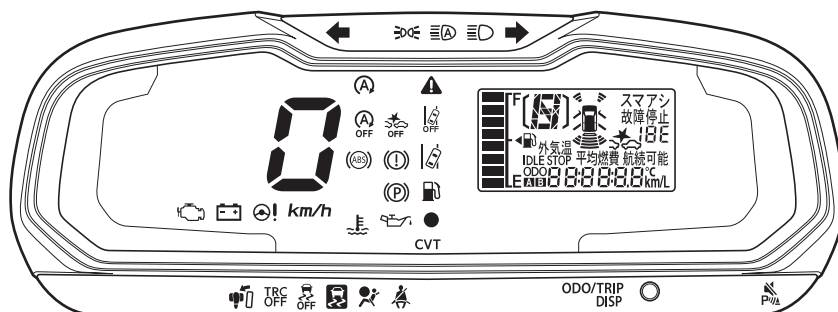
車両を緊急停止するには 162

水没・冠水したときは 163

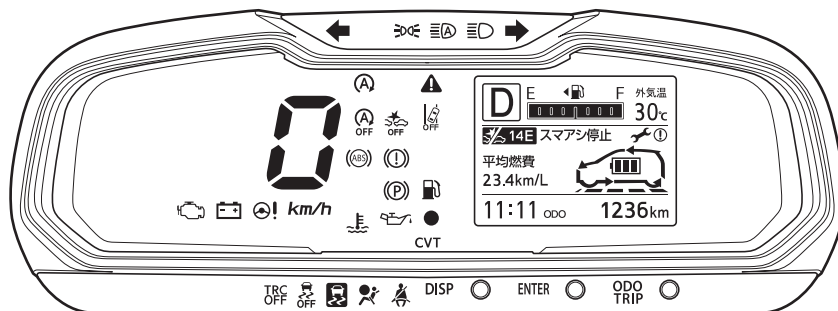
車中泊が必要なときは 164

警告灯、表示灯が点灯したとき

アンバーイルミネーションメーター（マルチインフォメーションディスプレイ）



ブルーイルミネーションメーター（TFT マルチインフォメーションディスプレイ）



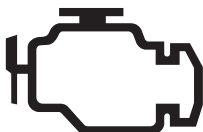
警告灯

さまざまなシステムの異常や、安全運転に関わる項目をメーター内に警告表示します。

⚠ 警告

- 警告灯が点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
この場合、それぞれの警告灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- エンジンスイッチを“ON”にしても警告灯が点灯（または点滅）しないときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

エンジン警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン電子制御システムに異常があると点灯、または点滅します。

⚠ 注意

点灯・点滅した場合

- ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

油圧警告灯



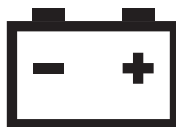
- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。

⚠ 注意

点灯した場合

- そのまま走行すると、エンジンが故障するおそれがあります。
ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

充電警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、充電系統に異常（ベルトののび、損傷など）があると点灯します。

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちに安全な場所に停車して、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

駐車ブレーキ未解除警告灯



エンジンスイッチが“ON”で、駐車ブレーキがかかっていると点灯し、駐車ブレーキを完全に解除すると消灯します。

警告ブザー

- 駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h 以上で走行すると、ブザーが鳴ります。
- 駐車ブレーキを解除すると、ブザーが鳴りやみます。

ブレーキ警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、次の場合に点灯します。
 - ブレーキ液の液量が不足しているとき
 - EBD 制御に異常があるとき
(ABS (EBD 機能付) →48ページ)

警告ブザー

ブレーキ液の不足により警告灯が点灯した状態で、約 5km/h 以上で走行すると、ブザーが鳴ります。

警告

警告ブザーが鳴ったときは

- ブレーキ液の液量が不足しています。
この場合、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあります。
効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏み、ただちに安全な場所に停車して、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

ABS 警告灯と同時に点灯した場合

- 強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
ただちに安全な場所に停車して、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

注意

- 制動時、常に異音（キーキー音など）が発生するときは、ブレーキパッドの摩耗が考えられます。
ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

水温警告灯（赤色）



- エンジンスイッチを“ON”にすると赤色に点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、エンジン冷却水温が異常に高くなると赤色に点滅し、その後、さらに水温が高くなると点灯に変わります。

注意

赤色に点滅・点灯した場合

- エンジン冷却水温の異常な上昇によるオーバーヒートが考えられます。
ただちに安全な場所に停車して、処置を行ってください。
(オーバーヒートしたとき→161ページ)

警告ブザー

エンジン冷却水温の異常な上昇により、警告灯が赤色点滅、または赤色点灯しているときは、ブザーが鳴ります。

知識

- ブザーは警告灯が赤色点滅時は断続的に鳴り、警告灯が赤色点灯に変わると同時に連続音に変わります。

CVT 警告灯

CVT

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、CVT システムに異常があると点滅します。

⚠ 注意

点滅した場合

- ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

シートベルト締め忘れ警告灯 (運転席・助手席)



- エンジンスイッチが“ON”で、運転席の乗員がシートベルトを着用していないと点滅します。
- エンジンスイッチが“ON”で、助手席に乗車してシートベルトを着用していないと点滅します。
- エンジンスイッチが“ON”で、シートベルトを着用すると消灯します。

運転席・助手席警告ブザー

運転席および助手席のシートベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h 以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。

📖 知識

- 一度警告ブザーが鳴ると、たとえ約 20km/h 以下で走行しても、約 2 分間鳴り続けますので、走行するときは必ずシートベルトを着用してください。
- 警告ブザーが鳴り始めてから、約 30 秒後に断続音の速さが変わります。

半ドア警告灯

エンジンスイッチに関係なく、いずれかのドアを開けると点灯し、すべてのドアを完全に閉めると消灯します。



〈アンバーイルミネーションメーター〉



〈ブルーイルミネーションメーター〉

- 開いているドアが表示されます。

⚠ 警告

点灯した場合

- 警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 警告灯が点灯した場合は、もう一度ドアを閉めなおして、警告灯が消灯したことを確認してください。消灯しないときや、再び点灯するときは、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

📖 知識

- バッテリーあがり防止のため、エンジンスイッチが“OFF”または“ACC”で、ドアを開けたまま約10分が経過すると、警告灯が自動的に消灯します。

燃料残量警告灯



エンジンスイッチが“ON”のとき、燃料残量が2WD車は約4.5ℓ以下、4WD車は約5.5ℓ以下になると、燃料残量警告灯が点滅した後、点灯します。

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちに燃料を給油してください。

警告ブザー

燃料残量警告灯が点滅すると、ブザーが鳴ります。

ABS 警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、ABSに異常があると点灯します。

⚠ 警告

ブレーキ警告灯と同時に点灯した場合

- ABSに異常があるだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。ただちに安全な場所に停車して、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

⚠ 注意

点灯した場合

- 通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABSとしての作動はしません）、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

SRS エアバッグ警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、次のシステムに異常があると点灯します。
- ▼ 異常があると点灯するシステム
- SRS エアバッグ
(SRS エアバッグ→39ページ)
- プリテンショナー機構

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

オートハイビーム警告灯



〈アンバーイルミネーションメーター〉



オートハイビーム故障
販売店で点検を
受けてください

〈ブルーイルミネーションメーター〉

(オートハイビーム警告灯→99ページ)

(スマートアシストⅢ→49ページ)

スマートアシスト故障警告灯

スマアシ 故障

〈アンバーイルミネーションメーター〉



スマートアシスト故障
販売店で点検を
受けてください

〈ブルーイルミネーションメーター〉

(スマートアシスト故障警告灯→64ページ)

(スマートアシストⅢ→49ページ)

スマートアシスト停止警告灯

スマアシ 停止 14E

〈アンバーイルミネーションメーター〉



14E スマアシ停止



メッセージ
ENTERで確認

〈ブルーイルミネーションメーター〉

(スマートアシスト停止警告灯→65ページ)

(スマートアシストⅢ→49ページ)

電動パワーステアリング警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると赤色に点灯し、エンジンを始動すると数秒後に消灯します。
- エンジンが回転中で、電動パワーステアリングシステムに異常があると赤色に点灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、電圧不足、電動パワーステアリングシステム過熱によりパワーステアリング制御が制限されると、黄色に点灯します。

⚠ 注意

赤色に点灯した場合

- パワーステアリング制御が停止し、ハンドル操作が非常に重くなります。
ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

黄色に点灯した場合

- パワーステアリング制御が制限され、ハンドル操作が重くなります。
しばらくハンドル操作を控えてください。ハンドル操作をしないまま約10分が経過すると、通常の重さに戻ります。
消灯しない場合、繰り返し点灯する場合はダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告ブザー

警告灯が点灯し、ハンドル操作が重くなった場合は、ブザーが鳴ります。

VSC & TRC 警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、次のシステムに異常があると点灯します。
 - VSC
(VSC → 48ページ)
 - TRC
(TRC → 49ページ)
 - ヒルホールドシステム
(ヒルホールドシステム → 49ページ)

マスターウォーニング



エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

- エンジンスイッチが“ON”で、次の場合に点灯します。
 - スマートアシストⅢに異常があるとき
 - スマートアシストⅢが作動したとき^{*1}
(スマートアシストⅢ → 49ページ)
 - コーナーセンサーに異常があるとき
(コーナーセンサー → 67ページ)

キーフリーシステム装着車

エンジンスイッチが“ON”で、キーフリーシステムに異常があるとき、点灯します。

(キーフリーシステム → 76ページ)

^{*1} 衝突回避支援ブレーキ機能の1次ブレーキと2次ブレーキ、誤発進抑制制御、後方誤発進抑制制御が作動したときに点灯します。

ブルーイルミネーションメーター装着車

- エンジンスイッチが“ON”で、次の場合に点灯します。
 - オートハイビームに異常があるとき
(オートハイビーム→97ページ)
 - 車両通信に異常があるとき

⚠ 注意

点灯した場合

- スマートアシストOFF表示灯と車線逸脱警報OFF表示灯が同時に点灯したときは、オートハイビームを除くスマートアシストⅢは作動しません。通常走行に支障ありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
(スマートアシストOFF表示灯→64ページ)
(車線逸脱警報OFF表示灯→64ページ)
- コーナーセンサー表示と同時に点灯したときは、コーナーセンサーの異常が考えられます。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
(コーナーセンサー表示灯→69ページ)

表示灯

車両のさまざまな状態をメーター内に表示します。

⚠ 警告

- 表示灯によっては、点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
この場合、それぞれの表示灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- 点灯操作を行っても、表示灯が点灯しないときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

方向指示表示灯・非常点滅表示灯



方向指示表示灯

エンジンスイッチが“ON”で、方向指示灯を点滅させると、同時に表示灯が点滅します。

非常点滅表示灯

- エンジンスイッチに関係なく、非常点滅灯を点滅させると、同時に左右の表示灯が点滅します。
- 約 60km/h 以上で走行中に急ブレーキをかけると、自動で非常点滅灯が高速点滅し、同時に左右の表示灯が高速点滅します。

(エマージェンシー ストップシグナル
→70ページ)

ヘッドランプ上向き表示灯



エンジンスイッチに関係なく、ヘッドランプを上向きの状態にすると点灯します。

テールインジケーター



エンジンスイッチに関係なく、車幅灯を点灯させると点灯します。

水温表示灯（青色）



エンジンスイッチが“ON”で、エンジン冷却水温が低いとき、青色に点灯します。

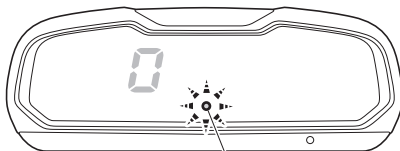
⚠ 注意

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。

暖機を十分続けていても青色に点灯したままの場合

- ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

セキュリティインジケーター



セキュリティインジケーター

キーレスエントリー装着車

（セキュリティアラーム→44ページ）

キーフリーシステム装着車

- エンジンスイッチを“ACC”から“OFF”にして、イモビライザー機能を作動させると点滅します。
- エンジンスイッチを“OFF”から“ACC”にして、イモビライザー機能を解除すると消灯します。

（イモビライザー機能→44ページ）

eco IDLE 表示灯



（eco IDLE 表示灯→74ページ）

eco IDLE OFF 表示灯



（eco IDLE OFF 表示灯→74ページ）

スリップインジケーター



(点滅)

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、次のシステムが作動した場合に点滅します。
 - VSC
 - TRC

警告

- エンジンスイッチを“ON”にしても点灯しないとき、または点灯したままの場合は、システムの異常が考えられますので、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- スリップインジケーターが点滅した場合は、VSC、またはTRCが作動していますので特に慎重に運転してください。

TRC OFF 表示灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- VSC & TRC OFF スイッチを押すと、TRC が作動停止状態となり点灯します。
(VSC & TRC OFF スイッチ→103ページ)

VSC OFF 表示灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- VSC & TRC OFF スイッチを3秒以上押すと、VSC (TRC を含む) が作動停止状態となり点灯します。
(VSC & TRC OFF スイッチ→103ページ)

ブレーキオーバーライドシステム 表示灯



〈アンバーイルミネーションメーター〉



ブレーキとアクセルが
両方踏まれています

〈ブルーイルミネーションメーター〉

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれ、ブレーキオーバーライドシステムが作動したときに点灯します。

アンバーイルミネーションメーター装着車

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

知識

点灯した場合

- アクセルペダル、またはブレーキペダルから足を離してください。

スマートアシスト作動灯



〈アンバーイルミネーションメーター〉



スマートアシスト作動
前方注意！！

〈ブルーイルミネーションメーター〉

(スマートアシスト作動灯→63ページ)

(スマートアシストⅢ→49ページ)

車線逸脱警報作動灯



〈アンバーイルミネーションメーター〉



スマートアシスト作動
車線逸脱警報が
作動しました

〈ブルーイルミネーションメーター〉

(車線逸脱警報作動灯→64ページ)

(スマートアシストⅢ→49ページ)

スマートアシスト OFF 表示灯



(スマートアシスト OFF 表示灯→64ページ)

(スマートアシストⅢ→49ページ)

車線逸脱警報 OFF 表示灯



(車線逸脱警報 OFF 表示灯→64ページ)

(スマートアシストⅢ→49ページ)

オートハイビーム作動灯 (緑色)



(オートハイビーム作動灯 (緑色) →99ページ)

(スマートアシストⅢ→49ページ)

コーナーセンサー表示灯



〈アンバーイルミネーションメーター〉

例：コーナーセンサー5カ所作動時



〈ブルーイルミネーションメーター〉

(コーナーセンサー表示灯→69ページ)

(コーナーセンサー→67ページ)

コーナーセンサーブザー OFF 表示灯



〈アンバーイルミネーションメーター〉



〈ブルーイルミネーションメーター〉

(コーナーセンサーブザー OFF 表示灯
→69ページ)

(コーナーセンサー→67ページ)

いざというときの処置

ハンドルロックが解除できないとき

エンジンの始動操作をしたときに、ハンドルロックが解除できないと、エンジンスウィッチの表示灯が緑色に高速点滅します。



▼ ハンドルロック解除のしかた

ハンドルを左右に動かしながら、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

電子カードキーが使用できないとき

キーフリーシステム装着車

電池の消耗などにより、電子カードキーが使用できない場合は、一時的な対処として、電子カードキーとエマージェンシーキーを使用してドアの施錠、解錠、およびエンジンをかけることができます。

⚠ 警告

- 電池の消耗などにより、電子カードキーが使用できない場合でも、アンテナは電波を発信していますので、植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を使用されている方は、車外アンテナ・車内アンテナから約 22cm 以内に近付かないようにしてください。

(アンテナ→76ページ)

📖 知識

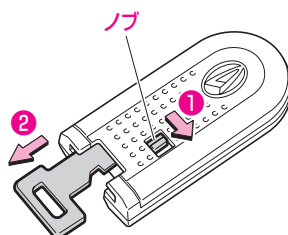
- ここで説明しているエンジンのかけかたは一時的な対処です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。

(キーの電池交換→127ページ)

エマージェンシーキーの取り出しかた

電子カードキーのノブを(1)の方向にスライドさせたまま、エマージェンシーキーを(2)の方向に引いて取り出します。

- 使用後は、エマージェンシーキーを必ず電子カードキーに格納しておいてください。



ドアの施錠、解錠

知識

セキュリティアラームがセットされている場合

- キーを差して解錠しドアを開けると、セキュリティアラームの警報が作動します。

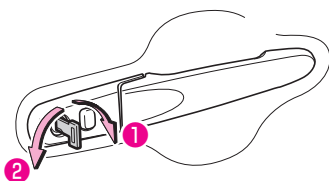
アラームが作動した場合は、ただちに次項「エンジンのかけかた」の手順1～3にしたがって、キーを認識させてください。警報が停止します。

(セキュリティアラーム→44ページ)

(エンジンのかけかた→145ページ)

操作方法

キーを確実に差し込みます。

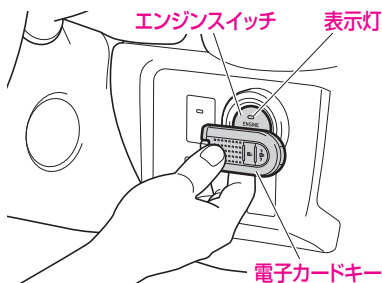


車両前方
➡

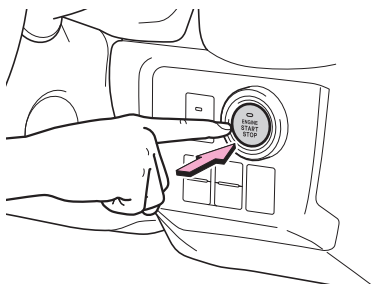
- 1 すべてのドアが施錠
- 2 すべてのドアが解錠

エンジンのかけかた

- 1 シフトレバーが“P”の位置で、ブレーキペダルをしっかりと踏む
- 2 ブレーキペダルを踏んだまま、キーを図のようにエンジンスイッチに接触させる
 - 電子カードキーは、裏面のダイハツマーク付近をスイッチの中心に接触させます。



- 3 キーが認識されて、エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯する
- 4 表示灯が点灯している間にスイッチを押すと、エンジンが始動する



▼ エンジンの停止方法

通常のエンジン停止方法と同様に、シフトレバーを“P”レンジに入れて、スイッチを押します。

📖 知識

- 次の状態になると、エンジンスイッチを押してもエンジンの始動はできません。もう一度はじめてやり直してください。
 - キーの認識後、表示灯が消灯した
 - エンジンスイッチを“OFF”にした
- 手順通りに操作をしてもエンジンが始動できないときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

▼ エンジンスイッチモードの切り替え

電子カードキーをエンジンスイッチに接触させたまま、エンジンスイッチを押します。

スイッチを押すごとに

「OFF → ACC → ON → OFF」の順に切り替わります。

■ ハンドルロックを解除するには

エンジンの始動操作をしたときに、エンジンスイッチの表示灯が緑色に高速点滅したときは、ハンドルロックが解除されていないため、エンジンの始動ができません。

ハンドルを左右に動かしながら、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

エンジンがかからないとき

▼ エンジンを再始動するには

エンジンを再始動する際にはエンジンスイッチを“OFF”または“ACC”に戻してから行ってください。

⚠ 警告

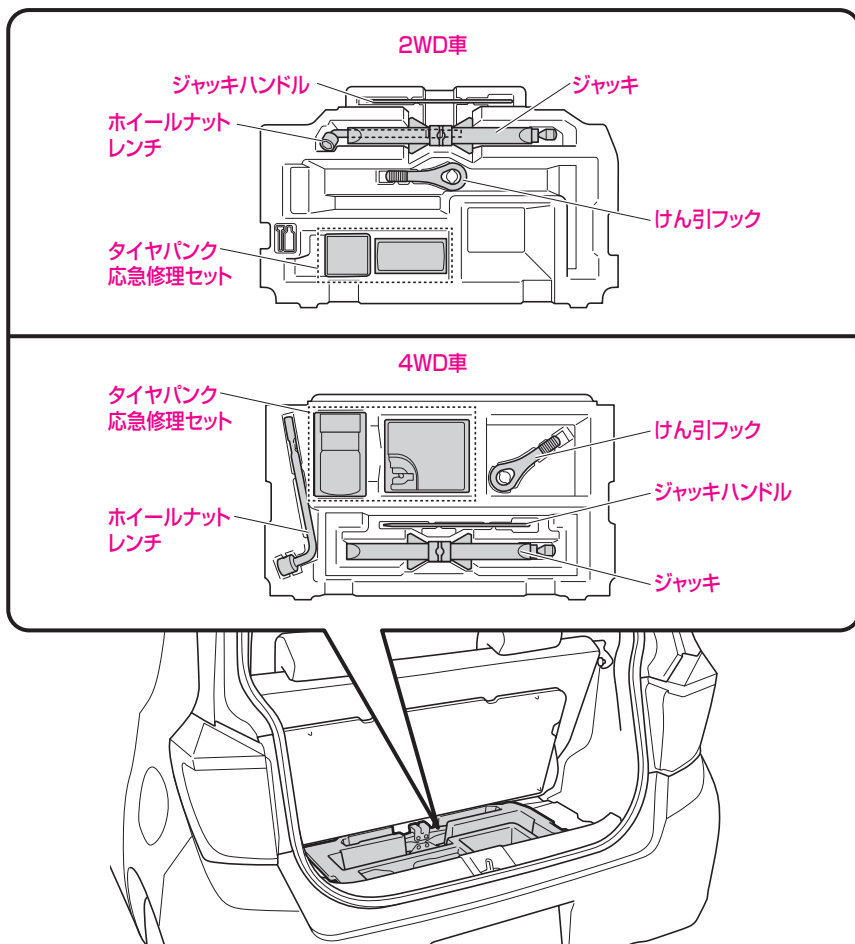
- 燃料漏れのおそれがあるとき、また、燃料のにおいがするときは、エンジンを再始動せずに、お近くのダイハツサービス工場にご連絡ください。

タイヤがパンクしたとき

⚠ 警告

- 高速走行中にパンクやバースト（破裂）したときは、ハンドルをしっかりと持って、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。
急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。
- パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
(タイヤパンク応急修理セット→148ページ)

工具の位置



ジャッキ、工具、タイヤパンク応急修理セットは、ラゲージルーム内のラゲージアンダーボックスに収納しています。

(ジャッキの使いかた→155ページ)

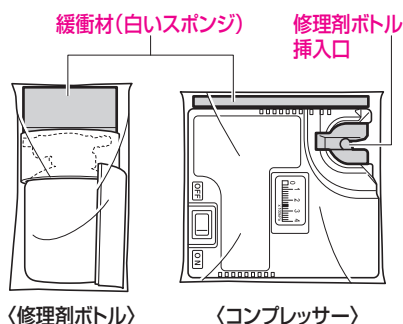
(けん引される時→24ページ)

(タイヤパンク応急修理セット→148ページ)

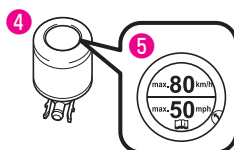
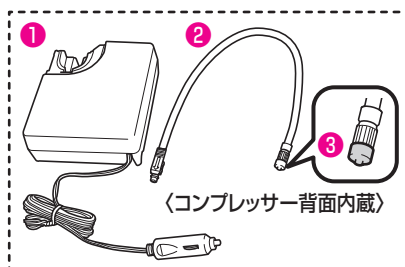
⚠ 警告

- ジャッキ、工具、タイヤパンク応急修理セットは所定の位置にしっかり固定してください。室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具が体に当たるなど、大変危険です。

▼ **タイヤパンク応急修理セットについて**
使用するとき、袋から出してください。



タイヤパンク応急修理セット

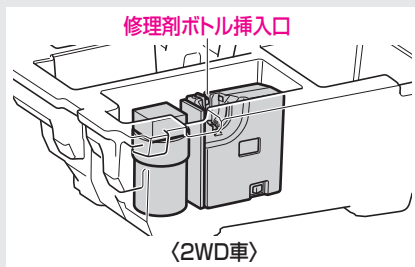


- ① コンプレッサー
- ② ホース
- ③ ホース栓
- ④ 修理剤ボトル
- ⑤ 速度制限シール

⚠ 注意

タイヤパンク応急修理セットを取り出したときは

- 下図のように収納してください。誤った方向で収納すると、ラゲージアンダーボックスに正しく収納することができず、飛び出すおそれがあります。
- 緩衝材(白いスポンジ)が入っている場合は、必ず同封して収納してください。
- 修理剤ボトル挿入口が図の向きになるように注意してコンプレッサーを収納してください。



タイヤパンク応急修理セットは、コンプレッサーで空気とパンク穴をふさぐ修理剤を同時に充填して、軽度なパンクを応急修理することができます。

- タイヤパンク応急修理セット装着車には、応急用スペアタイヤは装着されていません。
- タイヤパンク応急修理セットは、応急時のタイヤ修理用です。応急修理後は、すみやかにタイヤの交換、またはダイハツサービス工場へ、点検、修理を受けてください。

⚠ 警告

修理剤について

- 飲用すると体に害があります。もし誤って飲用された場合は、できるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- 目に入ったり皮膚に付いたりした場合は、ただちに水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。
- タイヤパンク応急修理セットは、指定の場所に格納してください。また、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。

(工具の位置→147ページ)

⚠ 注意

- 衣服などに付着した場合はすぐに拭き取ってください。衣服にしみこむと取れなくなるおそれがあります。

コンプレッサーについて

- パンク応急修理専用です。そのほかの目的で使用しないでください。
- DC12V 専用です。ほかの電源での使用はできません。
- コンプレッサーを使用する際、故障の原因となりますので次のことをお守りください。
 - 40 分以上連続して使用しない
 - 降雨時など、水がかからないようにする
 - 砂ぼこりなどを吸い込ませない
 - 使用中に、動作が鈍くなったり、本体が熱くなったりしたときは、ただちに電源を“OFF”にし、30 分以上放置する
 - 分解、改造などは絶対にしない
 - 強い衝撃や圧力を加えない

タイヤパンク応急修理セットが使用できない状況

次のような場合は、タイヤパンク応急修理セットによる応急修理ができません。

ダイハツサービス工場またはJAF^{*1}などにご連絡ください。

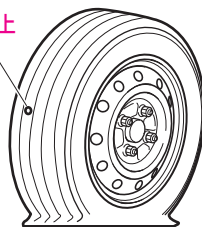
- 修理剤の有効期限が切れている



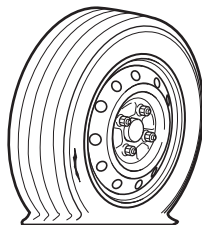
有効期限表示

- 約 4 mm 以上の切り傷や刺し傷がある

4mm以上



- タイヤサイド部が損傷を受けている



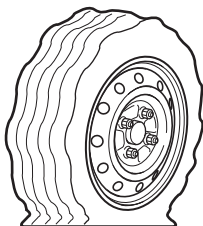
タイヤパンク応急修理セットの点検

いざというとき使用できるようにタイヤパンク応急修理セットの日常点検を実施してください。

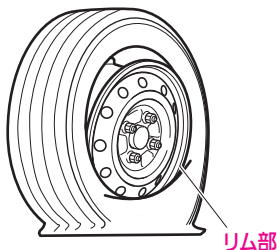
- 修理剤の有効期限の確認
- アクセサリーソケット電源の確認
(電化製品などを作動させて点検してください)
- コンプレッサー作動の確認
(コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに差し込み、エンジンを始動します)

^{*1} 別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

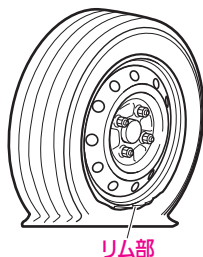
- ほとんど空気の抜けた状態で走行した



- タイヤがリムの外側に完全に外れている



- リム部が破損している



- タイヤが2本以上パンクしている
(修理剤はタイヤ1本分です)

タイヤの応急修理方法

タイヤ接地部に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理を行うことができます。

⚠ 注意

- タイヤに刺さった釘やネジなどは抜かずにそのまま応急修理してください。

▼ タイヤパンク応急修理セットの格納場所

(工具の位置→147ページ)

▼ 応急修理のしかた

⚠ 注意

- 路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならず、安全に作業ができる地面が硬くて平らな場所に移動してください。その際は非常点滅灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。

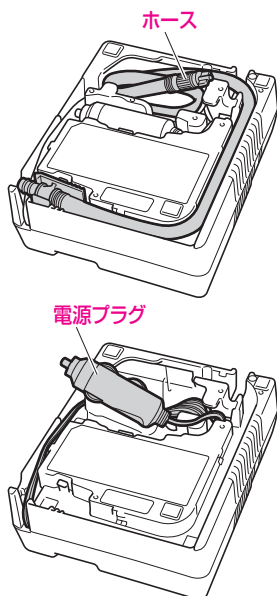
- 1 修理剤ボトルとコンプレッサーを取り出す

⚠ 注意

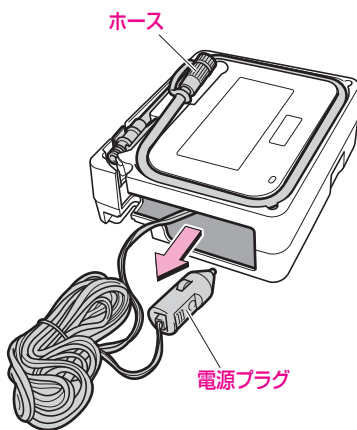
- 緩衝材(白いスポンジ)が入っている場合は、応急修理後に破棄しないよう注意してください。
(交換用修理剤ボトルには、緩衝材が入っていないので再使用してください)

2 コンプレッサーからホースと電源プラグを取り出す

タイプ A



タイプ B

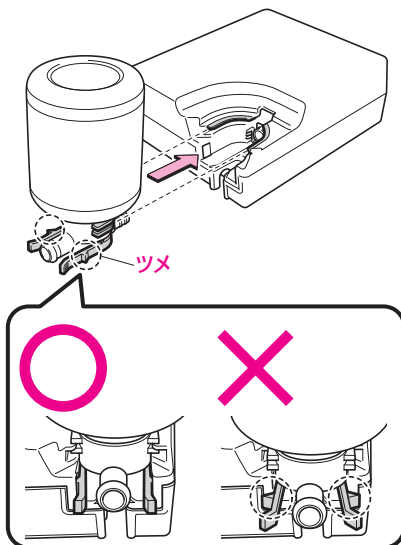


3 修理剤ボトルをよく振る

- 修理剤ボトルはホース、およびコンプレッサーに固定する前に振ってください。

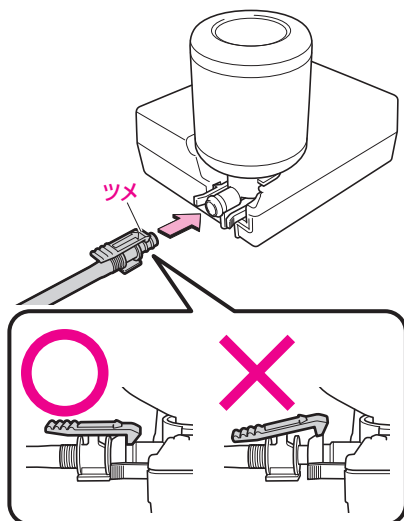
4 コンプレッサーに修理剤ボトルを強く押し込み固定する

- ボトルのツメが固定されるまで、しっかりと押し込んでください。



5 修理剤ボトルにホースを差し込む

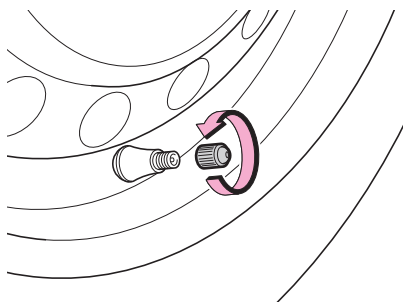
- ホースのツメが固定されるまでしっかりと差し込んでください。



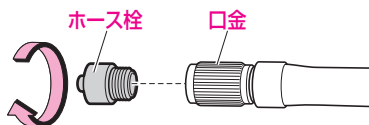
⚠ 注意

- 接続部が確実に固定されていることを確認してください。

6 パンクしたタイヤのバルブキャップを取り外す

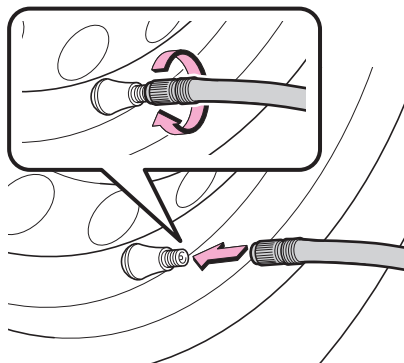


7 ホースの口金からホース栓を取り外す



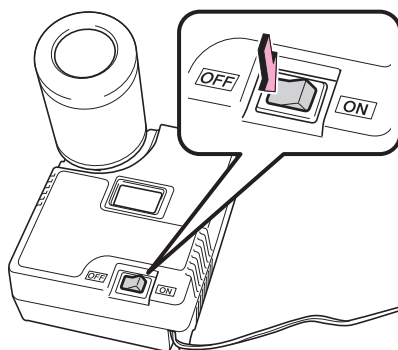
8 ホースの口金をパンクしたタイヤのバルブに接続する

- ホースの口金を回して最後までしっかりとねじ込みます。

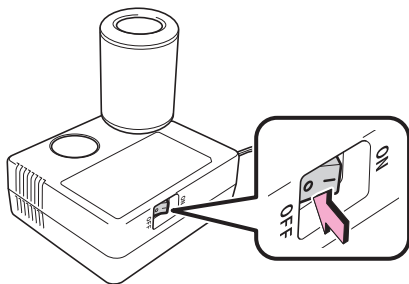


9 コンプレッサーの電源が“OFF”になっていることを確認する

タイプ A

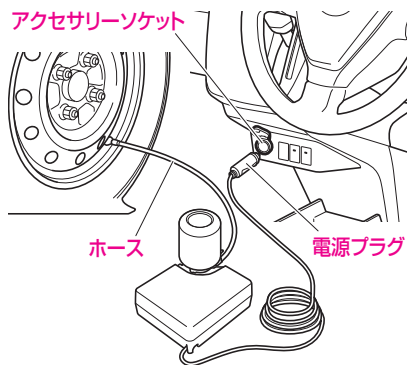


タイプ B



- 10 コンプレッサーの電源プラグを車両のアクセサリソケットに差し込む

アクセサリソケット



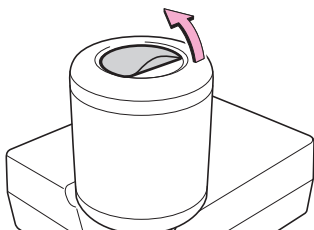
ホース

電源プラグ

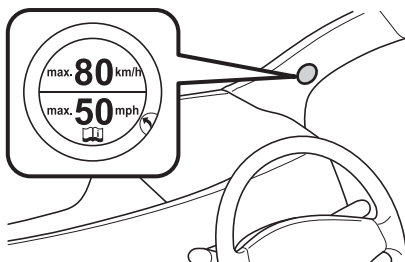
⚠ 注意

- 手順9までの作業を終えてから、アクセサリソケットに差し込んでください。

- 11 修理剤ボトルの速度制限シールをはがす



- 12 速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼る



⚠ 警告

- 速度制限シールは、ハンドルのパッド部などエアバッグ展開面に貼らないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- また、メーターやウインドガラスなど、運転のさまざまなことになるようなところに貼らないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 13 タイヤの指定空気圧を確認する

- 指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています。

- 14 エンジンを開始する

- 15 コンプレッサーの電源を“ON”にし、修理剤と空気を充填する

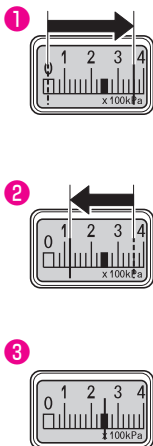
⚠ 注意

- コンプレッサーは 40 分以上連続して使用しないでください。モーターが過熱し損傷するおそれがあります。

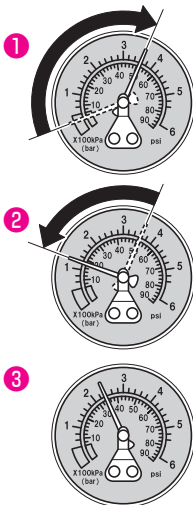
16 空気圧ゲージで確認しながら、指定空気圧になるまで昇圧する

- 1 コンプレッサーの電源を“ON”にしたあと、しばらくは修理剤を注入するため、一時的に空気圧ゲージが約300～400kPaまで上がります。
- 2 1分程度（低温の場合は5分程度）で実際の空気圧表示になります。
- 3 指定空気圧になるまで昇圧します。

〈タイプA〉



〈タイプB〉



● 次の場合は、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があるため、タイヤパンク応急修理セットで修理することができません。ダイハツサービス工場、または JAF などにご連絡ください。

- 修理剤が5分以内に充填できない
- 25分以内に指定空気圧まで上がらない

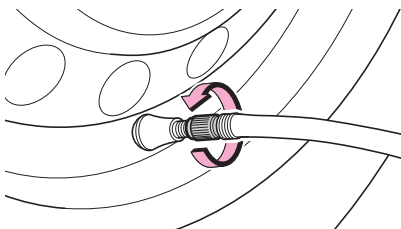
知識

- ダイハツサービス工場、またはJAFロードサービスについては別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

17 指定の空気圧まで昇圧できれば、コンプレッサーの電源を“OFF”にする

空気を入れすぎてしまったときは

ホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。



警告

- タイヤの空気を抜くときに、充填した修理剤が飛散するおそれがあります。修理剤が目に入らないように注意してください。

18 アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースの口金を取り外す

知識

- ホースの口金を取り外すときに修理剤がもれることがあります。

19 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

20 ホースの口金にホース栓を取り付ける

注意

- コンプレッサーに取り付けた修理剤ボトル、ホース、ホース栓は取り外さないでください。取り外すとボトル内に残った修理剤がこぼれるおそれがあります。

21 いったんボトル、コンプレッサー、ホースを接続したまま、ラゲージルームに収納する

22 空気が抜けるのを防ぐため、すみやかに走行を開始する

- 急加速・急ブレーキ・急ハンドルをさけ、80km/h 以下で慎重に運転してください。

23 約 5km 程度走行後、交通のさまたげにならない安全な場所に停車し、エンジンスイッチを“OFF”にする

24 タイヤの空気圧を空気圧ゲージで確認する

- コンプレッサーを車両に接続する
- エンジンを始動する
- コンプレッサーの電源を“ON”にして作動させたあと、電源を“OFF”にして空気圧ゲージで確認する

25 指定空気圧であれば、パンク応急修理を完了する

- 130kPa 以上で指定空気圧に満たない場合は、手順 6 ～ 23 を繰り返して行って、指定空気圧まで昇圧してください。

空気圧が 130kPa 以下に低下していたら

- タイヤパンク応急修理セットによる修理はできません。走行を中止し、ダイハツサービス工場、または JAF などにご連絡ください。

26 異常がなければ、すみやかにダイハツサービス工場まで走行する

- 急加速・急ブレーキ・急ハンドルをさけ、80km/h 以下の車速で慎重に運転してください。
- 100km 以上の距離を走行しないでください。

▼ 応急修理後の処置

修理剤を使用したタイヤは、すみやかに交換、修理を行ってください。交換、修理についてはダイハツサービス工場にご相談ください。

⚠ 注意

- 修理業者等にタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理セットを使用したことを知らせてください。
- ホイールは、付着した修理剤をふき取れば再使用できますが、タイヤのバルブは新しい物と交換してください。
- 修理剤とホースは再使用できません。使用後は新しい修理剤とホースをお求めください。詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

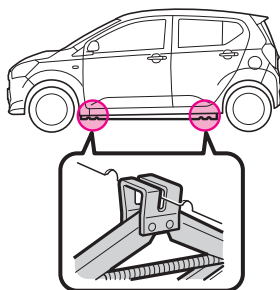
ジャッキの使いかた

⚠ 警告

- ジャッキアップしたお車の下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキが外れると体が車の下敷になり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジャッキアップするときはジャッキの上や下に物を挟まないでください。
- ジャッキアップするときは、必ず、駐車ブレーキをかけ、シフトレバーを“P”レンジに入れて、輪止めをしてください。お車が動き出すおそれがあります。
- ジャッキは砂や石ころのない安定した平らな場所を選んでセットしてください。ジャッキアップしたとき、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 備え付けのジャッキは、タイヤの交換、タイヤパンク応急処理およびタイヤチェーンの脱着以外には使用しないでください。
- ジャッキアップするときは、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをしてください。
- ジャッキは、セット位置以外にかけないでください。外れたり、車両を損傷するおそれがあります。
- ジャッキアップするときは、人や荷物をお車から降ろしてください。
- ジャッキは、伸ばすほど不安定になります。タイヤが地面から 3cm 以上離れないようにしてください。
- ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。
- タイヤのローテーション時などに、車載のジャッキを用いて、両車輪同時に上げるようなことはしないでください。接地しているタイヤが動き、車体がずれるおそれがあります。
- 備え付けのジャッキは、お客様のお車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

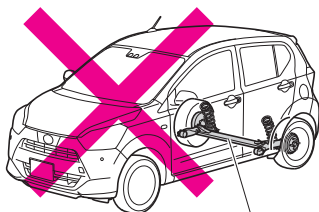
ジャッキをセットする位置

取り替えるタイヤに近いジャッキセット位置（切り欠きと切り欠きの間）にセットします。



⚠ 警告

- 2WD 車はリヤサスペンションビームにジャッキをかけないでください。正しくジャッキセット位置（切り欠きと切り欠きの間）にセットしないと、車が損傷したり、けがをすることがあります。



リヤサスペンションビーム

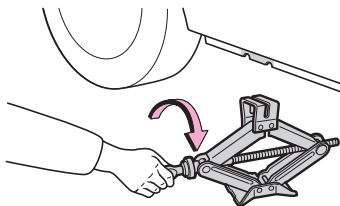
⚠ 注意

- ジャッキは必ずジャッキセット位置にセットしてください。

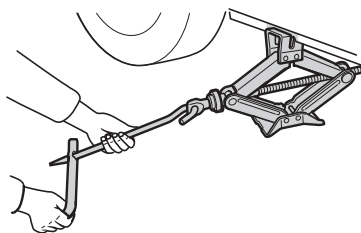
ジャッキのかけかた

▼ 操作手順

- 1 ジャッキを手で回して、セット位置（切り欠きと切り欠きの間）まで上げる

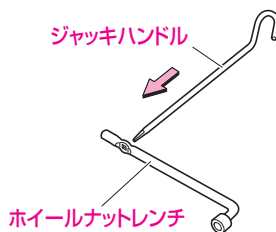


- 2 ジャッキが確実にセット位置（切り欠きと切り欠きの間）にかかっていることを確認し、ジャッキハンドルを使って、タイヤが地面から少し離れる位置まで車体を持ち上げる



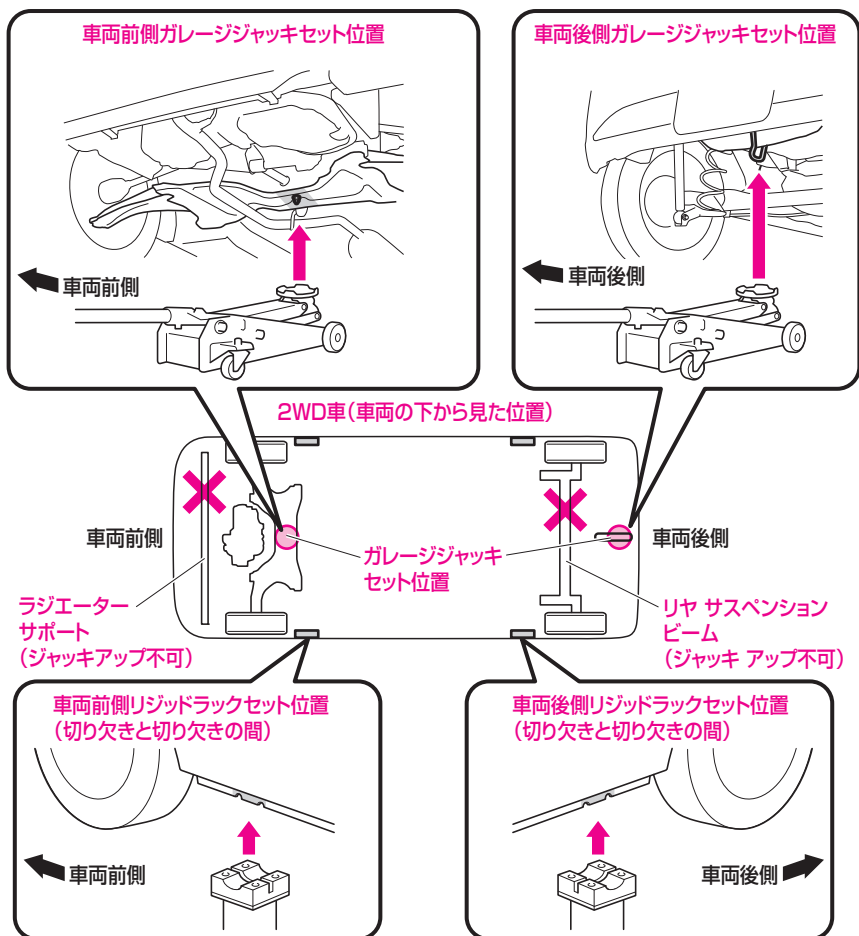
📖 知識

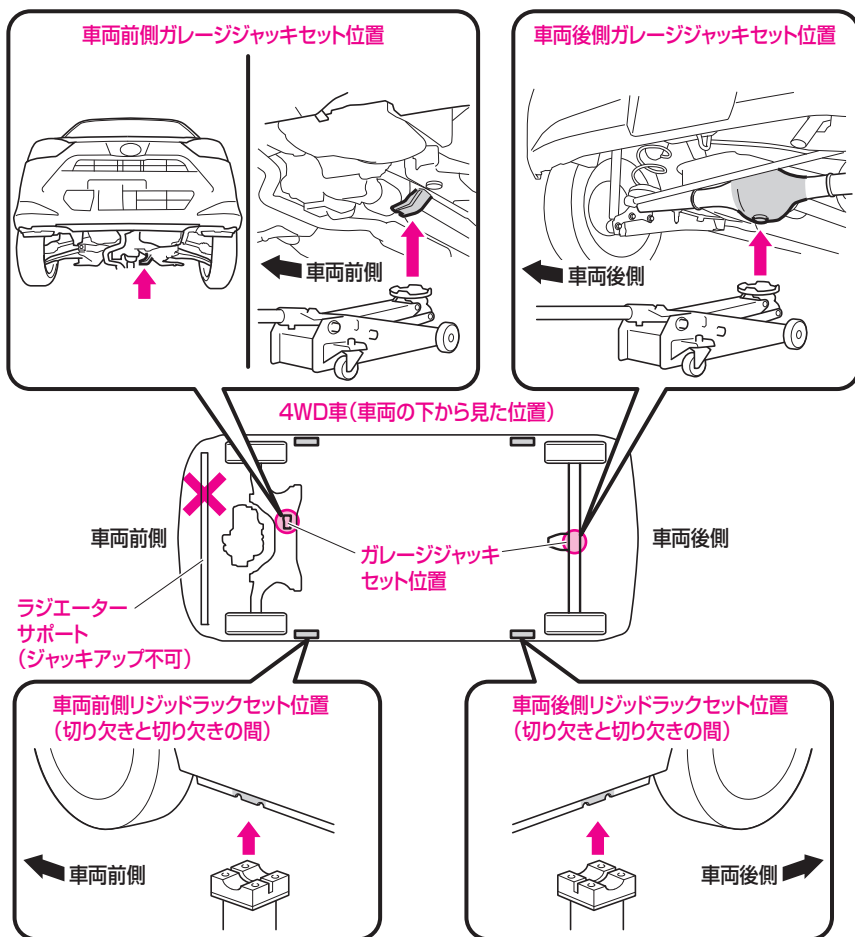
- ジャッキハンドルは図のように組み立てて使用してください。



ガレージジャッキ（市販品）を使用する場合

2WD 車





ガレージジャッキを使用する場合は、図のガレージジャッキ位置にセットしてジャッキアップを行ってください。その際は、必ずリジッドラック（市販品）をリジッドラックセット位置（切り欠きと切り欠きの間）にセットしてください。

警告

- ガレージジャッキおよびリジッドラックは、必ず正しい位置にセットしてください。正しい位置にセットしていないと、けがをしたり、車両が損傷したりするおそれがあります。

スタック（立ち往生）したとき

スタックから脱出するには

ぬかるみや砂地、深雪路などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、次の手順にしたがって脱出操作をしてください。

▼ 脱出操作をする前に

⚠ 警告

- 必ず周囲に他の車、物、または人がいないことを十分に確認してください。
スタックから脱出する際に、お車が前後に飛び出したり、あてがった石や木が飛散したりするおそれがあります。
- シフトレバーを操作するときは、アクセルペダルを踏んだまま操作しないでください。お車が急発進したり、トランスミッションなどに重大な損傷をあたえるなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセルペダルを過度に踏んで空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

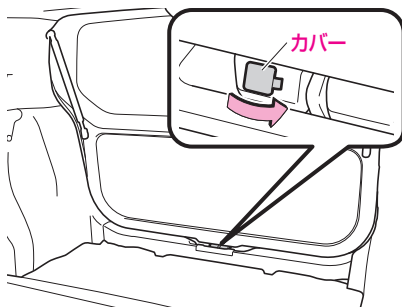
▼ 脱出手順

- 1 駐車ブレーキをかけ、シフトレバーを“P”レンジに入れ、エンジンを停止する
- 2 タイヤ前後の土や雪などを取り除く
- 3 スリップしているタイヤの下に、石や木などをあてがい滑り止めにする
- 4 エンジンを始動する
- 5 シフトレバーを“D”または“R”レンジに入れ、注意しながら、アクセルペダルを軽く踏む

バックドアが開かないとき

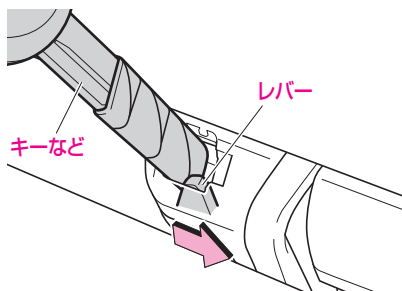
バックドアのロックを内側から解錠することができます。

1 カバーを開ける



2 メインキー、またはエマージェンシーキーの先端などを使ってレバーを矢印の方向に動かす

（エマージェンシーキーの取り出しかた → 144ページ）



- 傷が付くのを防ぐため、キーの先端などに布などを巻いて保護してください。

バッテリーがあがったとき

次のような症状が見られるとバッテリーあがりと考えられます。

- スターターが回らない
- スターターが回っても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない
- ヘッドランプがいつもより暗い
- ホーンの音が小さい、または鳴らない
- キーフリーシステム装着車の電子カードキーでドアが解錠しない

処置のしかた

▼ 処置を行う前に

⚠ 警告

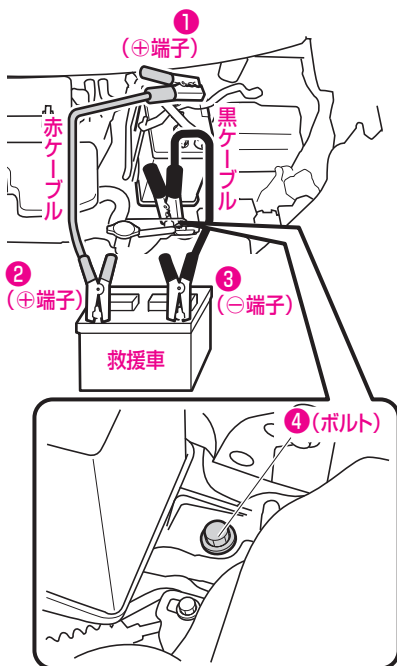
- 火気をバッテリーに近付けないください。バッテリーから発生する可燃ガスに引火、爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- バッテリー液が万一皮膚や目に付いてしまったら、その箇所を多量の水で十分洗浄して、ただちに医師の診断を受けてください。バッテリー液には希硫酸が含まれており、毒性、腐食性があります。
- 処置の手順でブースターケーブルをバッテリーあがり車のバッテリーの $\ominus$ 端子に接続しないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃ガスに引火する危険があります。
- バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限 (LOWER LEVEL) 以下になったまま使用または充電をしないでください。バッテリーの破裂 (爆発) の原因となるおそれがあります。
- ブースターケーブルを接続するとき、端子と端子を絶対に接触させないください。火花が発生し、引火する危険があります。

⚠ 注意

- 押しがけによる始動はできません。
- 必ず 12V バッテリー車と接続してください。
- ブースターケーブル接続の際には、 $\oplus$ 端子をボデー金属部や $\ominus$ 端子に接触させたり、逆に接続しないでください。
- ケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように、接続には十分注意してください。

▼ 処置の手順

- 1 バッテリーの $\oplus$ 端子のカバーを外す
- 2 赤ブースターケーブルを次の順に接続する
 - ① バッテリーあがり車の $\oplus$ 端子
 - ② 救援車の $\oplus$ 端子
- 3 黒のブースターケーブルを次の順に接続する
 - ③ 救援車の $\ominus$ 端子
 - ④ 未塗装の金属部(図に示すような固定された部分)



- 4 救援車 (電源側の車) のエンジンを始動し、エンジン回転を少し高めにし、約 5 分間バッテリーあがり車のバッテリーを充電する

5 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったん“ON”にしてからバッテリーあがり車のエンジンを始動する

6 バッテリーあがり車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルを接続順序の逆で外す

バッテリーを交換するときは

⚠ 警告

- バッテリーを固定する金具やバッテリー端子のナットを外したあとは、確実に締め付けてください。走行中にゆるんで外れると、ショートの原因となり、火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- バッテリーを交換するときは、このお車専用の eco IDLE 専用バッテリーに交換してください。専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化や eco IDLE によるアイドリングストップが正常に作動しなくなる原因となります。
- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。eco IDLE によるアイドリングストップが正常に作動しなくなります。

オーバーヒートしたとき

次の状態がオーバーヒートです。

- 水温警告灯が赤色に点滅・点灯し、警告ブザーが鳴ったとき
- ボンネットから蒸気が立ちのぼり、エンジンの出力が低下したとき

処置のしかた

お車を安全な場所に止め、次の処置をしてください。

⚠ 警告

処置を行う前に

- 水温が高いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。冷却水の圧力がラジエーターキャップにかかっているため、蒸気や熱湯が吹き出し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。突然、ファンが回転するため、手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 処置の手順

- 1 ボンネットから蒸気が出ているとき
 - エンジンを止めて、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。蒸気が出なくなったらエンジンを始動しボンネットを開け、風通しを良くします。
- 2 ボンネットから蒸気が出ていないとき
 - エンジンをかけたままボンネットを開け、風通しを良くします。
- 3 1 または 2 の処置を行ったあと、エンジンルームをチェックする
 - 次のような状態であれば、ただちにエンジンを止めてダイハツサービス工場にご連絡ください。
 - 冷却ファンが回転していないとき
 - ホース類などから蒸気や熱湯が漏れているとき
 - ラジエーターリザーバータンクの水がないとき
 - ファンベルトが切れているとき
- 4 水温警告灯が消灯し、警告ブザーが止まったらエンジンを止める
- 5 エンジンが十分に冷えてから冷却水の量、ファンベルトのゆるみ、ラジエーターのコア（放熱部）の著しい汚れやゴミの付着の有無などを点検する
- 6 冷却水が不足しているときは、補給する
 - 冷却水の補給は、別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

車両を緊急停止するには

万一、お車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

⚠ 警告

走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

- ブレーキの効が悪くなりハンドル操作が重くなるため、お車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、可能な限り減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

緊急停止方法

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

⚠ 警告

- ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

- 2 シフトレバーを“N”レンジに入れる

シフトレバーが“N”レンジに入った場合

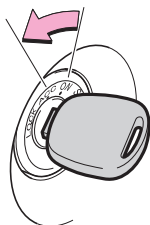
- 3 減速後、お車を安全な道路脇に停めて、エンジンを停止する

シフトレバーが“N”レンジに入らない場合

- 4 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
- 5 エンジンを停止する

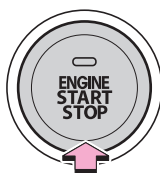
キーレスエントリー装着車

- エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止します。



プッシュボタンスタート装着車

- スイッチを 3 秒以上押し続けるか、3 回以上連打して、エンジンを停止します。



3秒以上押す、または3連打する

6 お車を安全な道路脇に停める

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができません。

⚠ 警告

走行中の警告

- 冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

📖 知識

水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

緊急脱出用ハンマー^{*1}の使用について

- 合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。
この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

^{*1} 詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

車中泊が必要なときは

警告

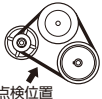
- 車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

- “スマートアシスト” “eco IDLE” “キープフリーシステム” “アミックス” はダイハツ工業株式会社の登録商標です。
- “VSC”、“TRC” はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。
- QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

ご愛車のために

- ・保証および点検・整備については、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますのでお読みください。
- ・お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書を車に付けておいてください。
 - ・本書は別冊の「メンテナンスノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
 - ・ご不明な点は、ご購入先のダイハツサービス工場（営業スタッフ）におたずねください。

サービスデータ

項目		サービスデータ
点火プラグ	メーカー	NGK
	プラグ型式	SILKR6D10G (イリジウムプラグ)
ファンベルト	たわみ量(mm) 押力98N(10kgf)時	7.9～9.7(点検時) 
		点検位置
アイドリング回転数(rpm)		800
ブレーキペダル	遊び(mm)	0.5～3.0
	床板とのすき間(mm) (踏力294N(30kgf)時)	73.8以上
駐車ブレーキ	引きしろ (操作力196N(20kgf)時)	4～7ノッチ
バッテリー		M-42
フューエルタンク	容量(ℓ) (無鉛ガソリン使用)	28(2WD車)、30(4WD車)
ウォッシュヤータンク	容量(ℓ)	1.5
エンジンオイル	使用オイルと交換時期	・ アミックス EXTRA 0W-20*1 ・ アミックス EXTRA 5W-30 6か月ごとまたは、 10,000kmごと(5,000kmごと*2) のどちらか早い方
	交換量(ℓ)	約2.9
オイルフィルター (オイルクリーナー)	交換時期	10,000kmごと(5,000kmごと*2)
トランスミッション オイル	交換時期	50,000kmごと
	使用オイル	アミックスCVTフルード・DFE*1 またはDC
	交換量(ℓ)	約2.4(ドレン)、約5.7(全容量)

項目		サービスデータ
トランスファ オイル	交換時期	100,000kmごと
	使用オイル	アミックスデファレンシャル ハイポイドギヤオイルSAE80W-90 (API分類GL-5)
	交換量(ℓ)	約0.57
リヤ デファレンシャル オイル	交換時期	30,000kmまたは2年(初回は3年)
	使用オイル	アミックス ATF D3-SP
ブレーキオイル	交換時期	2年ごと(初回は3年)
	使用オイル	アミックスブレーキフルード (DOT3相当)
エアクリーナー エレメント	交換時期	40,000kmごと(20,000kmごと*2)
冷却水 (除くリザーバー タンク)	交換時期	2年ごと(初回は3年)
	使用液	アミックスロングライフクーラント (高防錆力タイプ)
	規定濃度(%)	50
	交換量(ℓ)	約2.9

*1 省燃費性に優れたオイルです。

*2 シビアコンディション条件での定期交換の場合
シビアコンディション条件とは、走行距離大(20,000km以上/年)や
短距離走行の繰り返し(8km以下/回)または外気温が氷点下での繰り返し
走行が多い場合などに適用します。
詳しくは別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

△ 注意

CVT 車のトランスミッションオイルを交換する場合

● ダイハツ純正オイル (アミックス CVT フルード・DFE または DC) のみご使用ください。
ほかのオイルを使用したり、混合して使用すると、故障するおそれがあります。
オイルの交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。

タイヤサイズ	タイヤ空気圧 (空車時：kPa(kgf/cm ²))		タイヤの溝の 深さ(mm)	タイヤ位置 交換時期
	前 輪	後 輪		
	一般	高速	一般	高速
155/70R13 75S	260(2.6)		1.6以上	5,000kmごと
155/65R14 75S				

指定のタイヤサイズは、車種・グレードなどにより異なります。
運転席側ドア開口部に貼り付けしてあるラベルで確認してください。

お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
お近くのダイハツ販売会社または下記までお願いいたします。
ダイハツお客様コールセンター

フリーコール  0800-500-0182
受付時間 9:00～17:00
〒563-8651 大阪府池田市ダイハツ町1番1号



取扱説明書(抜粋版)は従来に比べ、大幅にページ数を削減しているため、
印刷や輸送に伴うCO2排出量の低減が見込まれます。
ダイハツは持続可能でより良い社会の実現にこれからも貢献していきます。

弊社におけるお客様の個人情報の取り扱いについては、ダイハツ工業株式会社ホームページにて
掲載しております。(https://www.daihatsu.com/jp/privacy.html)

01999-B2600
2025年 4 月11日
2024年 9 月10日初版
2025年 4 月18日2版